

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第206集

高師町遺跡群

和田上遺跡Ⅱ

長野県佐久市瀬戸和田上遺跡 第2次調査

馬瀬口遺跡群

馬瀬口遺跡Ⅱ

長野県佐久市瀬戸馬瀬口遺跡 第2次調査

2013.3

中部電力株式会社
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第206集

高師町遺跡群

和田上遺跡Ⅱ

長野県佐久市瀬戸和田上遺跡 第2次調査

馬瀬口遺跡群

馬瀬口遺跡Ⅱ

長野県佐久市瀬戸馬瀬口遺跡 第2次調査

2013.3

中部電力株式会社
佐久市教育委員会



和田上古墳墳丘上の石碑

昭和8年刊行の『南佐久郡の考古学的調査』で南佐久郡縄文時代大遺跡の双壁と八幡一郎氏により紹介されているように、和田上遺跡は古くから知られていた。さらに、遡って明治29年8月には、帝国大学理科大学教授坪井正五郎氏が和田上遺跡の調査に訪れている。氏と地元関係者が煙滅し易い遺跡の保護・保存・研究の進展を願った巨大な碑が、調査地点に隣接する和田上古墳墳丘上に建立されている。

石器使用人民棲息之趾
凡古物遺跡二三類ノ別有リ史書ニ徴シテ其何タルヲ知ルヲ得ベキモノ記録未
ダ備ハラザル時期ニ属スルモノ及ビ文字ノ傳フル所ニ先ズルモノ是ナリ第
一ヲ有史時代第二ヲ原史時代第三ヲ先史時代ノ古物遺跡ト云フ信濃國ノ有史
時代古物遺跡ニ富ムハ普ク人ノ知ル所原史時代古物遺跡ニ乏シカラザルハ夙
ニ考古家ノ稱フル所而シテ近時人類學ニ志有ル者先史時代古物遺跡モ亦少カ
ラザルヲ云フ余曩ニ帝國大學ノ命ヲ奉ジテ南佐久更級埴科ノ三郡ヲ遍歴シ專
ラ第三類ニ関スル調査ヲ爲シテ眞ニ比類ノ遺跡甚多キヲ認メタリ南佐久郡中
瀬村大字瀬戸字和田上ニモ其一ヲ存ス余ガ之ヲ實踐シタルハ明治二十九年八
月二十日ニシテ此時嚮導ノ勞ヲ採ランタルハ多年古物遺跡ニ意ヲ注ギ居ラレ
タル同村神職青木造氏ナリ余ハ同行諸氏ト共ニ石鏃石匙打製石斧凹石土器等
ヲ獲テ此地ノ石器使用人民棲息ノ趾ナルヲ明カニセリ此人民ハ太古ヨリ廣ク
日本諸地方ニ繁殖セシ者ニシテ其隆盛ノ時ハ今ヲ距ル大畧三千年ノ昔ト云テ
可ナリ有史時代ノ古戰場原史時代ノ古墳墓ノ如キハ之ヲ探ル事敢テ難シトゼ
ザルモ先史時代ノ遺跡ニ至リテハ少シク注意ヲ怠レバ忽チ湮滅スルノ恐レ有
リ善イ哉碑ヲ建テテ其所在ヲ示スノ舉有ルヤ發起人諸氏余ニ文ヲ徴ス即チ此
記ヲ作りテ責ヲ塞グ後ノ遺跡實踐古物採集ニ志有ルノ士若シ之ヲ以テ道標ト
ナス事有ラバ啻ニ余ガ幸ノミナラス諸氏ノ意モ達シタリト云フ可キナリ
明治二十九年十一月 帝國大學理科大学教授 坪井正五郎 撰
神職堀籠好雄謹書



前方中央の台地上が和田上遺跡ⅡB地区、左側の台地に勝負沢遺跡・寄山遺跡が存在した。豊かな湖の幸を授かった旧志賀湖畔の原始・古代の集落址である。





和田上遺跡Ⅱ B地区D41号土坑

長軸長2.45mの長方形をした石棺墓である。小口側に熔結凝灰岩の平石を立積みしている。小諸市岩下遺跡・石神遺跡に類例がある。



管玉(碧玉)
(和田上遺跡Ⅱ B地区H4)



小型甕
(弥生時代栗林式)
(和田上遺跡Ⅱ A地区H1)



1:4
甕(弥生時代栗林式)
(和田上遺跡Ⅱ B地区H2)



和田上遺跡Ⅱ B地区M1号溝状遺構断面

溝の幅1.44~1.76m溝の底は0.17mで、防御施設にふさわしい「V」字形の断面をしている。



和田上遺跡Ⅱ B地区M1号溝状遺構

検出された長さ22.8mの弥生時代中期栗林式期の環濠である。佐久地区では、平賀後家山遺跡について2例目である。



1:4
鉢(弥生時代栗林式)
(和田上遺跡Ⅱ B地区M1号)

1:4
甕(弥生時代栗林式)

例 言

1. 本書は、中部電力株式会社が行う佐久リサーチパーク供給線新設工事に伴う馬瀬口遺跡群馬瀬口遺跡Ⅱ及び高師町遺跡群和田上遺跡Ⅱの発掘調査報告書である。
2. 事業主体者 長野市柳町18 中部電力株式会社
3. 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長 土屋盛夫
4. 遺跡名及び所在地 馬瀬口遺跡Ⅱ(SNKⅡ)佐久市瀬戸86-1外
和田上遺跡Ⅱ(WDⅡ) 佐久市瀬戸2-2、30-1外
5. 調査期間及び面積 馬瀬口遺跡Ⅱ
発掘調査 平成23年4月4日～平成23年6月8日
整理調査 平成23年4月26日～平成23年10月18日
平成24年4月10日～平成25年3月 報告書刊行
開発面積 727㎡ 調査面積 43.2㎡
和田上遺跡Ⅱ
発掘調査 平成23年4月4日～平成23年6月8日
整理調査 平成23年4月26日～平成23年10月18日
平成24年6月29日～平成25年3月 報告書刊行
開発面積 681㎡ 調査面積 350.25㎡
6. 発掘調査の担当 林幸彦・佐々木宗昭
7. 石質の鑑定は、羽毛田卓也が担当した。
8. 出土遺物自然科学分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
9. 本書及び関係資料等は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略記号は、竪穴住居址-H 土坑-D 溝状遺構-M ピット-Pである。
2. 挿図の縮尺は、遺構1/80・遺物1/4が基本である。挿図毎にスケールを示した。
3. 遺構の海拔標高は各遺構毎に統一し、水系標高を標高として記した。
4. 土層の色調は1988年版「新版 標準土色帖」に基づいた。
5. 遺物挿図番号と遺物写真番号及び遺物観察表番号は一致する。
6. 調査区は公共座標の区割りにしたが、間隔は4m×4mに設定した。
7. 遺構名は変更等により欠番が生じている。
8. 挿図中のスクリーントーンは、以下のことを示す。



地山断面



床下の埋土
自然面(石器)



柱痕



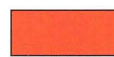
粘土
磨面(石器)



焼土



黒色処理(土器)



赤色塗彩



須恵器断面

目 次

巻頭図版

例言・凡例・目次

第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 調査の経緯 1

1. 調査に至る経緯 1

2. 調査体制 1

3. 調査の経緯 1

第 2 節 調査の概要 1

1. 遺跡の立地と環境 1

2. 基本層序 2

3. 検出遺構と遺物の概要 2

第 II 章 遺構と遺物

第 1 節 和田上遺跡 II A 地区の遺構と遺物 2

1. 竪穴住居址 2

2. 土坑 8

第 2 節 和田上遺跡 II B 地区の遺構と遺物 9

1. 竪穴住居址 9

2. 土坑 16

3. 溝状遺構 28

4. ピット 32

5. 遺構外出土遺物 35

第 3 節 馬瀬口遺跡 II の遺構と遺物 35

第 4 節 調査のまとめ 35

付表

付篇 和田上遺跡 II の自然科学分析 (パリノ・サーヴェイ株式会社) 48

図版

第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 調査の経緯

1. 調査に至る経緯

今回、中部電力株式会社により佐久リサーチパーク供給線新設工事が計画された。佐久市横和宮の上遺跡群・西妻神遺跡から瀬戸馬瀬口遺跡群・高師町遺跡群までの総延長約 3 km の範囲である。宮の上遺跡群と西妻神遺跡内は市街地現道路敷きのこと、範囲が 0.8 m と極狭であり工事中立ち会うこととした。馬瀬口遺跡群と和田上遺跡群は、遺跡の状況把握のため平成 22 年 11 月 26 日～12 月 7 日試掘調査を実施した。両遺跡から遺構が検出され、遺物が出土した。保護協議の結果、平成 23 年度に記録保存の発掘調査を実施することになった。

2. 調査体制

平成 23 年度

調査主体者	佐久市教育委員会	教育長 土屋 盛夫	
事務局	社会教育部長	伊藤 明弘	社会教育部次長 藤巻 浩
	文化財課長	吉澤 隆	文化財係長 三石 宗一
	文化財調査係専門員	林 幸彦 須藤 隆司 小林 眞寿 羽毛田卓也	
	文化財調査係	並木 節子 富沢 一明 上原 学 神津 一明(10月～)	
		井出 泰章(~9月) 出澤 力(~6月) 久保 浩一郎	

平成 24 年度

調査主体者	佐久市教育委員会	教育長 土屋 盛夫	
事務局	社会教育部長	伊藤 明弘	文化財課長 吉澤 隆
	文化財係長	三石 宗一	
	文化財調査係専門員	須藤 隆司 小林 眞寿 羽毛田卓也 富沢 一明 上原 学	
	文化財調査係	並木 節子 神津 一明 久保 浩一郎 林 幸彦(囑託)	
調査体制	調査担当者	林 幸彦 佐々木宗昭	調査副主任 堺 益子
	調査員	赤羽根充江 浅沼勝男 磯貝律子 市川光吉 飯森成英 岩崎重子 岩松茂年 白田絢佳 白田 猛 柏木義雄 加藤ひろ美 狩野小百合 神津和子 神津千春 小林節子 小林千勝 坂井一夫 澤井知春 清水律子 副島充子 田中ひさ子 土屋邦子 中山清美 花里佐恵子 林まゆみ 羽毛田利明 平林麻朗 広瀬梨恵子 堀籠保子 依田三男 柳沢孝子 横尾敏雄 渡辺広野	

3. 調査の経緯

平成 23 年 4 月 4 日～6 月 3 日 馬瀬口遺跡Ⅱ・和田上遺跡Ⅱ表土除去。遺構確認・遺構記録。
4 月 4 日～7 日 近隣挨拶、器材搬入、調査区設定。4 月 19 日和田上遺跡Ⅱ B 地区重機で表土除去。4 月 20 日測量杭打設。4 月 28 日和田上遺跡Ⅱ A 地区埋め戻し。6 月 3 日～6 日和田上遺跡Ⅱ B 地区埋め戻し。6 月 6 日～8 日器材撤収・整備。
4 月 26 日～10 月 18 日現場と併行して遺物整理作業。

平成 24 年 11 月 2 日～平成 25 年 3 月 25 日 実測・写真撮影。原稿の執筆、報告書の作成。

第 2 節 調査の概要

1. 遺跡の立地と環境

高師町遺跡群・馬瀬口遺跡群は、志賀川右岸浅間第一軽石流堆積地南端の台地上に立地し、標高は 697 m 内外を測る。高師町遺跡群和田上遺跡は古く知られていた。出土する縄文時代遺物の種類・数量の豊富



第 1 図 和田上遺跡Ⅱ・馬瀬口遺跡Ⅱ位置図 (1 : 50,000)

さは、南佐久郡佐久穂町の佐久西小学校裏遺跡と共に「南佐久郡大遺跡の双璧」と、昭和八年刊行の『南佐久郡の考古学的調査』で八幡一郎により紹介されている。さらに遡って、日本人類学会を発足させた坪井正五郎が明治29年8月に和田上遺跡の調査に訪れている。坪井正五郎と地元関係者が煙滅し易い遺跡の保護・保存・研究の進展を願った巨大な石碑が、調査地点に隣接する和田上古墳墳丘上に建立されている。和田上遺跡の東方眼下に展開する水田地帯は、かつて食料資源が豊富な湖であった。志賀湖である。戦国期の佐久郡絵図に志賀川・香坂川・瀬早川・霞川の下流に志賀湖が明瞭にえがかれている。周辺には、この志賀湖を生活のよりどころの一端とした縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世の遺跡が数多く知られている。湖の南縁台地上現在の佐久リサーパークに存在した寄山遺跡や勝負沢遺跡では、縄文時代前期・中期の竪穴住居址100軒等が調査された。台地北端には、湖に臨む寄山古墳も築かれていた。この調査では、15,800年前に大規模な火砕流(浅間火山第一軽石流)が志賀湖を乗り越えたことが検証された。旧石器時代の植生が窺えるマツ科針葉樹の埋没樹の自然科学分析の結果である。今回検出された火砕流にパックされた埋没樹の分析も同様な結果を示している。湖北縁の台地上にある戸坂遺跡群の4次にわたる発掘調査で縄文時代中期・弥生時代後期・古墳時代後期・平安時代の集落の一端が検出されている。第2次・第4次調査で弥生時代後期の環濠と推定されている大きな溝状遺構が発見され注目されている。さて、和田上遺跡は前述のように明治時代以前から縄文時代中期中葉の深鉢・後期の浅鉢の完形品などの土器や石器が様々な人々によって大量に採集されてきた。遺物の時代は、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、に及ぶ。本調査では、縄文時代草創期の爪形文土器や早期の押形文土器も発見されている。発掘調査は、昭和54年に和田上南遺跡(和田上遺跡第1次調査)で行われている。弥生時代中期栗林期が4軒、平安時代が4軒検出された。平安時代の住居址から土錘が出土している。今回の調査でも土錘と石錘が検出され、志賀湖畔集落の漁獵が積極的に推測できる。馬瀬口遺跡の第1次調査で古墳時代住居址4軒、平安時代住居址4軒等が発見された。南方の台地下志賀川第1段丘上の和田遺跡から、縄文時代後期堀之内式期の敷石住居址1軒が調査されている。豊かな湖の幸をもたらした志賀湖は、戦国末期にその姿を変える。佐久郡を領地とした小諸城主仙石氏が文禄年間に志賀湖を干拓し、志賀湖を耕地化した。今回の調査地点である電力送電塔の東南眼下の川を堰き止める堤状の潜り岩の開鑿である。現在、広大な家畜改良センター長野牧場が展開している高師町遺跡群と馬瀬口遺跡群一帯の水利に乏しい火砕流堆積地の新田開発に挑んだ人々の歴史もある。まぼろしの村杉山新田開発である。常木用水や湯川からの用水確保は困難で、牧場用地内北東にある八幡宮や稲荷社付近にあった松ヶ池などの溜池が頼りであったようである。延宝7年(1679年)立村した杉山新田村は、寛延元年(1747年)70年間で消滅したという。和田上遺跡の調査地点は、杉山新田村の南東村境にあたる。

2. 基本層序

浅間火山軽石流堆積層が南方に漸次標高を下けているが、和田上遺跡一帯は逆に小高くなる。このため、南に下がる低地が両遺跡間から北東に延び、和田上遺跡の北側に展開する。両遺跡とも浅間火山軽石流堆積層の上面で、遺構確認された。馬瀬口遺跡では、Ⅱ層中に部分的に砂層が見られた。

3. 検出遺構と遺物の概要

和田上遺跡ⅡA地区 竪穴住居址6軒(弥生時代中期、平安時代)、土坑2基。遺物 縄文中期後半・後期前半土器、弥生中期土器、土師器、須恵器、土製品(土錘)、磨製石

和田上遺跡ⅡB地区 竪穴住居址7軒(縄文時代後期、弥生時代中期、平安時代)、土坑45基、溝状遺構4条、ピット36基。遺物 縄文中期後半・後期前半土器、弥生中期土器、土師器、須恵器、土製品(土錘)、磨製石

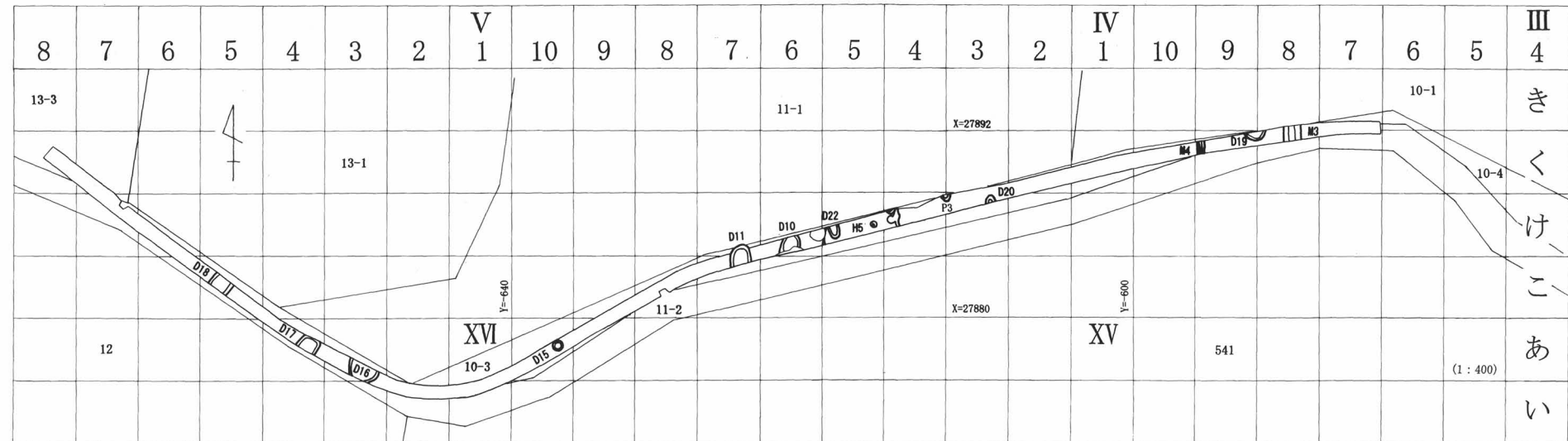
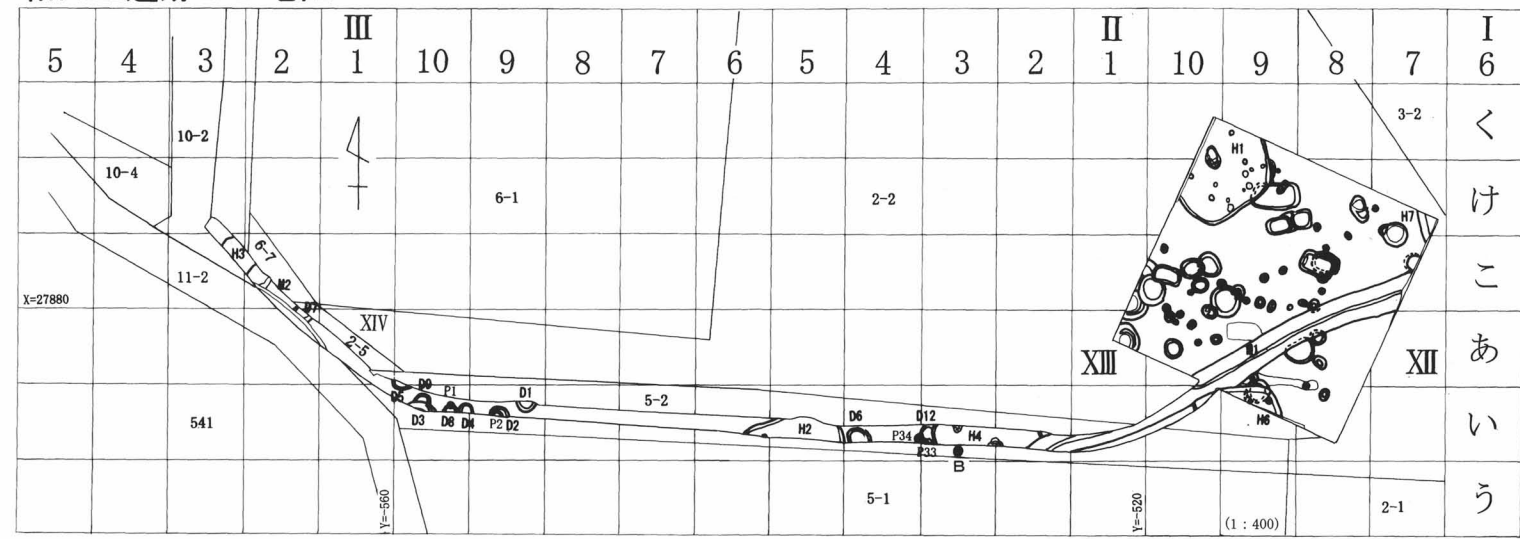
馬瀬口遺跡Ⅱ 竪穴住居址1軒(平安時代)、溝状遺構4条、ピット2基。遺物 土師器、須恵器、

第Ⅱ章 遺構と遺物

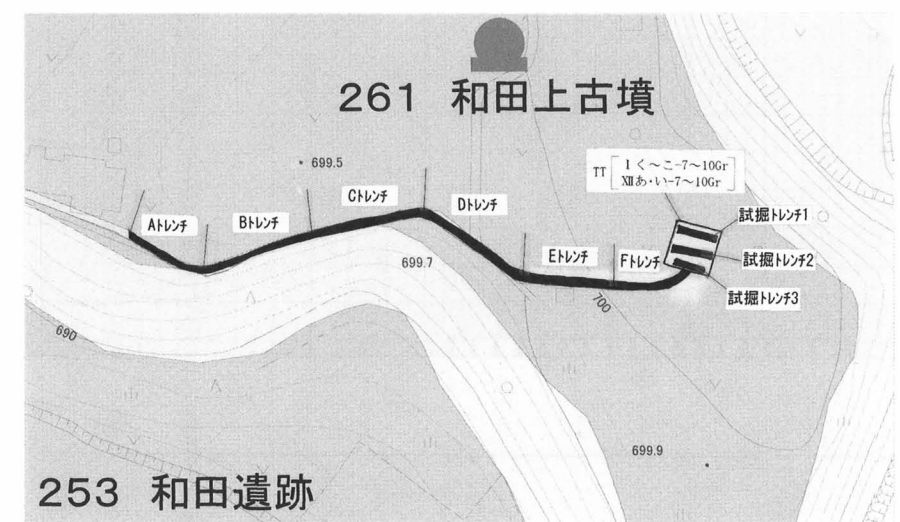
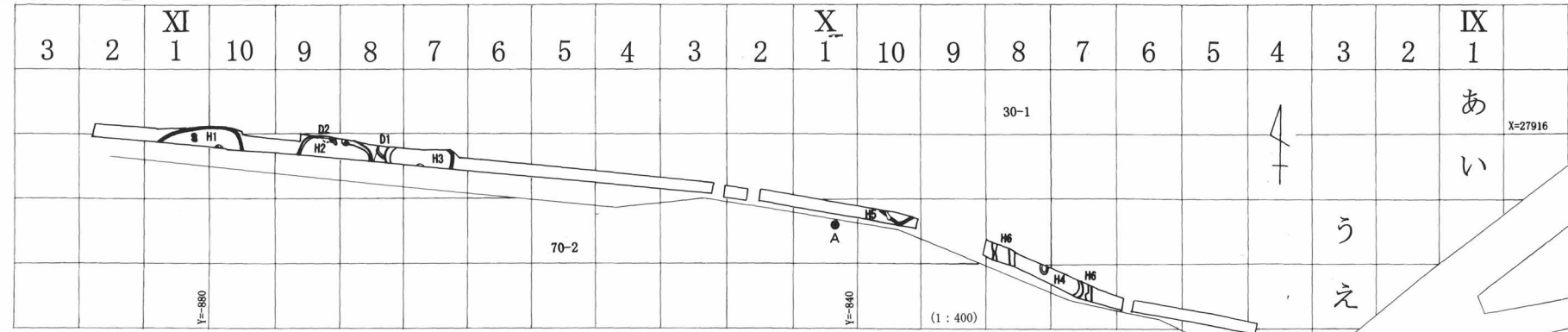
第1節 和田上遺跡ⅡA地区の遺構と遺物

1. 竪穴住居址

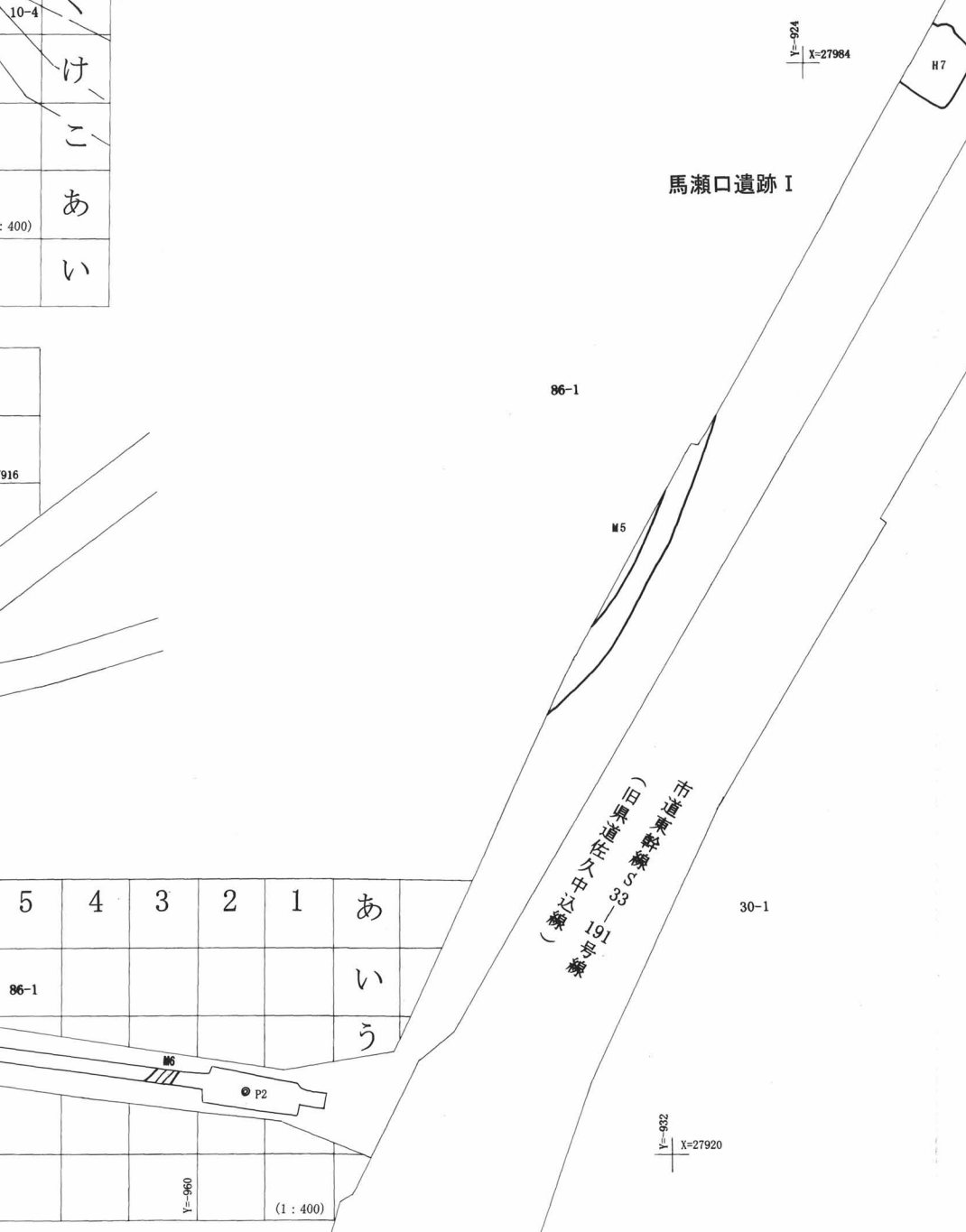
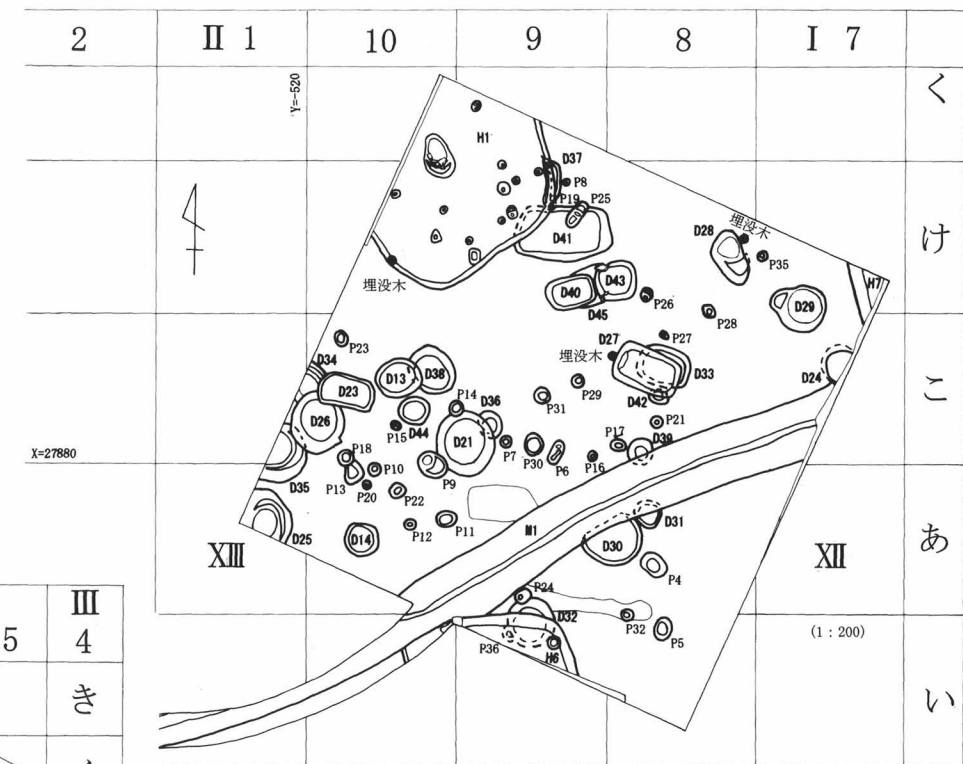
和田上遺跡Ⅱ B地区



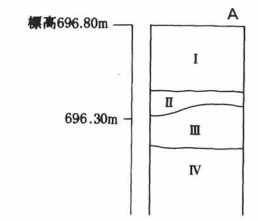
和田上遺跡Ⅱ A地区



和田上遺跡調査区設定図(2) (1:2000)

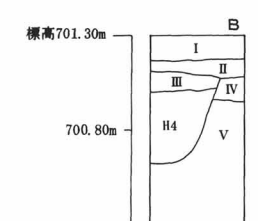


第2図 和田上遺跡Ⅱ・馬瀬口遺跡Ⅱ調査全体図



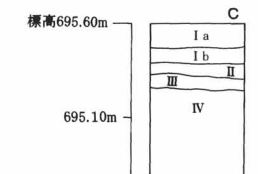
和田上遺跡Ⅱ A地区

- I層 黒褐色土(10YR3/2)耕作土。
- II層 暗褐色土(10YR3/3)軽石・砂少量含む。
- III層 褐色土(10YR4/6)かたくしまる。
- IV層 黄褐色土(10YR5/6)かたくしまる。場所により明黄褐色土(10YR6/6)・赤褐色土(2.5YR4/6)・明褐色土(5YR7/2)がみられる。浅間火山軽石流堆積層。浅黄褐色の軽石多量。



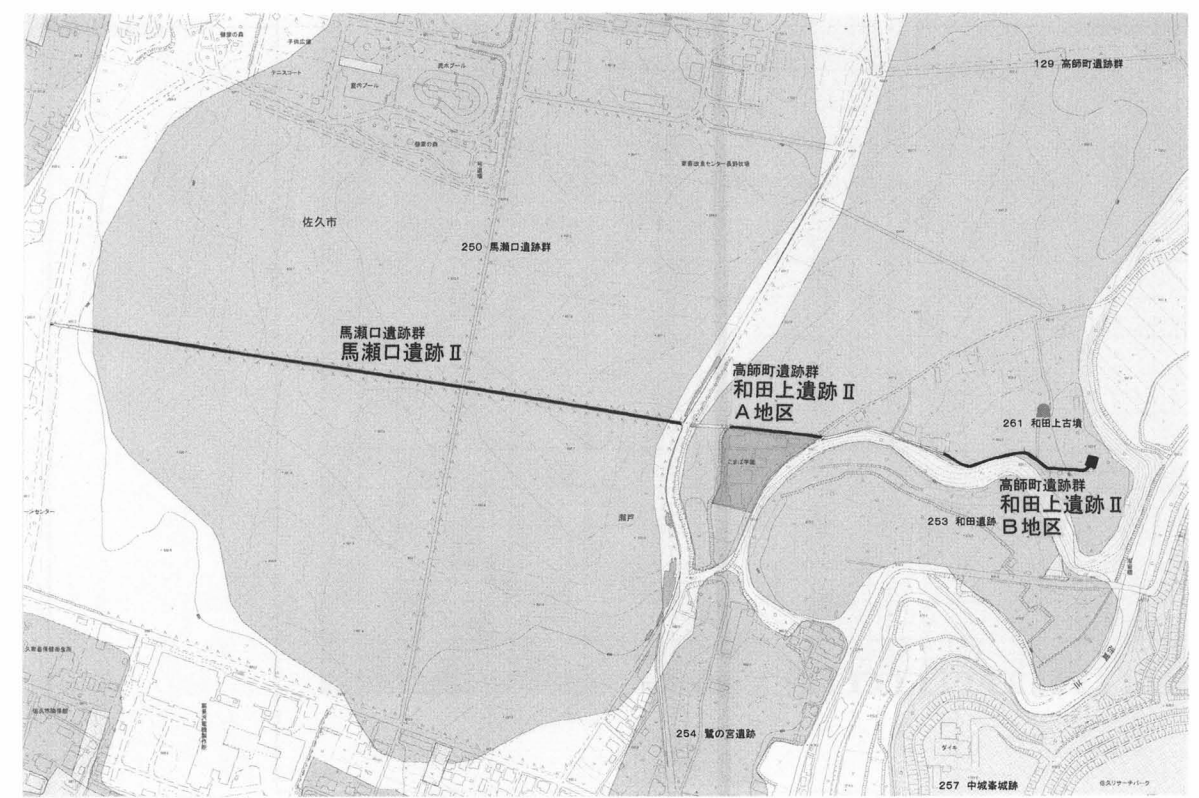
和田上遺跡Ⅱ B地区

- I層 黒褐色土(10YR3/2)耕作土。
- II層 黒色土(10YR2/1)
- III層 黒色土(10YR2/1)かたくしまる。
- IV層 黒褐色土(10YR2/3)にびい褐色土(7.5YR5/3)の小ブロック含む。
- V層 にびい褐色土(7.5YR5/3)浅間火山軽石流堆積層。浅黄褐色の1~5cm大軽石多量。



馬瀬口遺跡Ⅱ

- Ia層 盛土(牧場内通路)
- Ib層 旧表土
- II層 黒褐色土(10YR2/2)浅黄褐色の1~5cm大軽石多量。
- III層 暗褐色土(10YR3/3)
- IV層 黄褐色土(10YR5/6)浅間火山軽石流堆積層。浅黄褐色の1~5cm大軽石多量。

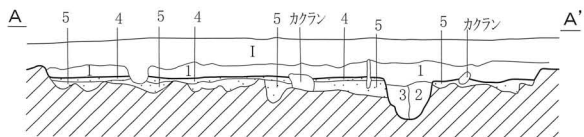
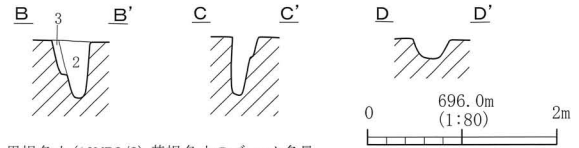
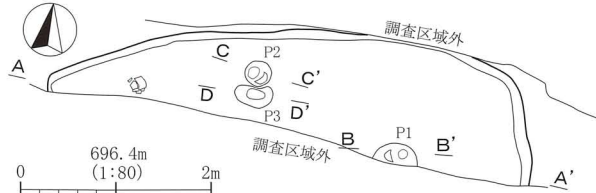


馬瀬口遺跡Ⅱ・和田上遺跡Ⅱ 調査区設定図(1) (1:8000)

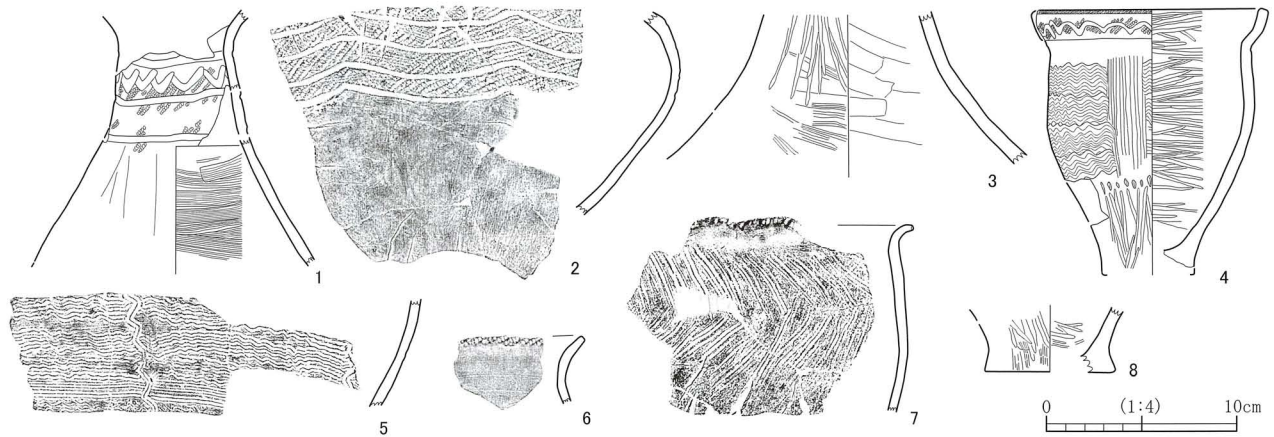
(1) H1号住居址

Ⅱ区西端にあり、大半は南側の調査区域外となる。P2は棟持柱、P1は主柱穴である。床は堅く平坦である。遺物は弥生土器の壺・甕が出土した。 本址は弥生時代中期栗林式期に位置づけられる。

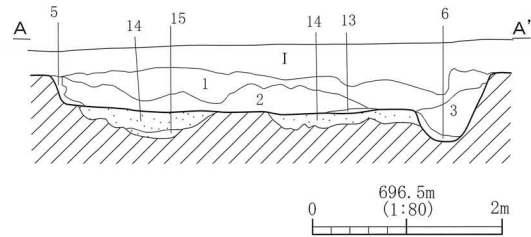
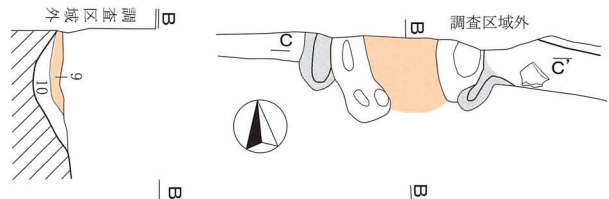
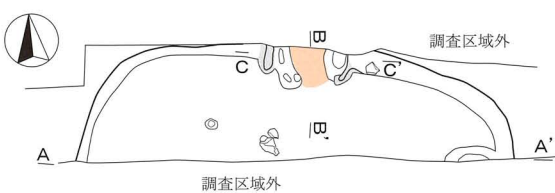
H1号住居址



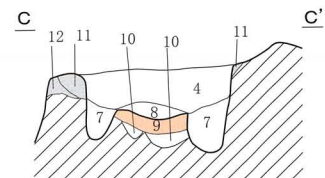
- 1層 黒褐色土 (10YR2/3) 黄褐色土のブロック多量。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/3) しまりない。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/3) 黄褐色土のブロック多量。
- 4層 暗褐色土 (10YR3/4) 黄褐色土の粒子多量。床。
- 5層 褐色土 (10YR4/4) 黄褐色土のブロック多量。掘方埋土。



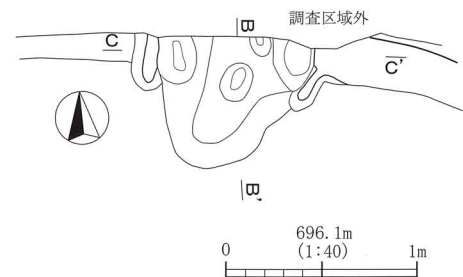
H2号住居址(1)



- 1層 黒褐色土 (10YR2/2) 黒褐色土のブロック少量。
- 2層 暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色土の小ブロック少量。
- 3層 暗褐色土 (10YR3/4) 黄褐色土の小ブロック多量。
- 4層 暗褐色土 (10YR3/3) 暗赤灰色土の粘土ブロック多量。
- 5層 褐色土 (10YR4/6)

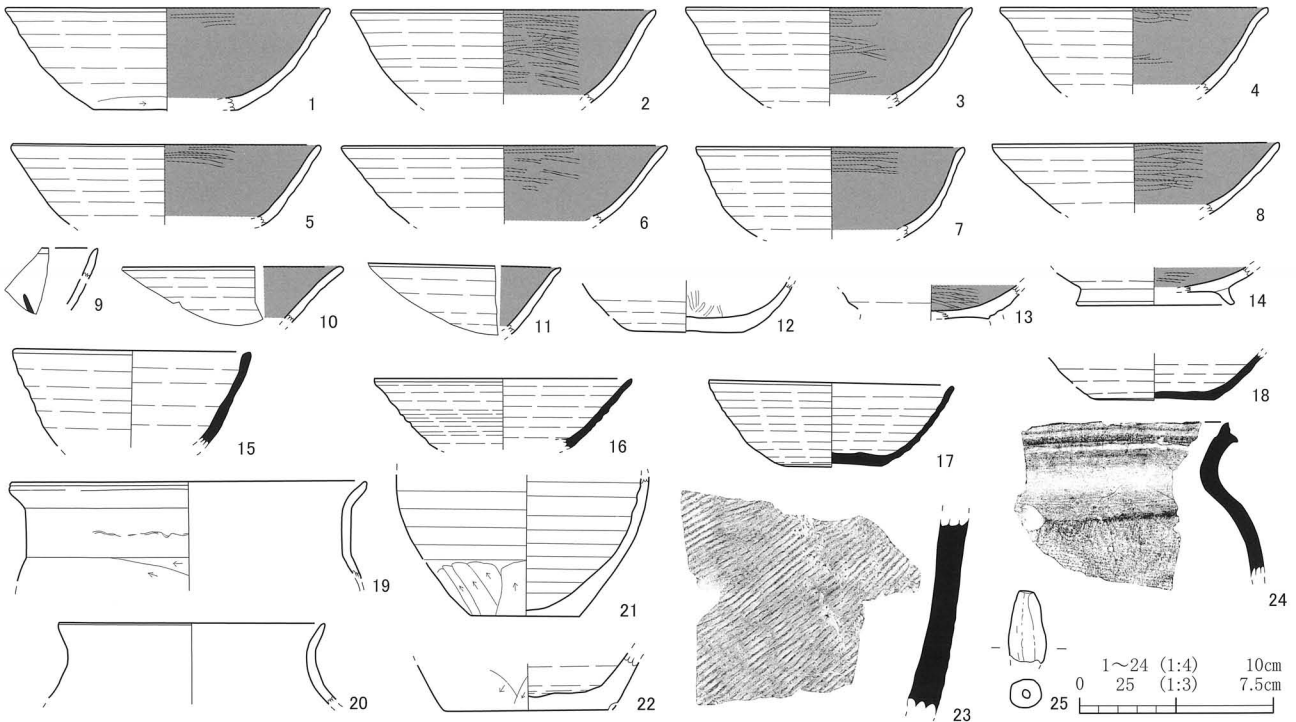


- 6層 暗褐色土 (10YR3/3) にぶい橙色土の小ブロック多量。
- 7層 暗褐色土 (10YR3/3) 暗赤灰色土の粘土ブロック多量。粘土小ブロックと灰を含む。
- 8層 にぶい黄褐色土 (10YR7/3) 灰。
- 9層 赤褐色土 (2.5YR4/6) 焼土 (10層の焼けたもの)。
- 10層 暗赤褐色土 (5YR3/2)
- 11層 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 粘土。
- 12層 黒褐色土 (7.5YR3/2)
- 13層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。(暗赤灰色土の粘土ブロック含む)。
- 14層 暗褐色土 (10YR3/4) 掘方埋土。にぶい橙色土の小ブロック多量。
- 15層 黒褐色土 (10YR2/2) 炭・灰含む。

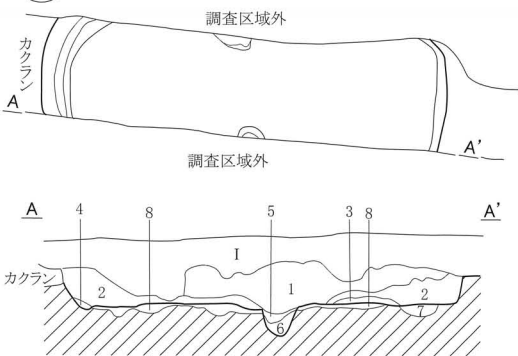


第3図 和田上遺跡Ⅱ A地区 H1号住居址・H2号住居址(1)

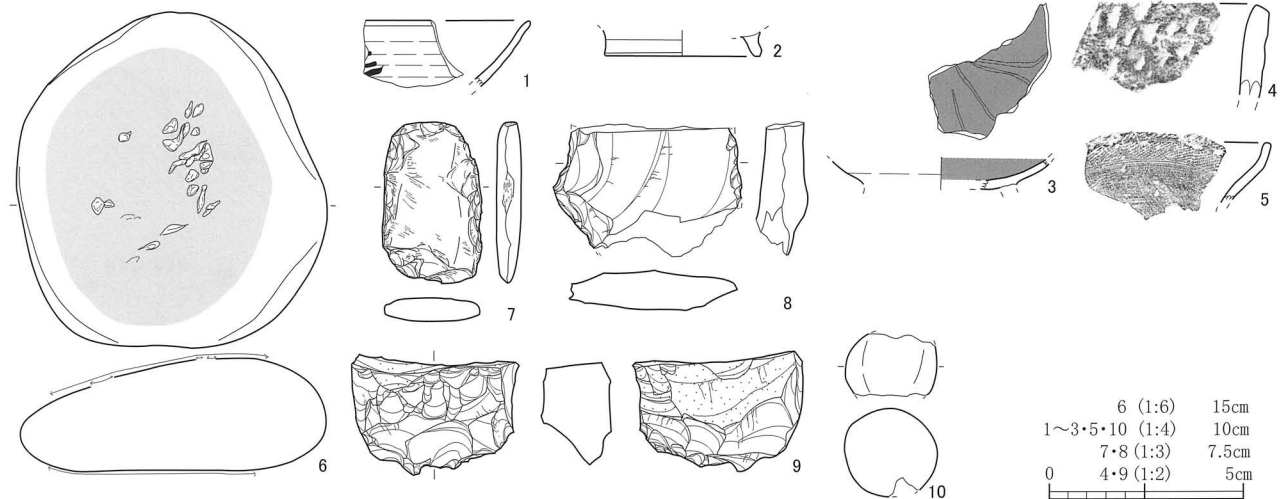
H2号住居址(2)



H3号住居址

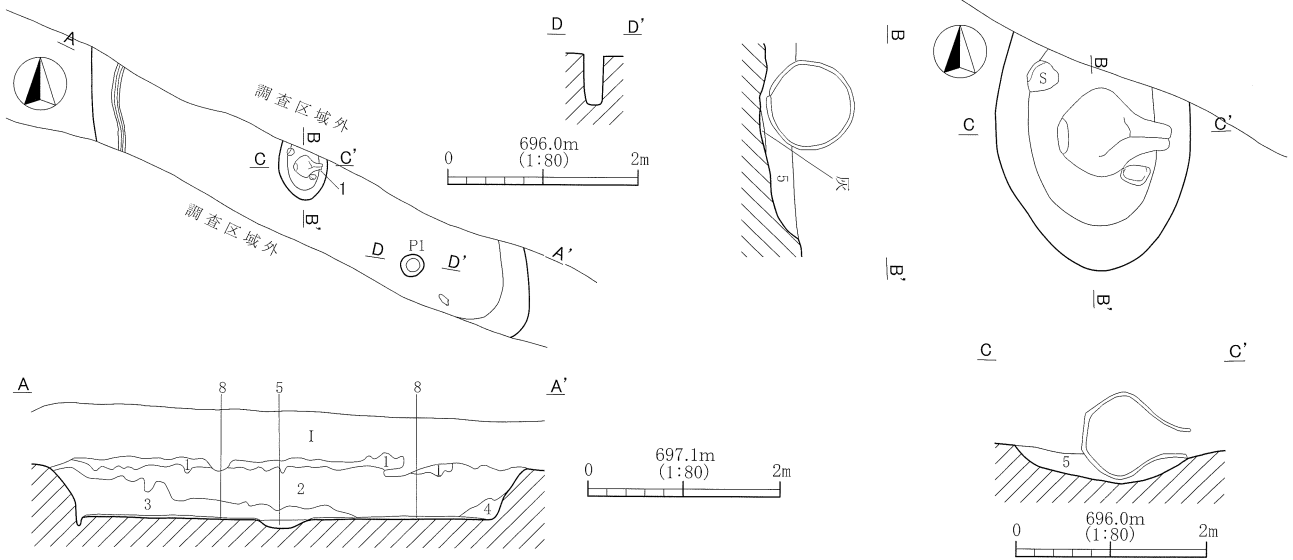


- 1層 暗褐色土(10YR3/3) 黒色(10YR2/1)のブロック多量。明褐色土(7.5YR5/8)のブロック少量。
- 2層 暗褐色土(7.5YR3/3) 褐色土(7.5YR4/3)のブロック多量。黒褐色土(7.5YR2/2)のブロック少量。
- 3層 黒色土(10YR2/1) 炭少量。粘質あり。
- 4層 褐色土(7.5YR4/4)
- 5層 褐色土(7.5YR4/3) しまりない。
- 6層 にぶい褐色土(7.5YR5/4) しまりない。
- 7層 褐色土(10YR4/6)
- 8層 暗褐色土(10YR3/4)



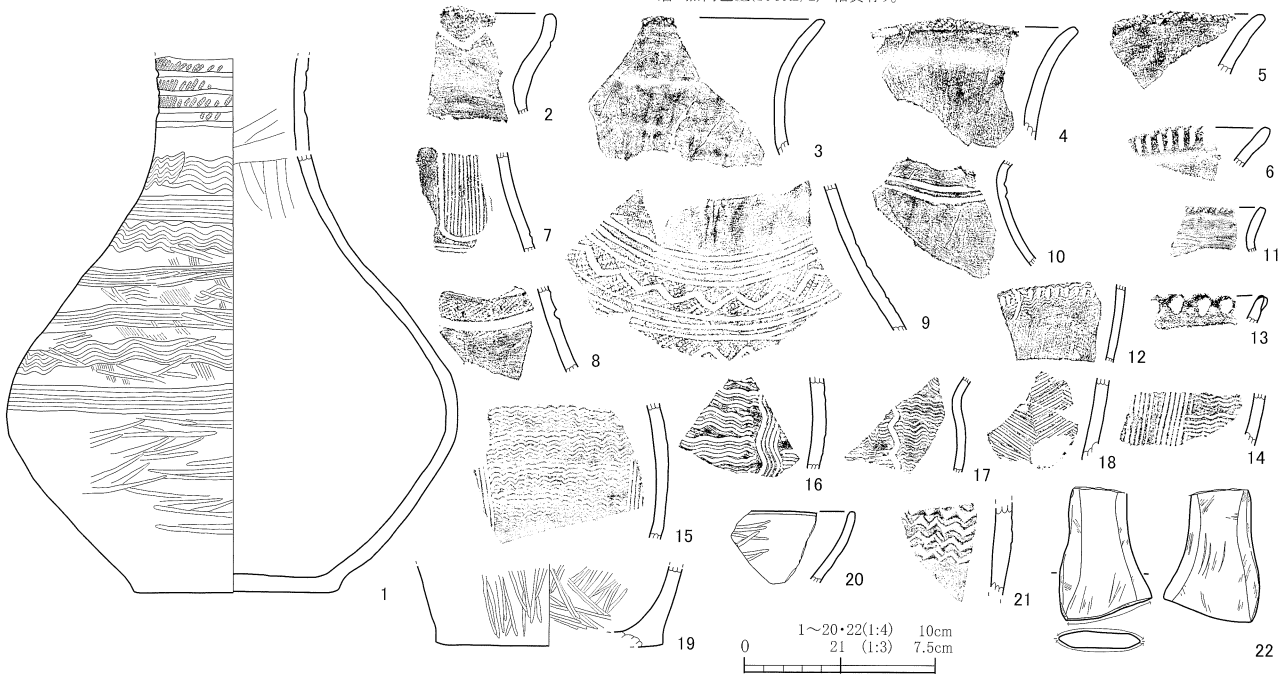
第4図 和田上遺跡Ⅱ A地区 H2号住居址(2)・H3号住居址

H4号住居址

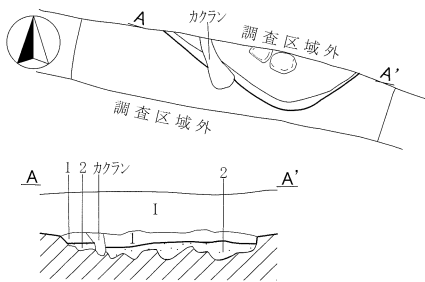


- 1層 黒色土(10YR2/1)
- 2層 黒褐色土(10YR2/2) 暗褐色土(10YR3/3)のブロック含む。
- 3層 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土(10YR5/6)の小ブロック多量。

- 4層 褐色土(10YR4/4) にぶい褐色土(7.5YR5/4)のブロック多量。
- 5層 黒色土(10YR2/1) 底面に微量の焼土粒子。炭少量含む。
- 6層 暗褐色土(10YR3/3) P1内の堆積土。
- 7層 にぶい褐色土(7.5YR5/4) P1内の堆積土。
- 8層 黒褐色土(10YR2/2) 粘質有り。

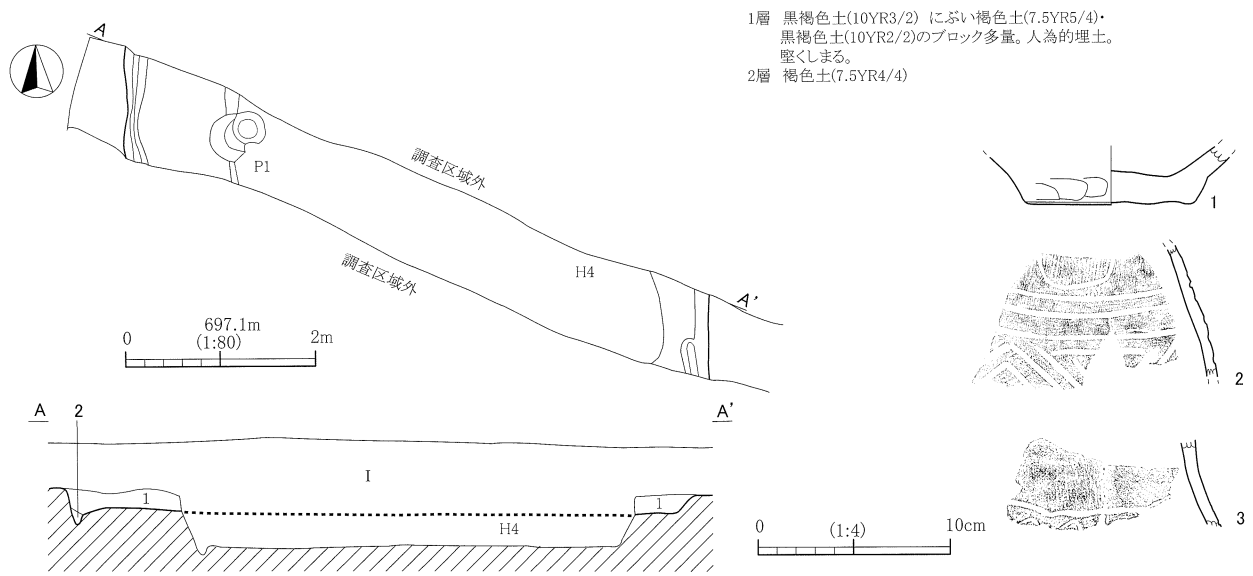


H5号住居址



- 1層 暗褐色土(10YR3/3) 堅くしまる。
- 2層 暗褐色土(10YR3/4) 明褐色土(7.5YR5/6)のブロック多量。上面が床(軟弱)。掘方埋土。

第5図 和田上遺跡Ⅱ A地区 H4号住居址・H5号住居址



第6図 和田上遺跡Ⅱ A地区 H6号住居址

(2) H2号住居址

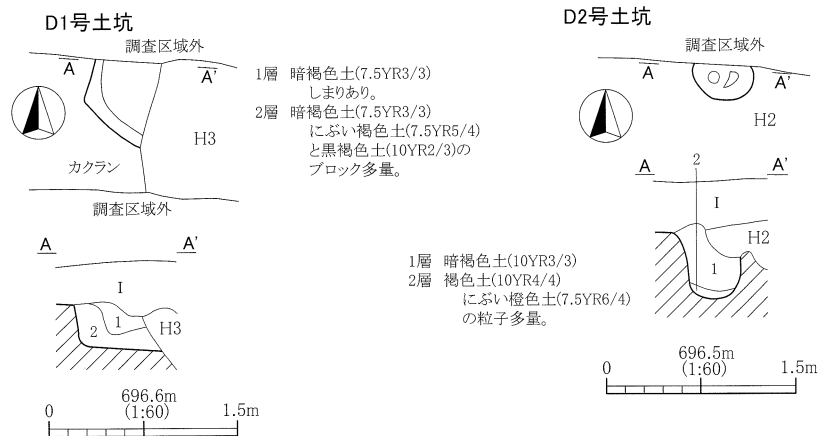
Xい-8・9Grにあり、D2を切る。カマド付近が検出された。北壁中央のカマドは、粘土と黒褐色土で構築された一部の袖部と火床が残る。床は堅く平坦である。遺物は、土師器2~11の坏か碗、13・14の碗、19~22の甕、須恵器坏15~18、甕23・24、25の土錘が出土した。1は底部外周手持ちヘラケズリ、1~8・10・11・13・14は内面黒色処理される。19は「コ」字口縁の武蔵甕、21・22はロクロ甕である。9には墨書が認められるが判読不能。本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代V期-9世紀前半に位置づけられる。

(3) H3号住居址

Xい-7・8Grにあり、北壁・南壁部分は調査区域外。床は堅く平坦である。遺物は、土師器坏か碗の1、碗か皿の2・3が出土した。3は内面黒色処理される。他に本址に伴わない縄文時代草創期の爪形文土器4、弥生時代中期の壺5、打製石斧7・8等がある。本址はこれらの遺物より平安時代であろう。

(4) H4号住居址

IXう-8、IXえ-7・8Grにあり、H6を切る。地床炉が、住居址中央にある。この炉内部に1の壺が横倒しで出土した。床は堅く平坦である。ピットは主柱穴と見られるP1が確認された。西壁下に壁高が巡る。遺物は弥生土器の壺1~10、甕11~19、鉢20、22の砥石、本址に伴わない縄文時代早期の山形押形文土器が出土した。本址は弥生時代中期栗林式期に位置づけられる。



第7図 和田上遺跡Ⅱ A地区 D1号土坑・D2号土坑

(5) H5号住居址

IXう-10にある。床面軟弱、壁の角が検出されたのみで時期等詳細は不明。

(6) H6号住居址

H4号に大半を破壊される。柱穴P1、1~3の弥生時代中期壺が検出された。弥生中期栗林式期。

2. 土坑

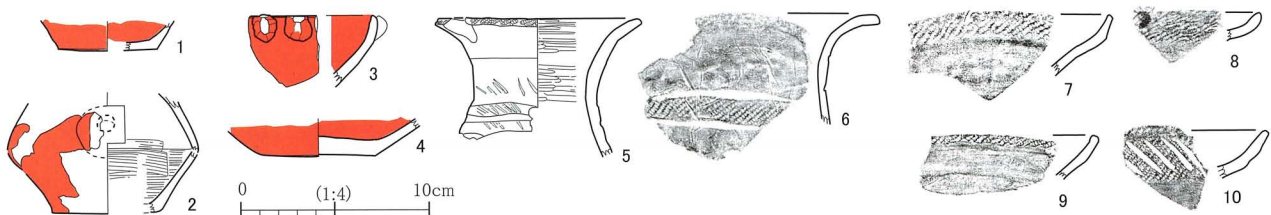
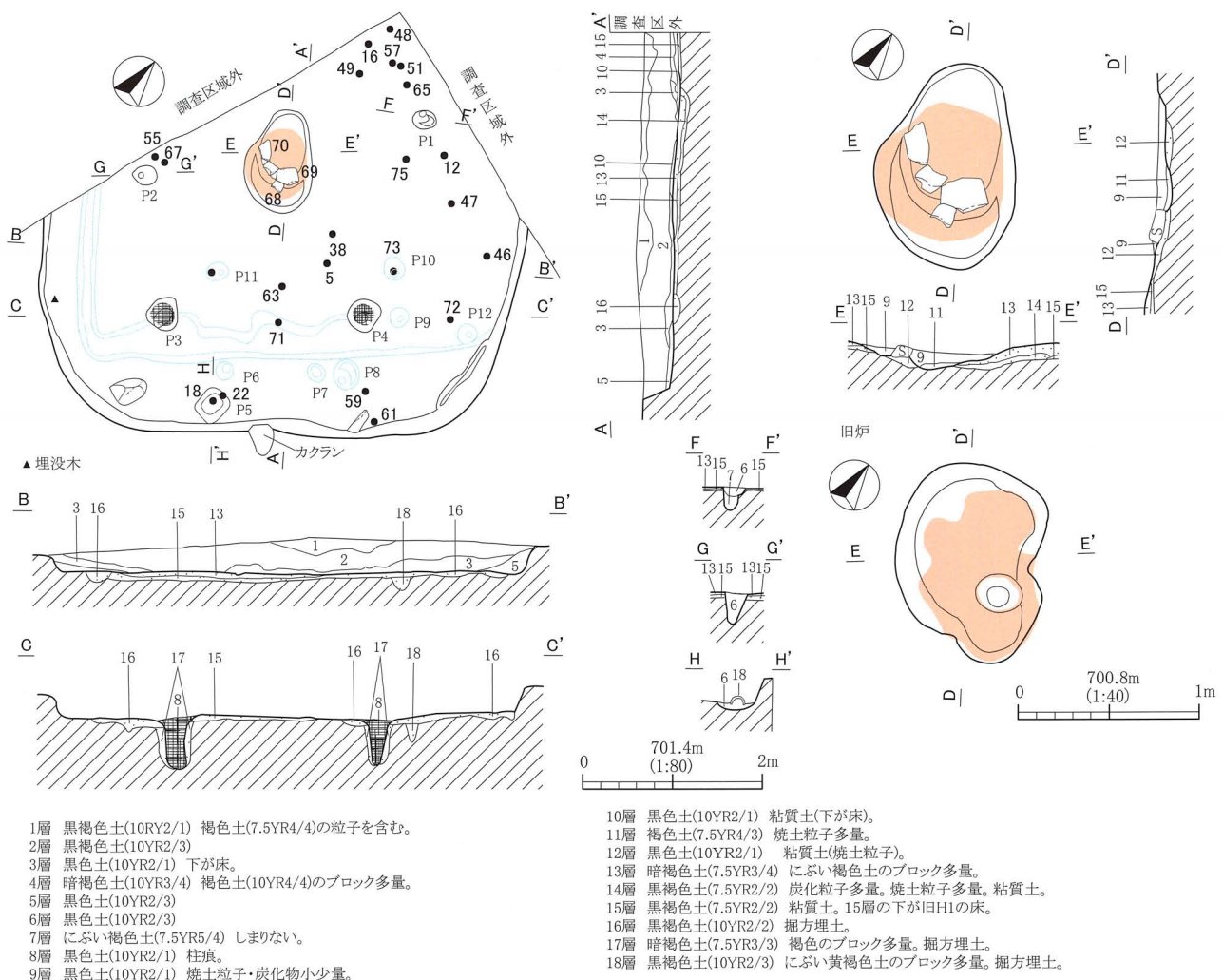
2基検出された。詳細不明。

第2節 和田上遺跡Ⅱ B地区の遺構と遺物

1. 竪穴住居址

(1) H1号住居址

Iく・け-9・10Grにある。D37、D41、P19を切る。4個の炉縁石を持つ地床炉が住居址中央にあり、炉の下に旧炉がある。ピットは12個検出、支柱穴P3・P4で柱痕が確認された。南壁のP7・P8は出入口施設か。床は堅く平坦。床下から南壁から西壁を巡る溝と床が検出され、旧炉の存在から住居南と西側が拡張されとみられる。遺物は弥生土器壺・甕・赤彩の鉢・台付甕、二枚貝、本址に伴わない縄文時代中期後半～後期初頭・堀之内2式・賀曾利B1式の土器が出土。石鏃・石錐・楔?・削器・磨製石斧・砥石・敲石・磨石・台石・二次加工のある剥片など、石器の時期は明確でない。本址は弥生時代中期栗林式期に位置づけられる。本址西壁下の埋没木(モクレン属)放射性炭素測定年代は13,700±40yrBP、暦年較正結果はcalBP16,913-calBP16,754 (calBC14,964-calBC14,805)であった。



第8図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H1号住居址(1)



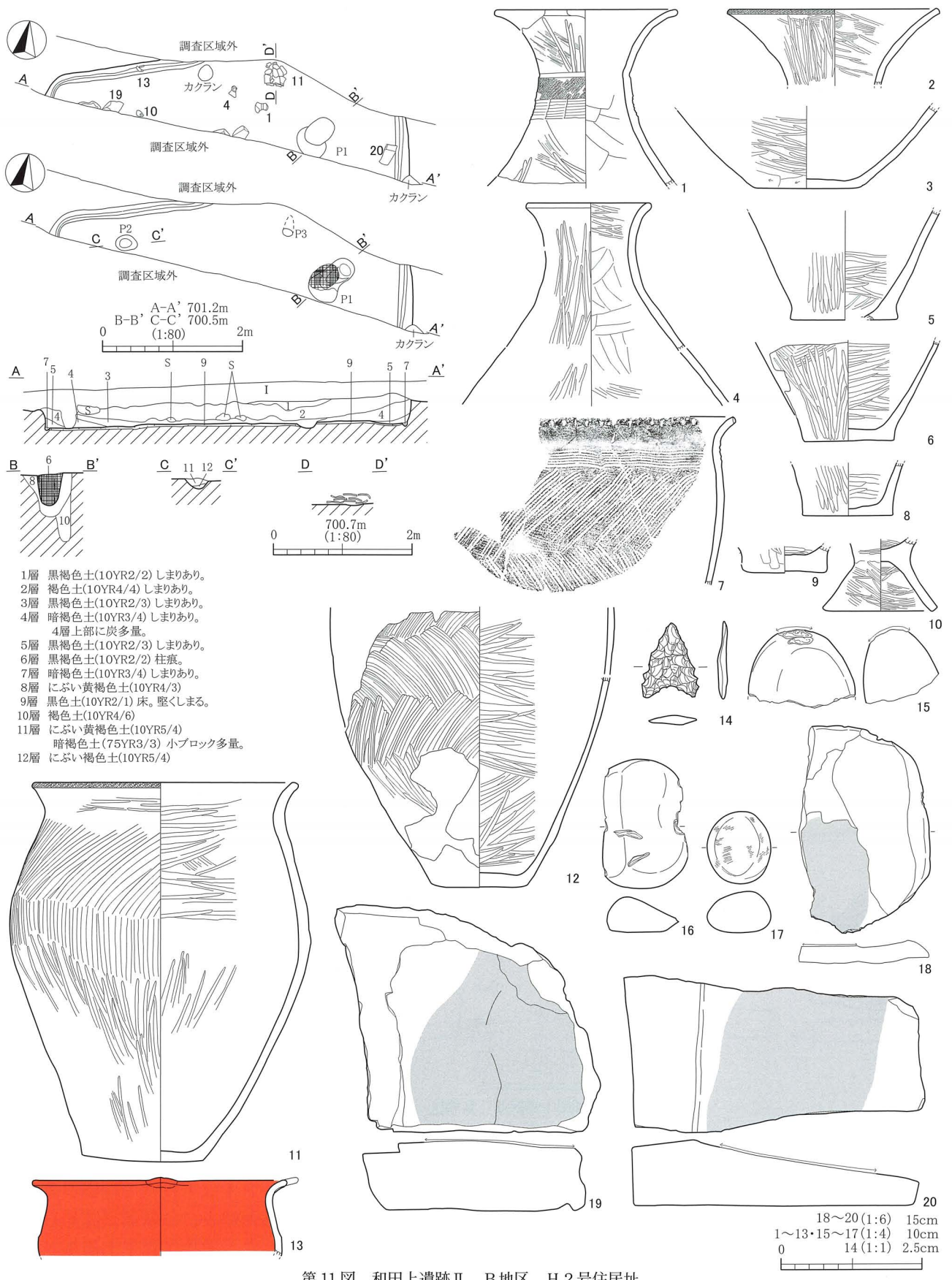
第9図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H1号住居址(2)



第10図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H1号住居址(3)

(2) H2号住居址

XⅢい-5・6Grにあり、大半は南側調査区域外にある。3個検出され、P1は支柱穴で柱痕が確認された。P3は南に傾く掘方である。床は堅く平坦。検出された東壁、北壁から西壁下には壁溝が認められた。床に達する4層上部に炭が多量に見られた。11の甕が横位で床面から出土した。遺物は弥生土器1~4の壺、5~9・11・12の甕、13の赤彩の高坏、10の台付甕、石鏃・敲石・磨石・台石・編み物石、石皿等の



- 1層 黒褐色土(10YR2/2) しまりあり。
- 2層 褐色土(10YR4/4) しまりあり。
- 3層 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり。
- 4層 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり。
4層上部に炭多量。
- 5層 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり。
- 6層 黒褐色土(10YR2/2) 柱痕。
- 7層 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり。
- 8層 にぶい黄褐色土(10YR4/3)
- 9層 黒色土(10YR2/1) 床。堅くしまる。
- 10層 褐色土(10YR4/6)
- 11層 にぶい黄褐色土(10YR5/4)
- 12層 暗褐色土(7.5YR3/3) 小ブロック多量。
- 13層 にぶい褐色土(10YR5/4)

第11図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H2号住居址

石器(帰属時期不明)がある。1・2の壺、7・11の甕の口唇部に縄文LRが施文される。

本址は弥生時代中期栗林式期に位置づけられる。

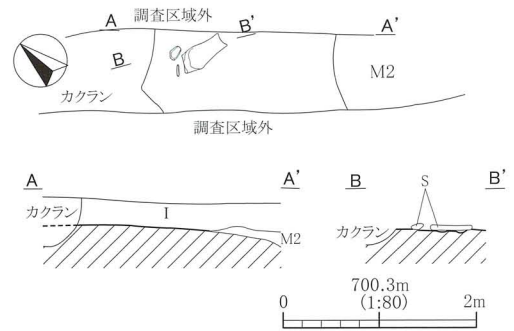
(3) H 3号住居址

Ⅲこ-2・3Grにあり、M2に切られ、北西部分は耕作等の攪乱で破壊されている。平らな鉄平石が2枚水平に置かれていたため、縄文時代敷石住居かと判断したが積極的な確証はない。重複遺構のM2からは、縄文時代中期後半・後期堀之内1・堀之内2式土器が多く出土している。

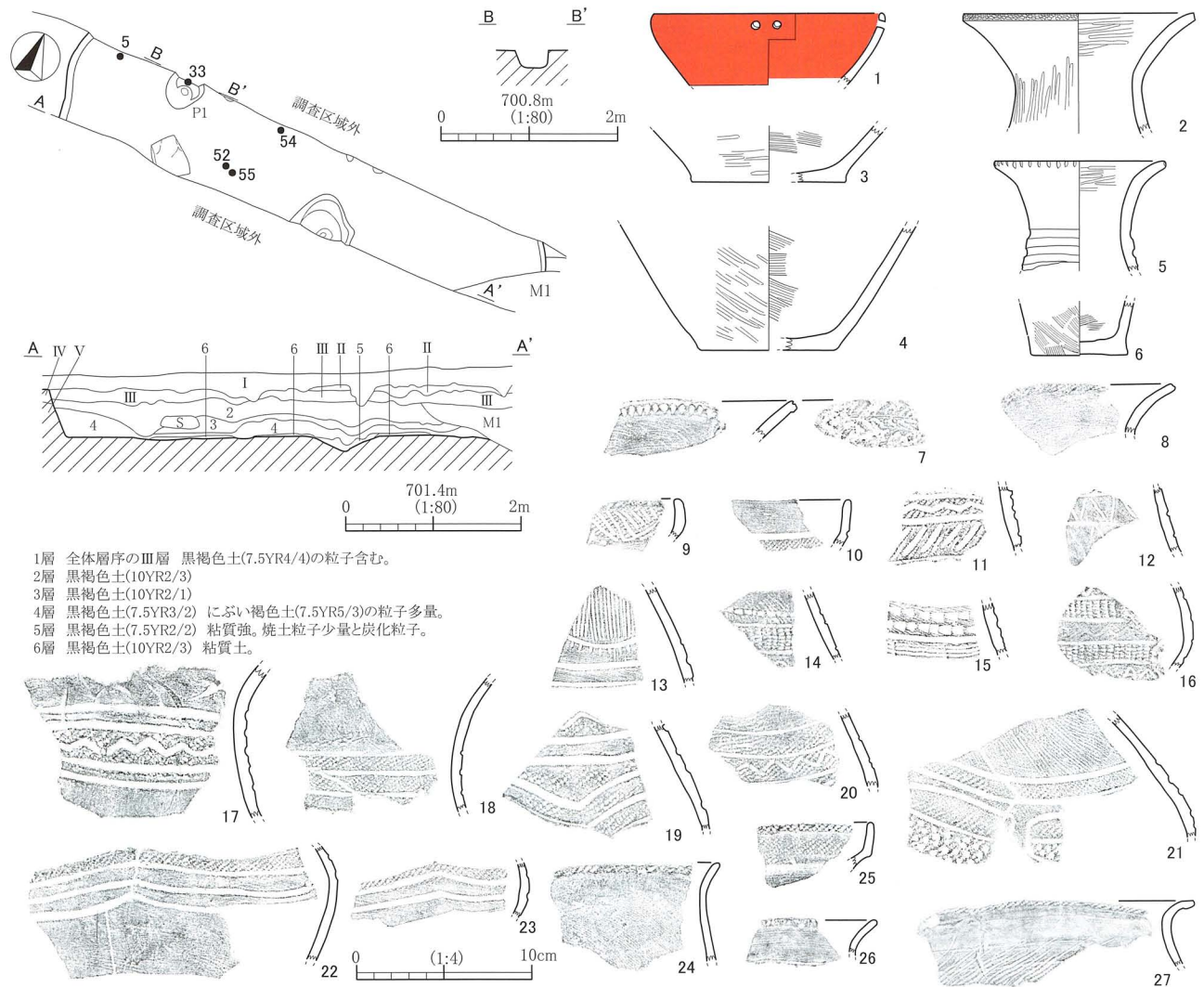
(4) H 4号住居址

XⅢい-2・3GrにありM1に切られ、大半は北東・南西側調査区域外にある。住居址ほぼ中央に地床炉がある。P1は支柱穴となろう。床は堅く平坦。炉の周囲に床に張り付く6層の粘質土が見られた。管玉(碧玉)55が床面から54が20cm床上から出土した。

遺物は弥生土器内外面赤彩の鉢1、壺2~23、甕24~36、管玉54・55、本址に伴わない縄文時代中期後半・堀之内1式・賀曾利B1式・後期の土器が出土した。帰属時期不明確の石器、磨石・敲石・石鏃・打

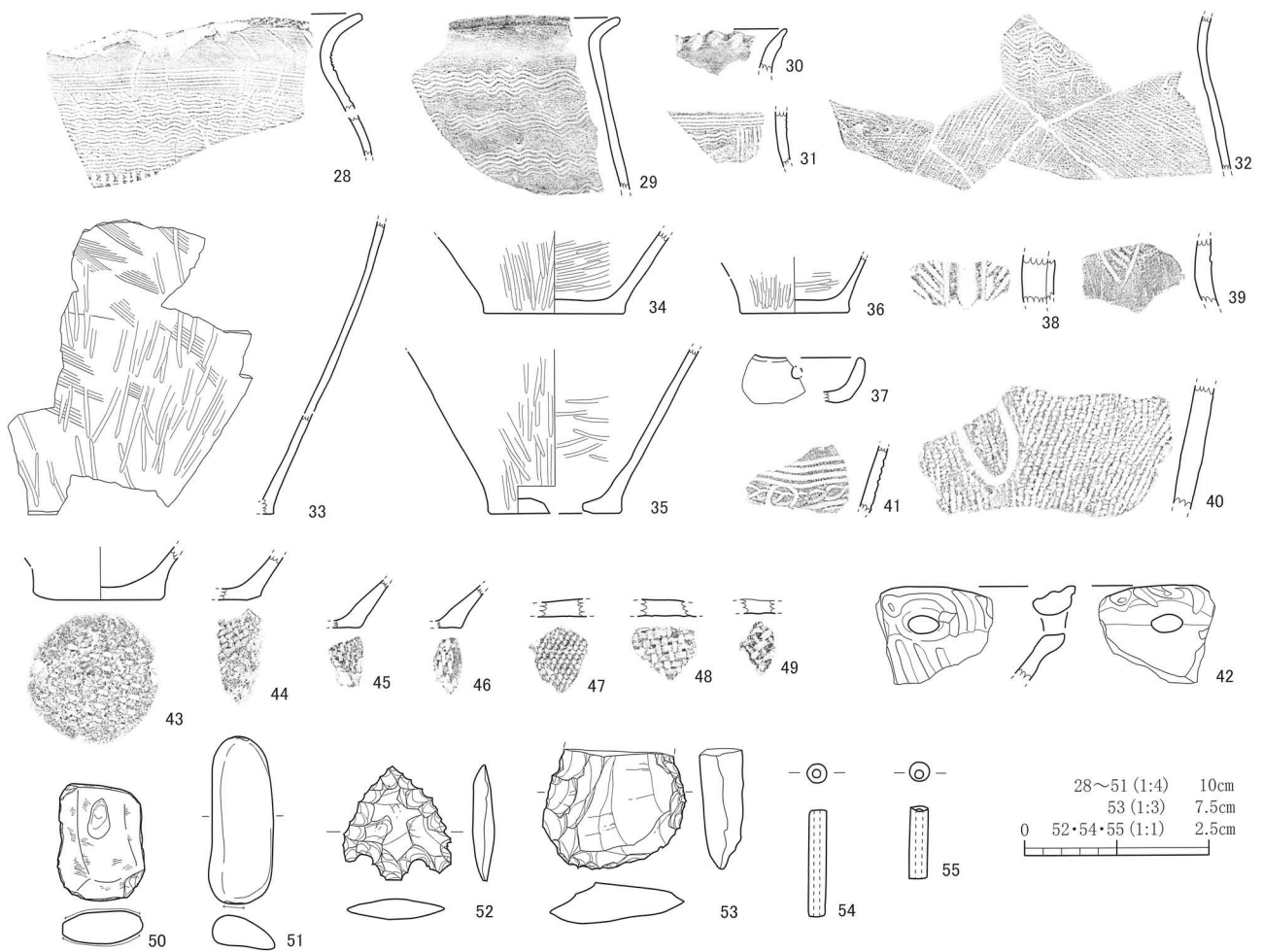


第12図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H3号住居址



- 1層 全体層序のⅢ層 黒褐色土(7.5YR4/4)の粒子含む。
- 2層 黒褐色土(10YR2/3)
- 3層 黒褐色土(10YR2/1)
- 4層 黒褐色土(7.5YR3/2) にぶい褐色土(7.5YR5/3)の粒子多量。
- 5層 黒褐色土(7.5YR2/2) 粘質強。焼土粒子少量と炭化粒子。
- 6層 黒褐色土(10YR2/3) 粘質土。

第13図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H4号住居址(1)



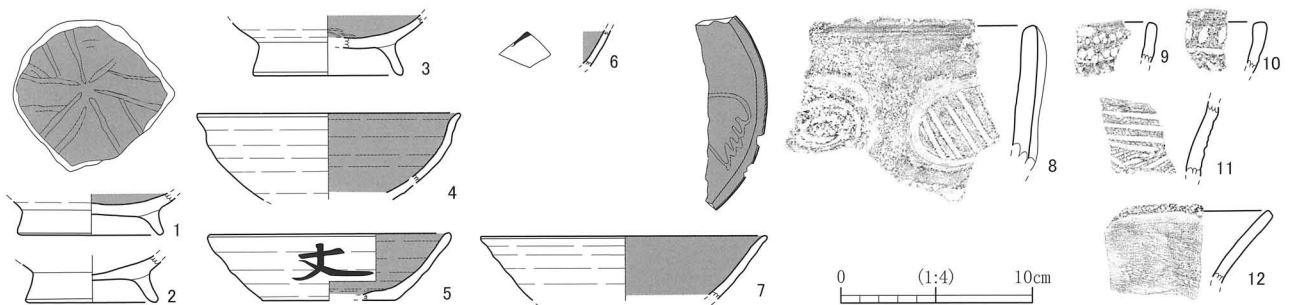
第14図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H4号住居址(2)

製石斧がある。

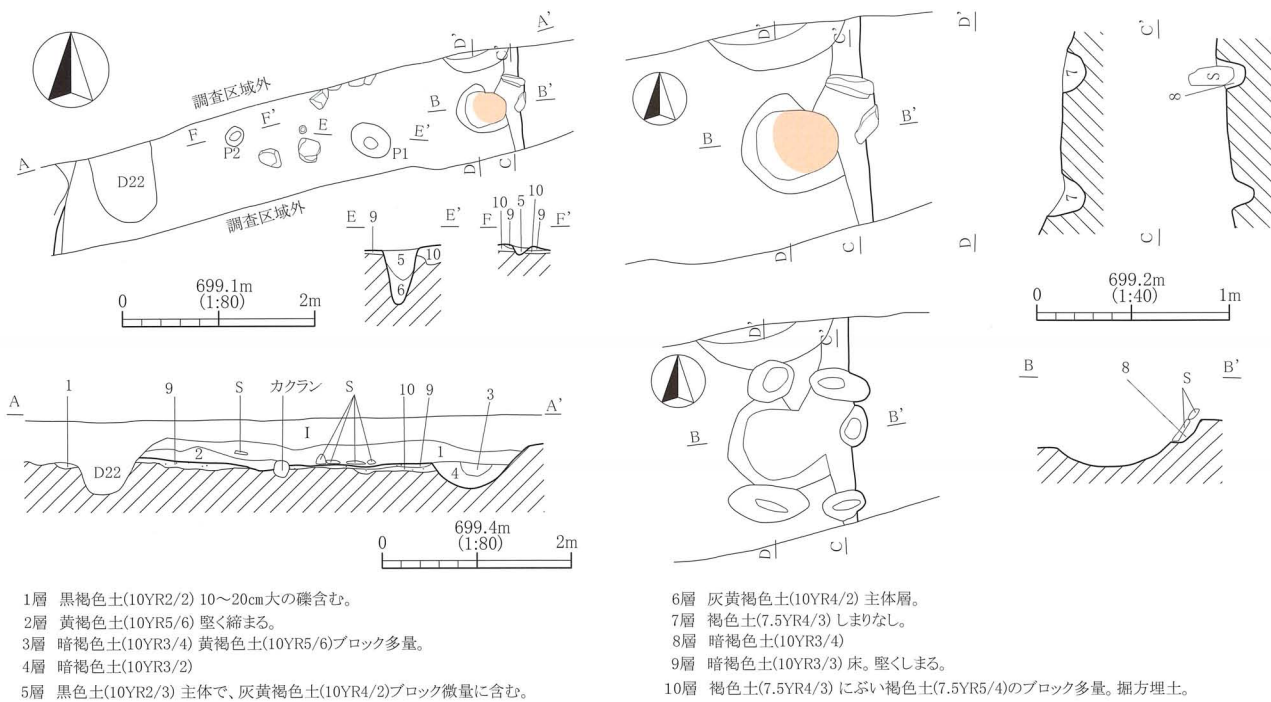
壺口縁部は単純口縁2・5受口口縁9・10が、口唇部施文には2・8・9の縄文LR 5のへら描刻目がある。7は口唇部に細い沈線と刻目、内面に櫛歯状工具の綾杉状の刺突が施される。頸部・胴部の施文には、平行沈線間に縄文LRやへら描連続山形文が多い。さらに、刺突列14・15、櫛歯状工具の刺突列14・16、へら描鋸歯文12、U字状沈線区画内を櫛描条線で充填する13などがある。甕口縁部は単純口縁24・26～30受口口縁25が、口唇部施文には24～27の縄文LRがある。30には、櫛歯状工具の押捺と刻目が施文される。本址は弥生時代中期栗林式期に位置づけられる。

(5) H5号住居址

IVヶ-4・5Grにあり、D22に切られる。住居北側と南側の大半は、調査区域外にある。カマドは、東



第15図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H5号住居址(1)



第16図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H5号住居址(2)

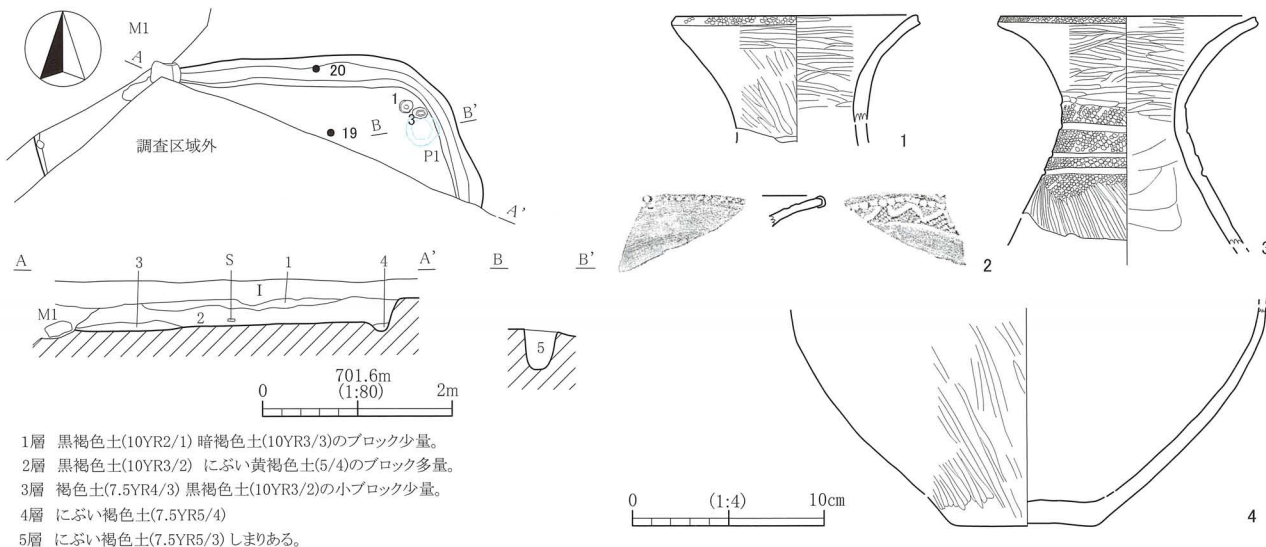
壁中央に設置され、火床と熔結凝灰岩の袖部芯材一部が残存していた。カマド火床の両脇から検出された小ピットは、袖部芯材となる礫を埋め込んだものであろう。カマド西側床面に散在している熔結凝灰岩は、構築材であろうか。ピットは2個検出された。床は堅く平坦。床下掘方は浅く、みられないところもある。

遺物は、土師器、本址に伴わない縄文時代土器中期後半・称名寺式・堀之内2式、弥生中期栗林土器が出土した。土師器は碗1~3、坏5、坏か碗4・6・7がある。2以外は内面黒色処理される。1~3・5は、底部回転糸切り。5には「丈」が墨書されている。6も墨書が窺えるが判読不能。

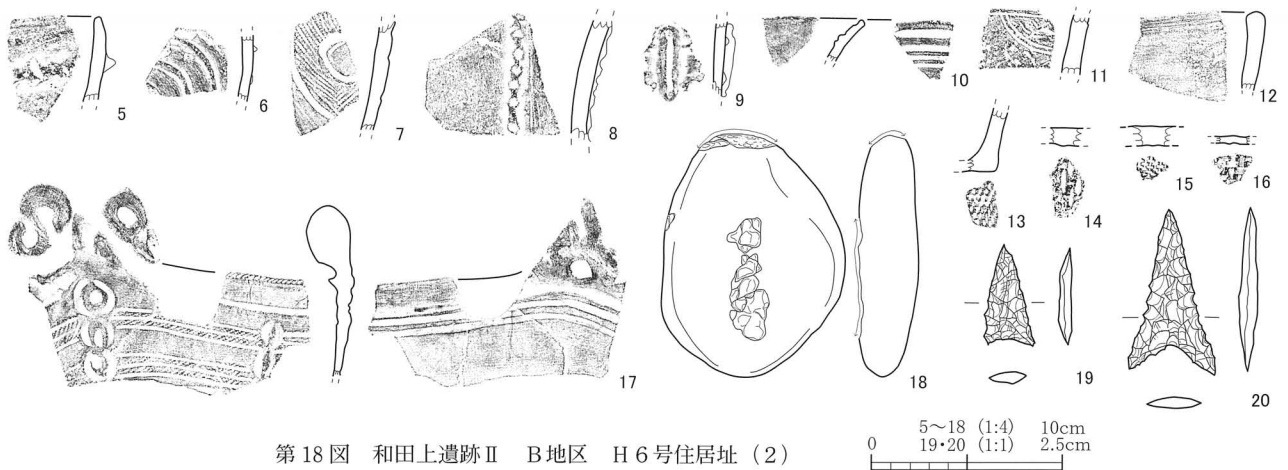
本址は、小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代V期-9世紀前半に位置づけられる。

(6) H6号住居址

XⅡい-9・10GrにありM1に切られ、D32・P36を切る。住居南側の大半は、調査区域外にある。北壁・東壁下に壁高が巡る。床は堅く平坦、床下掘方は認められない。P1は敲击床の下から検出できた。



第17図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H6号住居址(1)



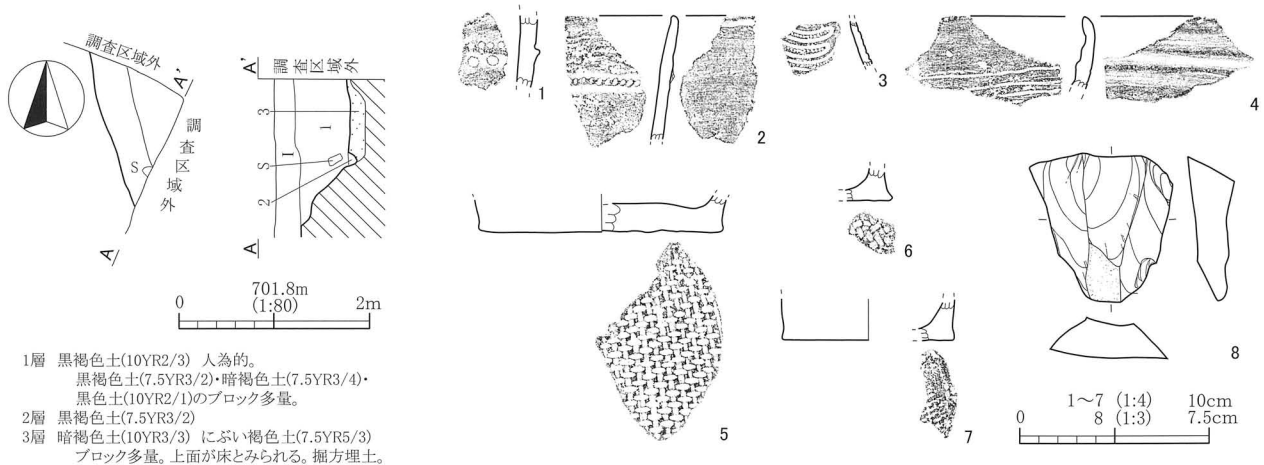
第18図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H6号住居址(2)

遺物は弥生土器壺1～4、本址に伴わない縄文時代後期前半・称名寺・堀之内2式・加曽利B1式・後期の土器、帰属時期不明確の石鏃・敲石が出土した。壺は3点とも単純口縁。1・3の口唇部に縄文LR、頸部にヘラ描平行沈線が施文される。3は地文縄文LR。2は口唇部に縄文LR刻みを付す小突起、内面口縁に沿ってヘラ描連続刺突その下地文縄文LRヘラ描連続山形文が施される。

本址は弥生時代中期栗林式期に位置づけられる。

(7) H7号住居址

Iけ・こー7Grにある。調査できた範囲が狭く住居址といいきれない。遺物は、称名寺式・堀之内2式・加曽利B1式・後期のすべて縄文土器、石核が出土した。



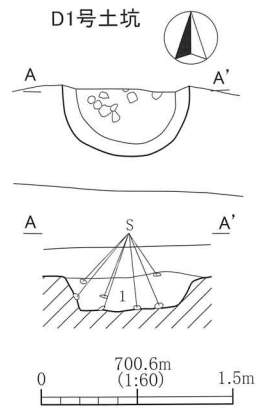
1層 黒褐色土(10YR2/3) 人為的。
黒褐色土(7.5YR3/2)・暗褐色土(7.5YR3/4)・
黒色土(10YR2/1)のブロック多量。
2層 黒褐色土(7.5YR3/2)
3層 暗褐色土(10YR3/3) にぶい褐色土(7.5YR5/3)
ブロック多量。上面が床とみられる。掘方埋土。

第19図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H7号住居址

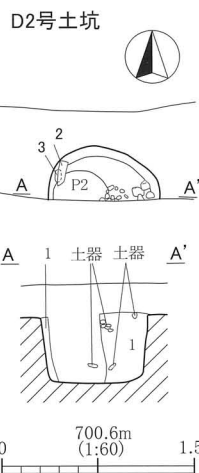
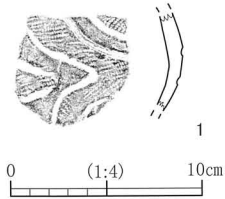
2. 土坑

45基が検出された。D10・D15・D17・D18・D22は出土遺物が皆無、D11・D16は9世紀前半のH5号住居址付近にあり同時期の土師器が出土した。他の35基から、縄文時代中期後半・称名寺・堀之内1式・堀之内2式・加曽利B1の土器や石器が出土した。縄文時代の土坑は、TT地点(鉄塔建設予定地)とXⅢいー9・10Grに集中する。覆土は大半が人為的な埋土である。

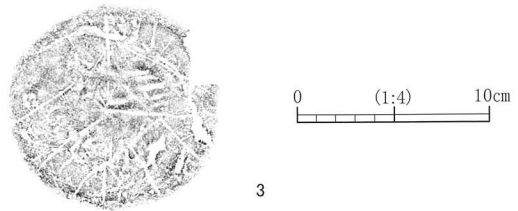
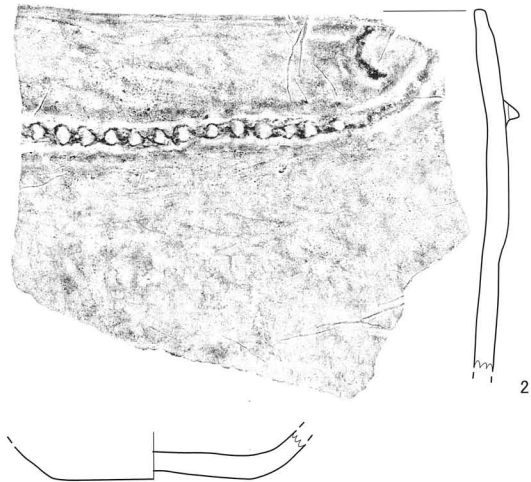
長方形のD27・D33・D41号土坑は、小口側に熔結凝灰岩の平石が立積みされる。D45号土坑は側壁に平石が立積みされる。自然科学分析はしてないが、人骨が確認された小諸市石神遺跡縄文時代後期第3号土坑墓、同市岩下遺跡堀之内2式期1号石棺に類例があり、縄文時代後期前半の墓といえよう。堀之内2式土器・大型獣類焼骨・炭化したオニグルミが出土したD26は、ゴミ穴であろうか。このオニグルミの放射性炭素測定年代は $3,470 \pm 20$ yrBP、暦年較正結果はcalBP3,824-calBP3,695 (calBC1,875-calBC1,746)であった。称名寺式期の袋状土坑D24は、形態等から貯蔵穴であろうか。



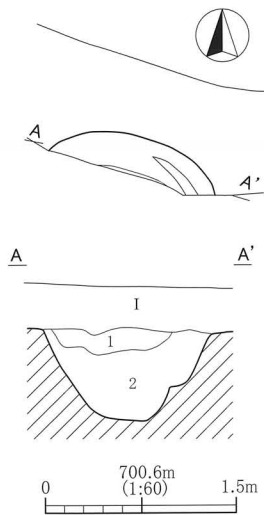
D1
1層 暗褐色土(7.5YR3/3)
にぶい褐色土(7.5YR6/3)
の粒子多量。しまりあり。
黒褐色土(10YR2/3)小ブロック少量



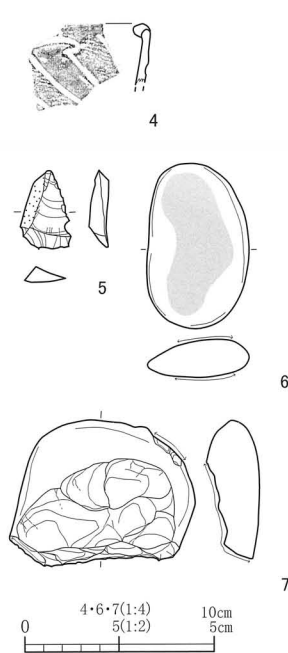
D2
1層 褐色土(7.5YR4/3)



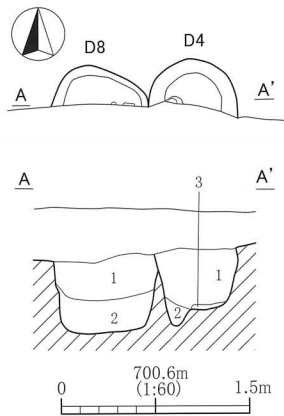
D3号土坑



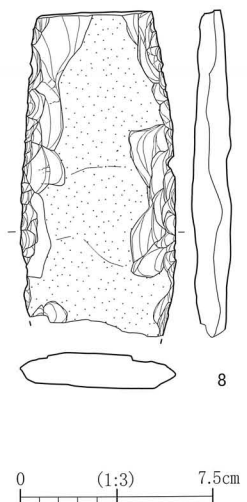
D3
1層 黒色土(10YR2/1)
2層 暗褐色土(7.5YR3/3)
しまりあり。人為的。
にぶい褐色土(7.5YR6/3)
の小ブロック多量。
黒色土(10YR2/1)の
带状ブロック。



D4号・D8号土坑

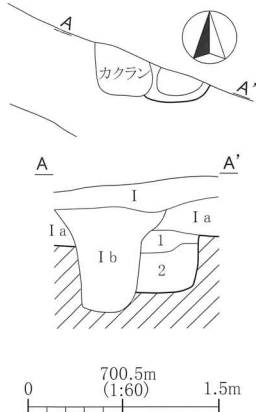


D4
1層 褐色土(7.5YR4/3)
黒褐色土(10YR2/3)
小ブロック少量。
にぶい褐色土
(7.5YR6/3)粒子多量。
人為的。
2層 にぶい褐色土(7.5YR5/3)
3層 暗褐色土(7.5YR3/4)
D8
1層 暗褐色土(7.5YR3/3)
2層 褐色土(7.5YR4/3)

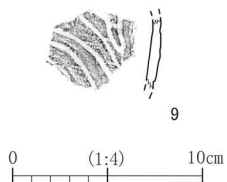


第20図 和田上遺跡Ⅱ B地区 D1号・D2号・D3号・D4号・D8号土坑

D5号土坑

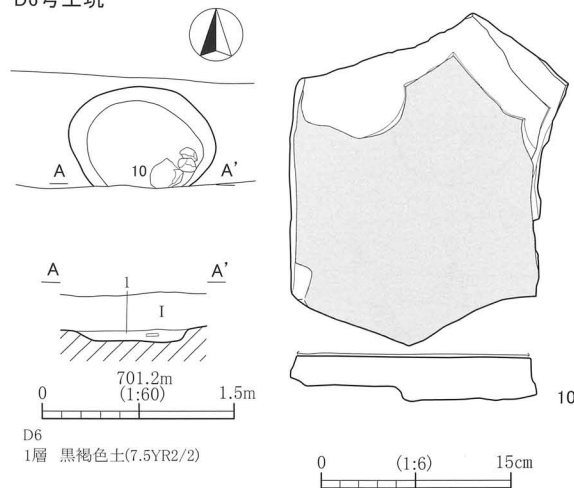


D5
1層 暗褐色土(7.5YR3/3)
2層 褐色土(7.5)
にぶい褐色土(7.5YR6/3)
の粒子多量。しまりあり。



0 (1:4) 10cm

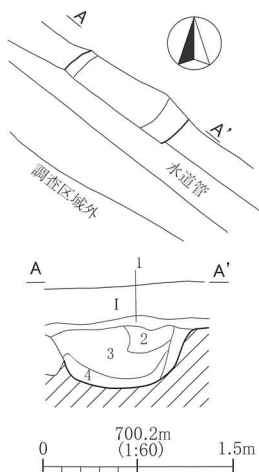
D6号土坑



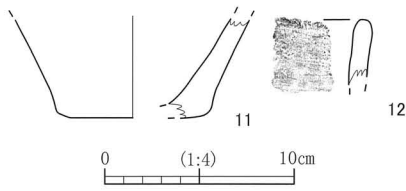
D6
1層 黒褐色土(7.5YR2/2)

0 (1:6) 15cm

D7号土坑

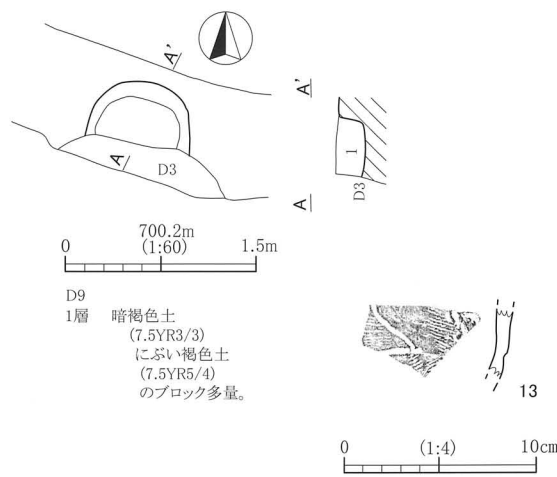


D7
1層 黒褐色土(10YR2/3)
人為的。
2層 褐色土(7.5YR4/3)
黒褐色土(10YR2/3)の
ブロック。人為的。
3層 極暗褐色土(7.5YR2/3)
人為的。
4層 褐色土(7.5YR4/3)
にぶい褐色土(7.5YR5/4)
の帯状ブロック。
人為的。



0 (1:4) 10cm

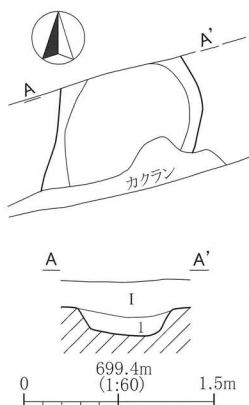
D9号土坑



D9
1層 暗褐色土
(7.5YR3/3)
にぶい褐色土
(7.5YR5/4)
のブロック多量。

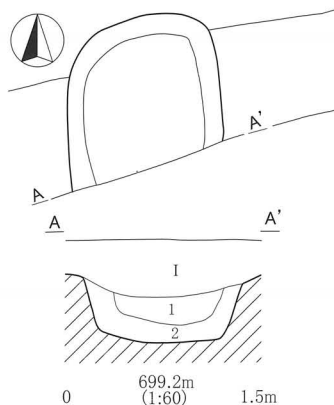
0 (1:4) 10cm

D10号土坑

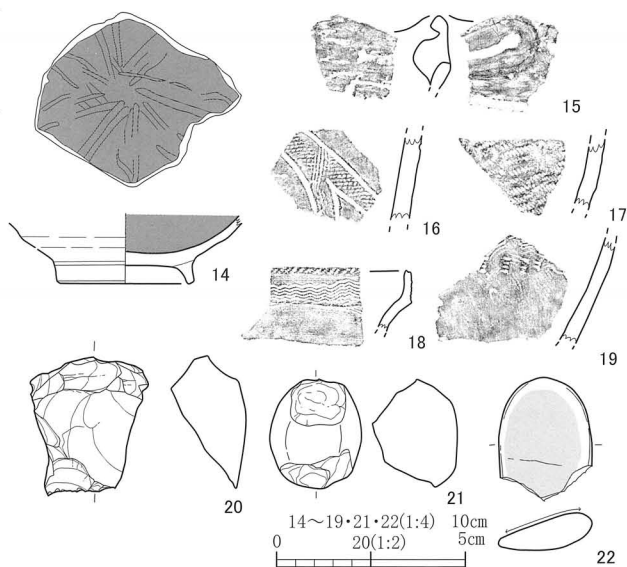


D10
1層 黒褐色土(10YR2/3)
にぶい褐色土
(10YR5/4)の
小ブロック多量。

D11号土坑



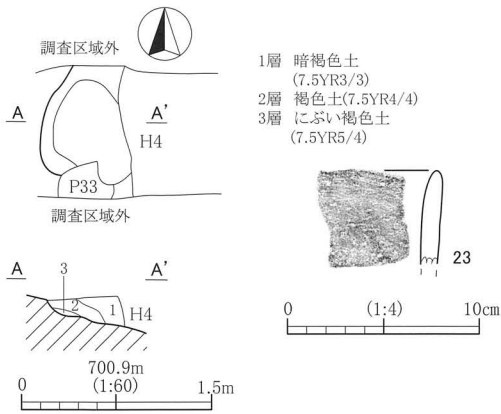
D11
1層 黒褐色土(10YR2/2)にぶい褐色土
(7.5YR5/4)の小ブロック少量。
2層 黒褐色土(10YR2/3)にぶい褐色土
(7.5YR5/4)の小ブロック多量。



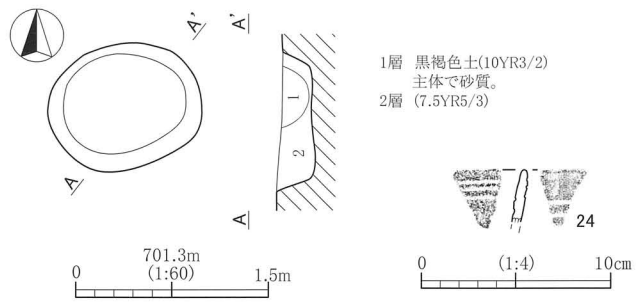
14~19・21・22(1:4) 10cm
20(1:2) 5cm

第21図 和田上遺跡Ⅱ B地区 D5号・D6号・D7号・D9号・D10号・D11号土坑

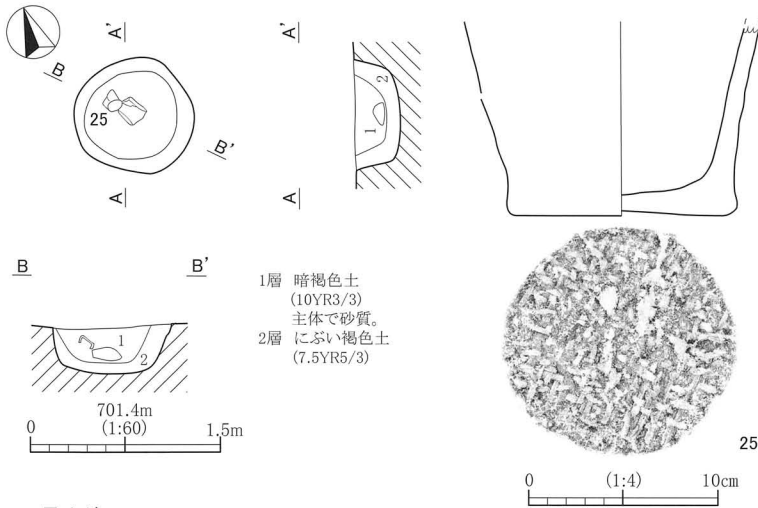
D12号土坑



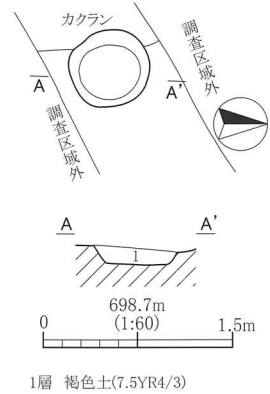
D13号土坑



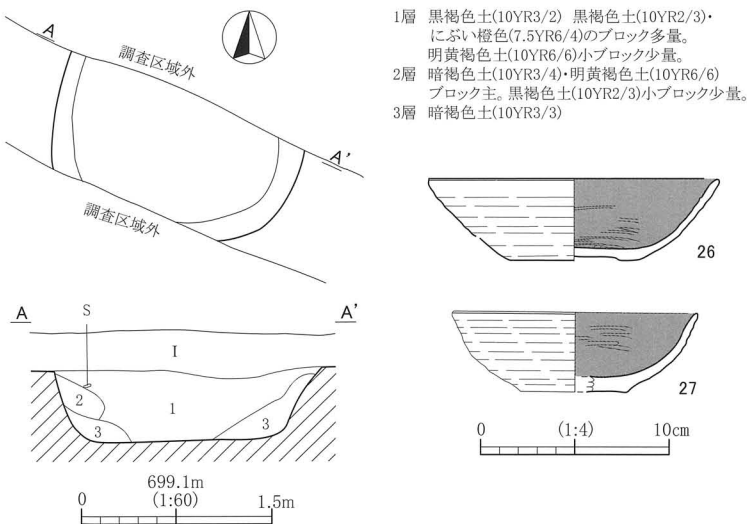
D14号土坑



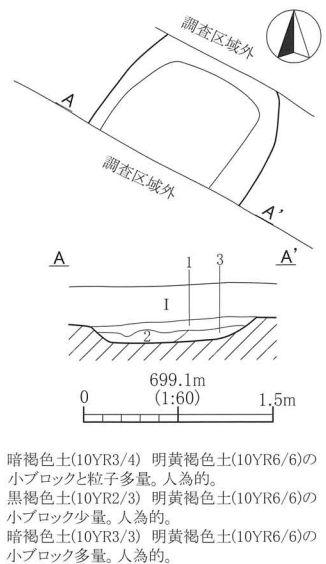
D15号土坑



D16号土坑

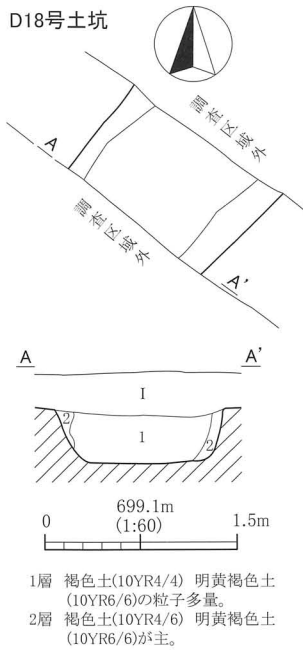


D17号土坑

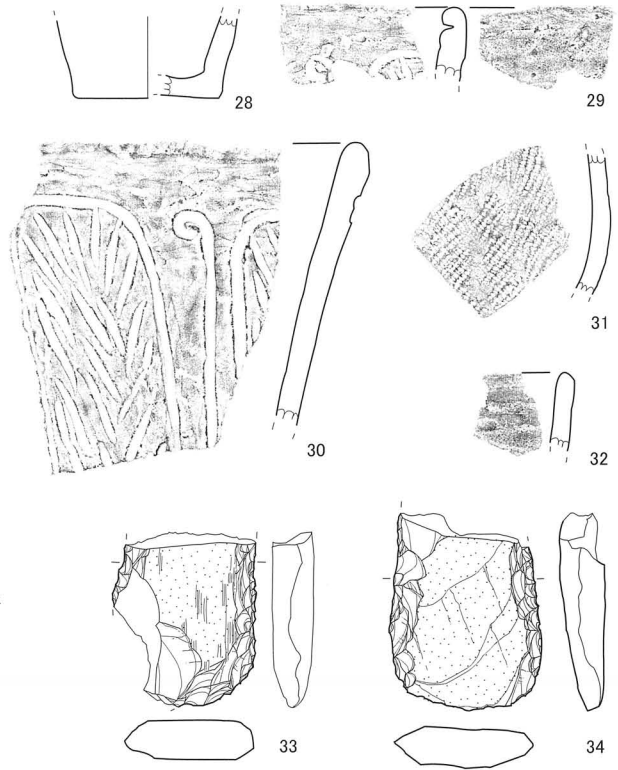
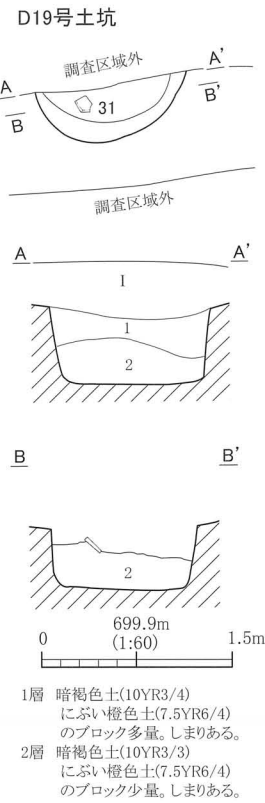


第22図 和田上遺跡Ⅱ B地区 D12号・D13号・D14号・D15号・D16号・D17号土坑

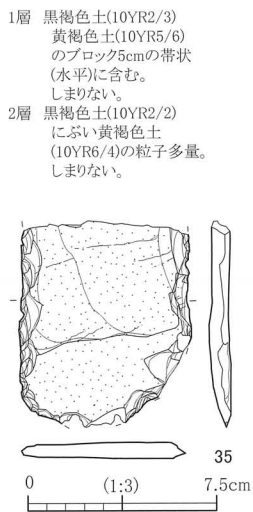
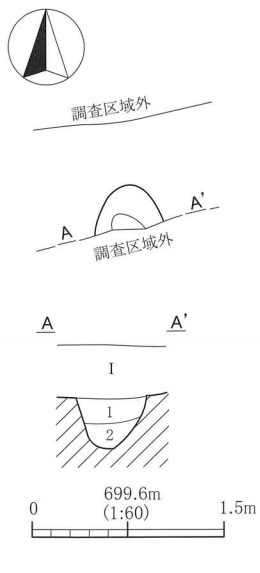
D18号土坑



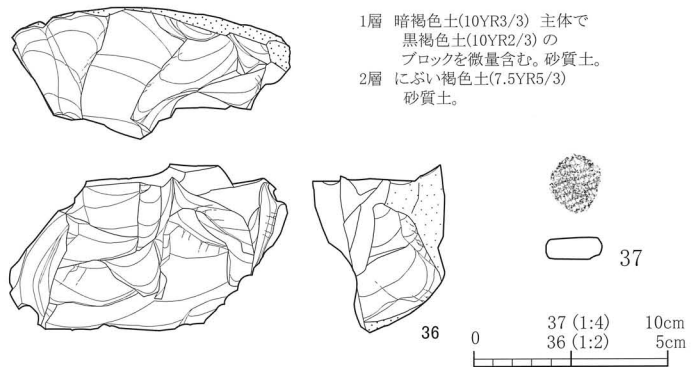
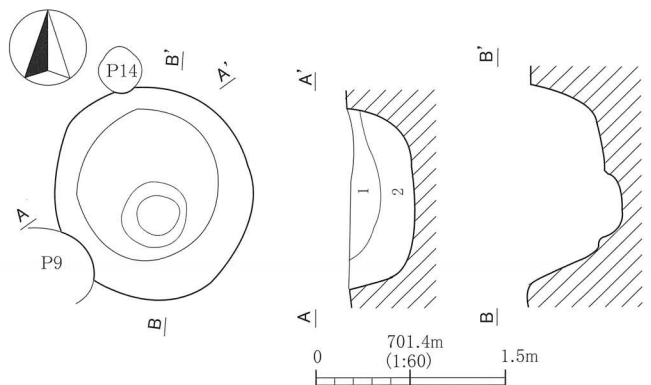
D19号土坑



D20号土坑

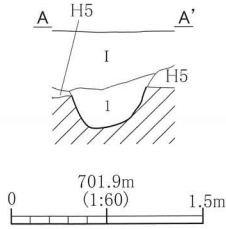
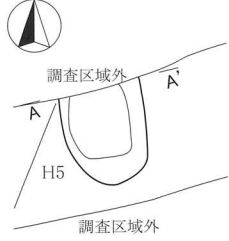


D21号土坑



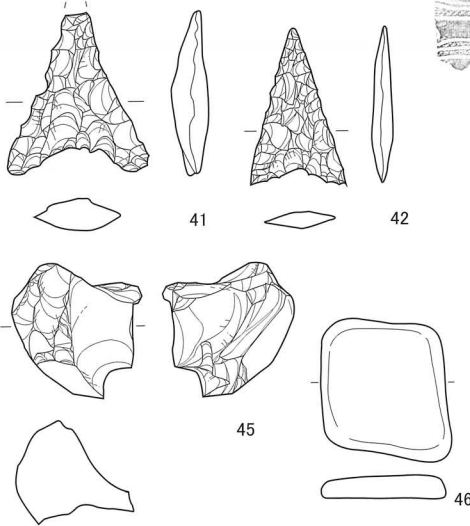
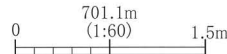
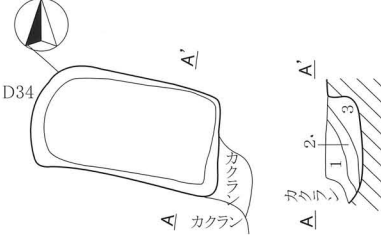
第23図 和田上遺跡Ⅱ B地区 D18号・D19号・D20号・D21号土坑

D22号土坑

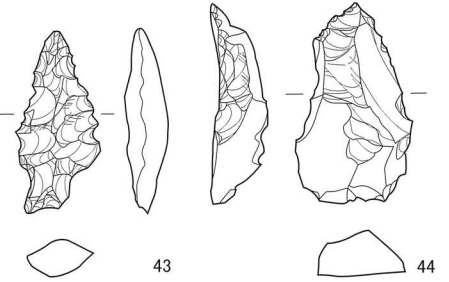
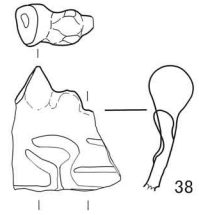


1層 黒褐色土(10YR2/2)
にぶい黄褐色土(10YR5/4)の
小ブロック含む。

D23号土坑

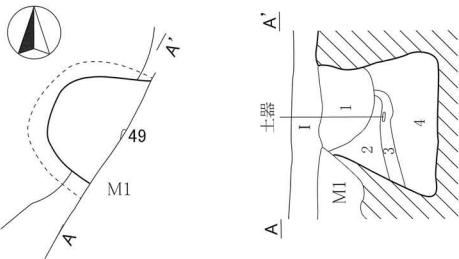


1層 黒褐色土(7.5YR3/2)
にぶい褐色土(7.5YR5/4)の
小ブロック少量。
人為的堆積。
2層 黒褐色土(7.5YR3/2)
にぶい褐色土(7.5YR5/4)の
小ブロック多量。
人為的堆積。
3層 黒褐色土(7.5YR2/2)
人為的堆積。

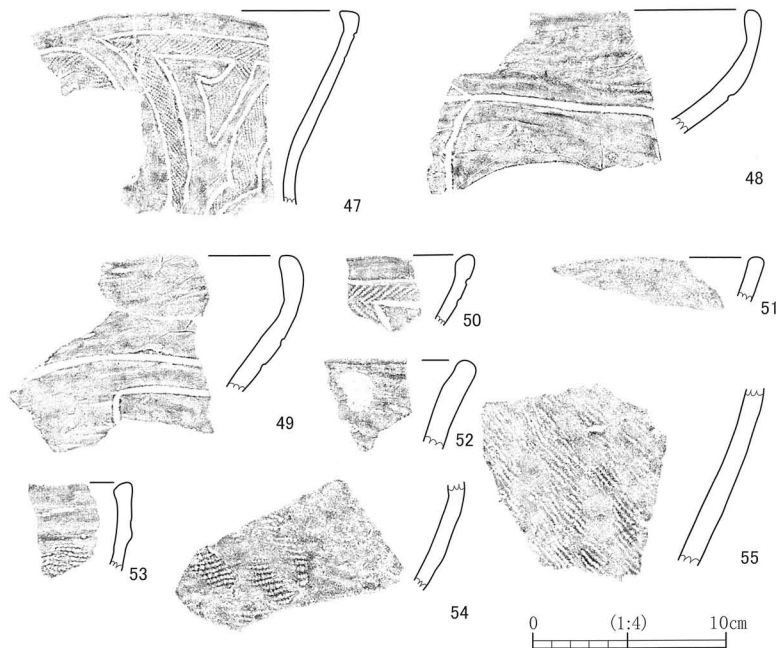


38~40・46(1:4) 10cm
45(1:2) 5cm
0 41~44(1:1) 2.5cm

D24号土坑



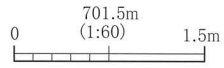
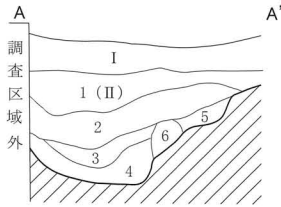
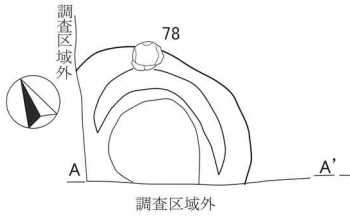
1層 暗褐色土(10YR3/3)
にぶい褐色土(7.5YR5/3)・
黒褐色土(7.5YR2/2)の
ブロック多量。炭少量。
2層 にぶい褐色土(7.5YR5/3)
褐色土(7.5YR4/3)の
ブロック含む。
3層 暗褐色土(7.5YR3/3)
4層 にぶい黄褐色土(10YR5/4)
かたくしまる。



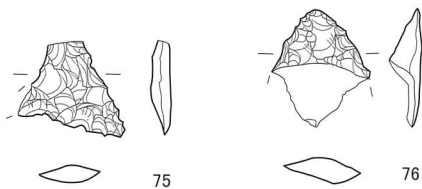
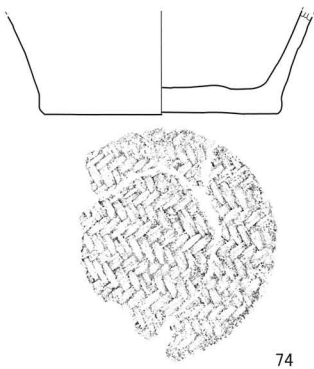
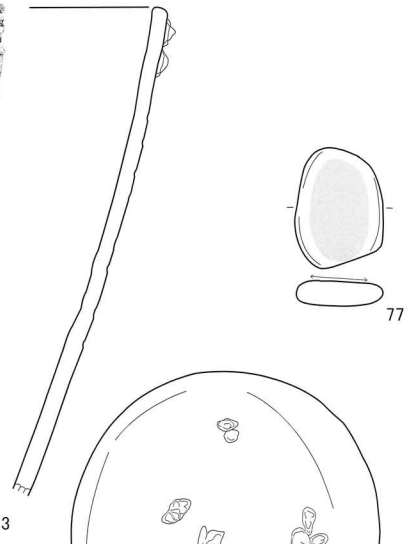
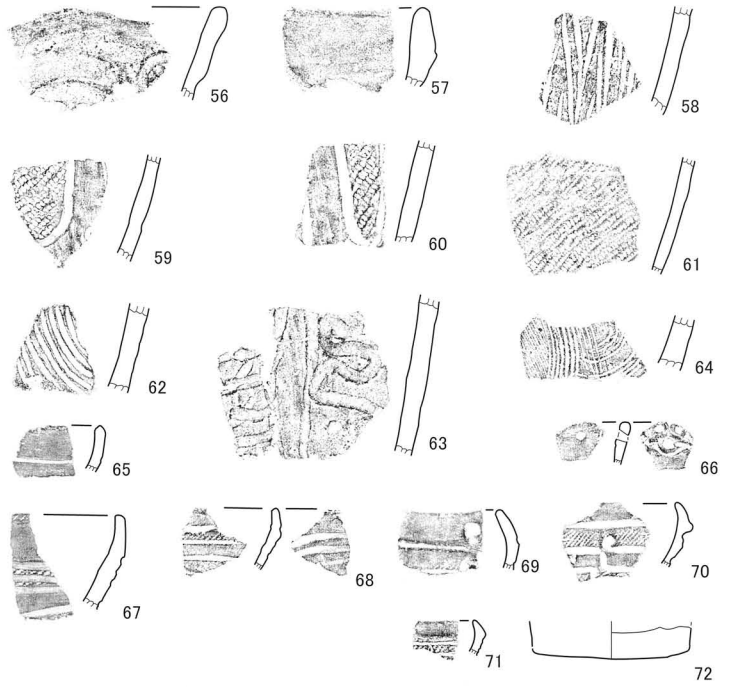
0 (1:4) 10cm

第24図 和田上遺跡Ⅱ B地区 D22号・D23号・D24号土坑

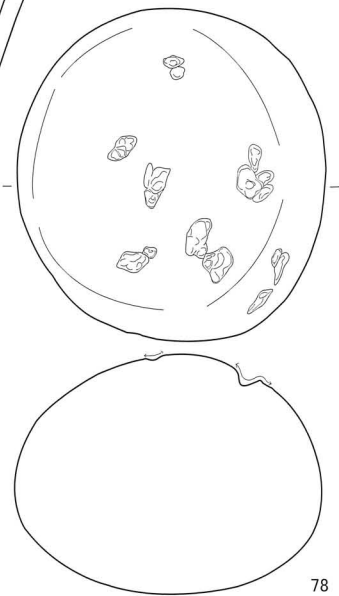
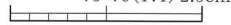
D25号土坑



- 1層 全体層序のII層
- 2層 暗褐色土(7.5YR3/4) 黒色土(10YR2/1)のフロック少量。
- 3層 暗褐色土(7.5YR3/3) しまりあり。
- 4層 にぶい褐色土(7.5YR5/4) しまりあり。3層よりかたい。
- 5層 暗褐色土(10YR3/4) にぶい黄褐色土。(10YR5/4)の粒子少量。
- 6層 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) かつくしまる。

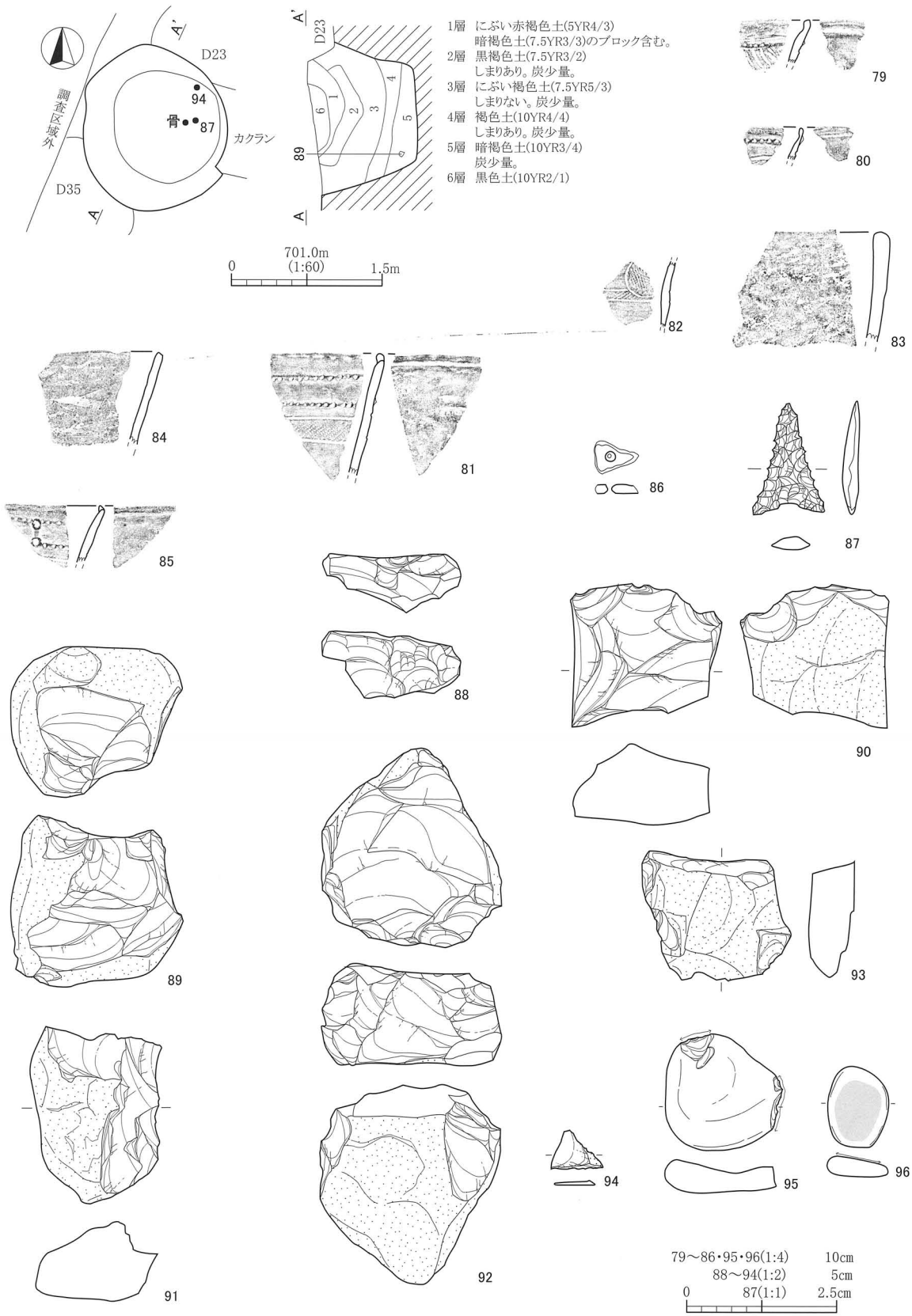


56~74・77・78 (1:4) 10cm
75・76 (1:1) 2.5cm



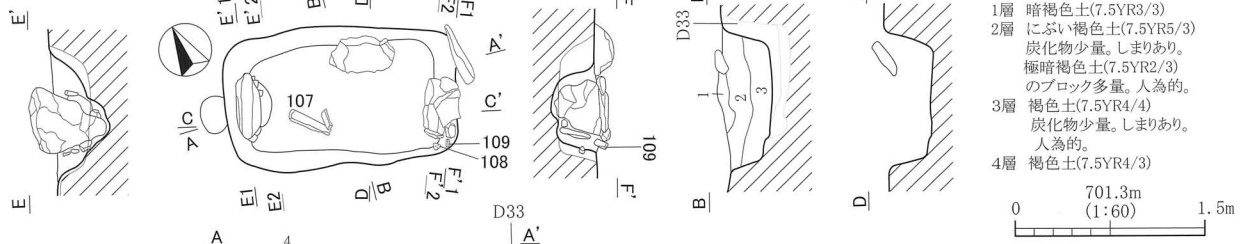
第25図 和田上遺跡Ⅱ B地区 D25号土坑

D26号土坑

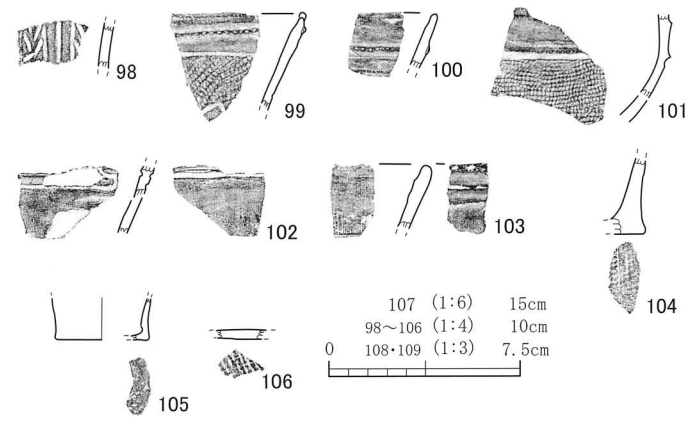
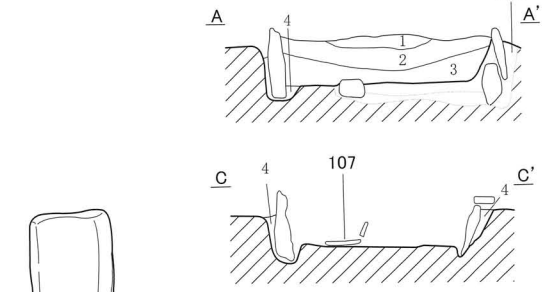


第26図 和田上遺跡Ⅱ B地区 D26号土坑

D27号土坑

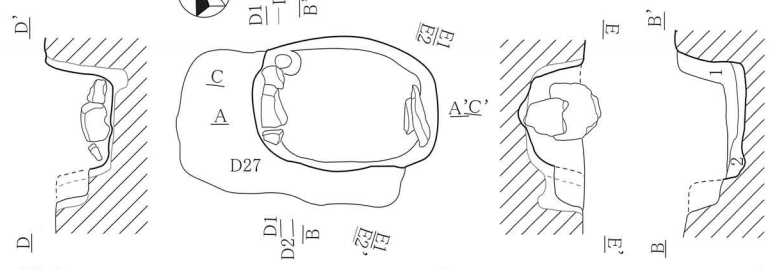


- 1層 暗褐色土(7.5YR3/3)
- 2層 にぶい褐色土(7.5YR5/3)
炭化物少量。しまりあり。
極暗褐色土(7.5YR2/3)
のブロック多量。人為的。
- 3層 褐色土(7.5YR4/4)
炭化物少量。しまりあり。
人為的。
- 4層 褐色土(7.5YR4/3)



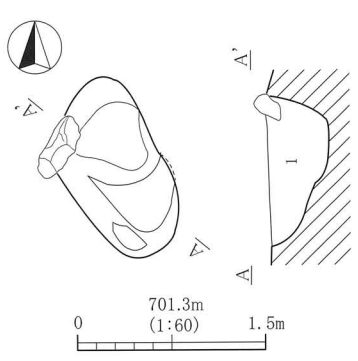
- 107 (1:6) 15cm
- 98~106 (1:4) 10cm
- 108・109 (1:3) 7.5cm

D33号土坑

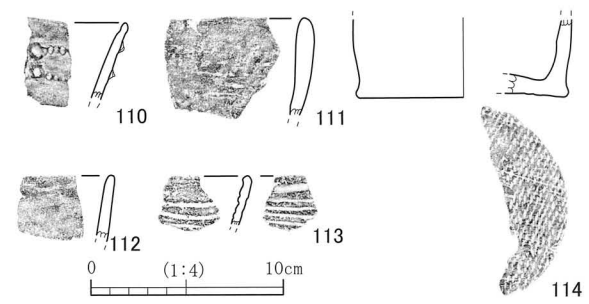


- 1層 にぶい褐色土(7.5YR5/3)人為的。
- 2層 褐色土(7.5YR4/3)人為的。
- 3層 にぶい褐色土(7.5YR5/4)

D28号土坑

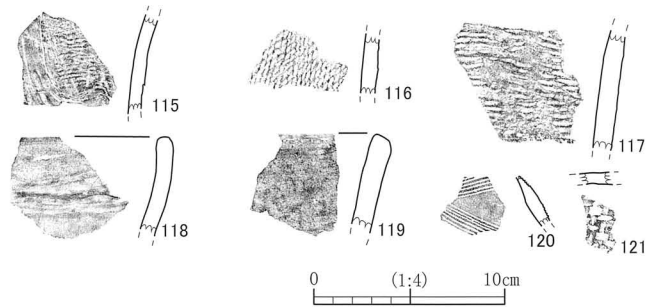
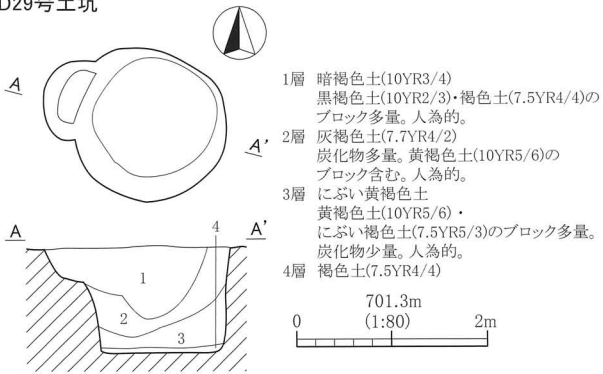


- 1層 暗褐色土(10YR3/3)
黒色土(10YR2/1)・
褐色土(7.5YR4/3)の
ブロック多量。人為的。

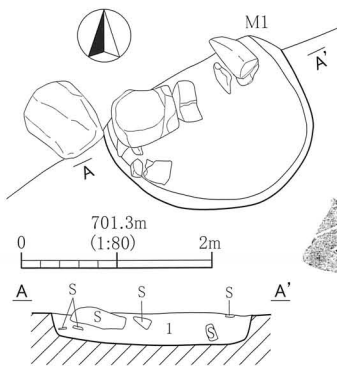


第 27 図 和田上遺跡Ⅱ B地区 D 27 号・D 28 号・D 33 号土坑

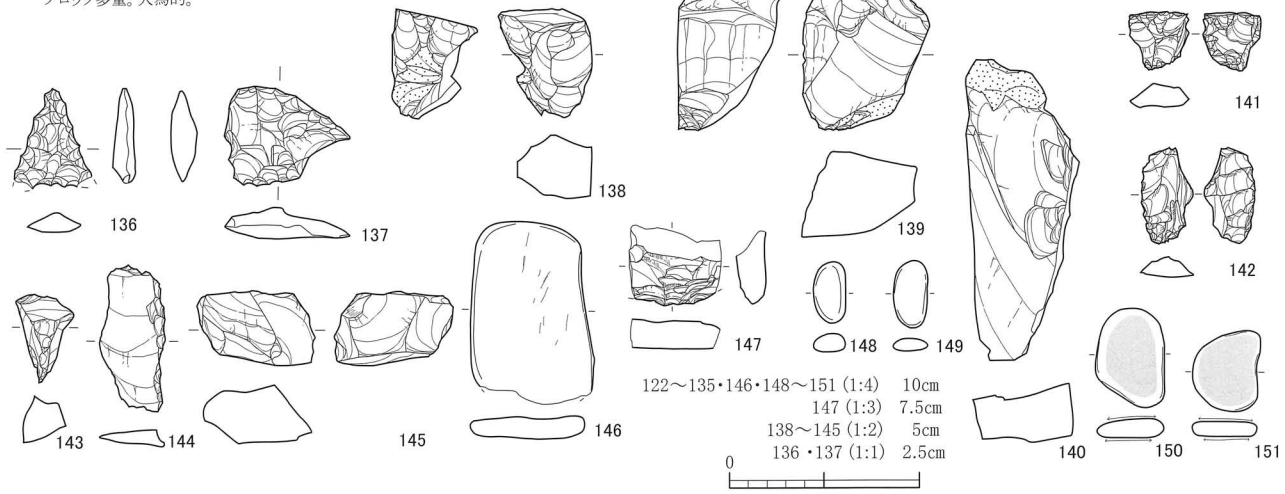
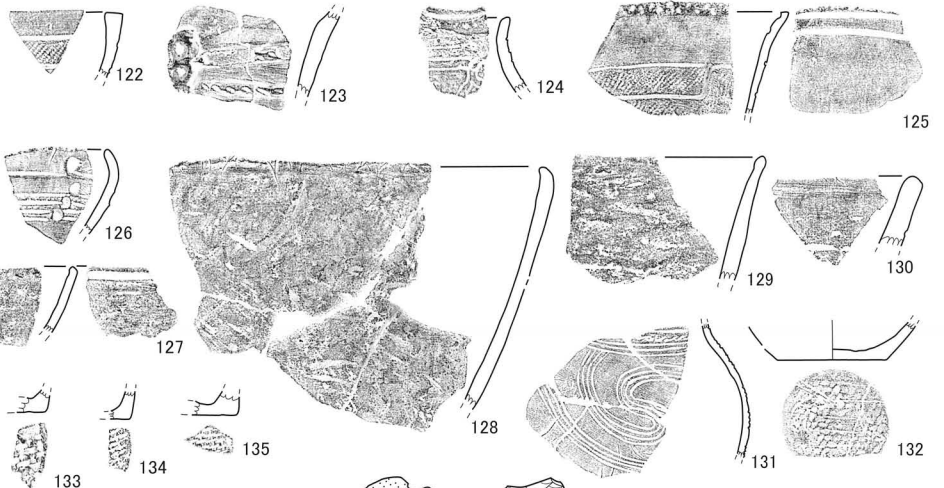
D29号土坑



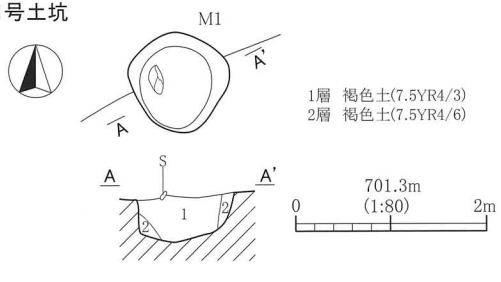
D30号土坑



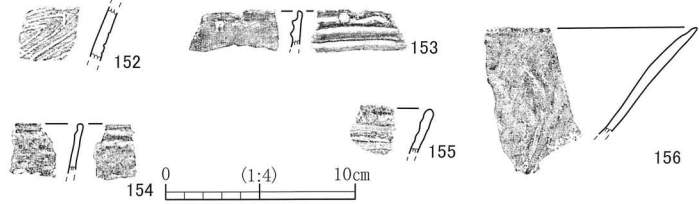
1層 黒褐色土(10YR2/3)
暗褐色土(10YR3/3)・褐色土(7.5YR4/4)の
ブロック多量。人為的。



D31号土坑

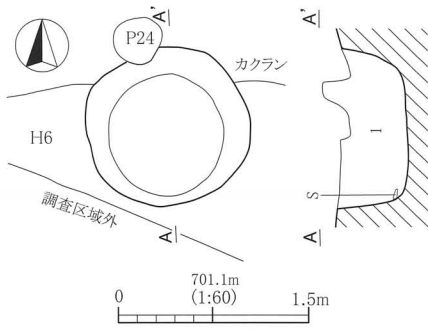


1層 褐色土(7.5YR4/3)
2層 褐色土(7.5YR4/6)

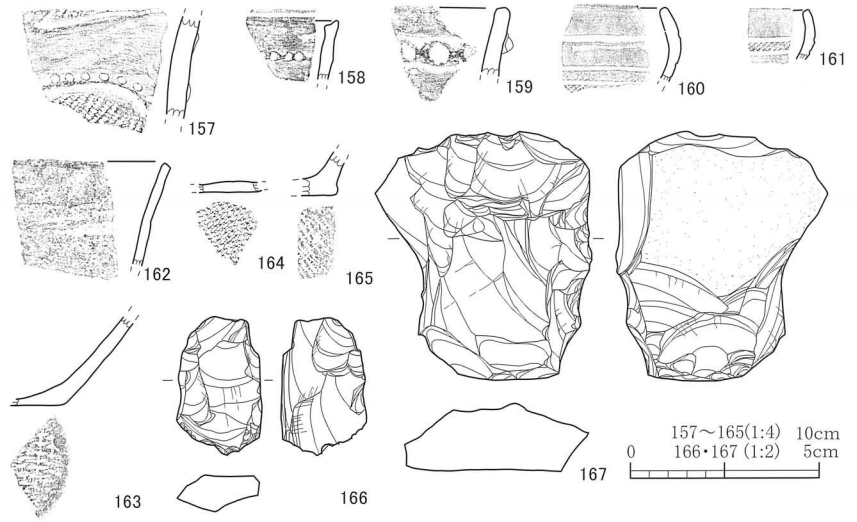


第28図 和田上遺跡Ⅱ B地区 D29号・D30号・D31号土坑

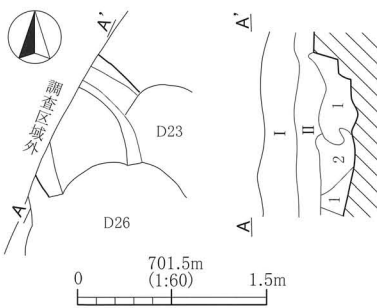
D32号土坑



1層 灰褐色土(7.5YR4/2)
褐色土(7.5YR4/3)
褐色土(7.5YR4/4)
のブロック多量。
黒色土(10YR2/1)
小ブロック少量。
人為的。

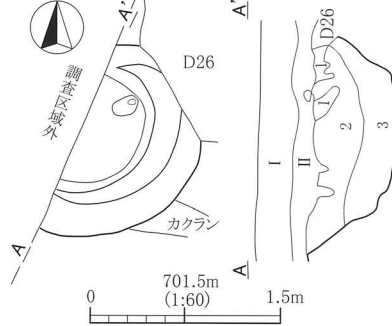


D34号土坑

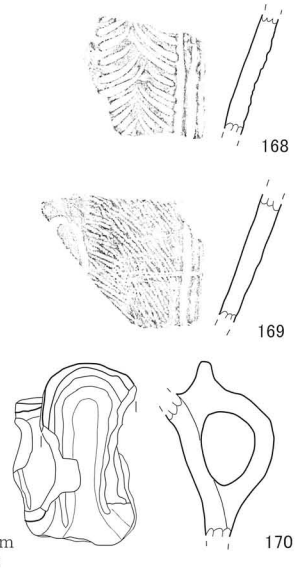


1層 全体層序のII層。
2層 黒褐色土(7.5YR3/2) 褐色土(7.5YR4/4)の
ブロック多量。人為的。
3層 褐色土(7.5YR4/4) 黒色土(10YR2/1)の
小ブロック含む。人為的。

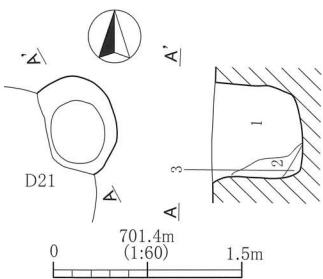
D35号土坑



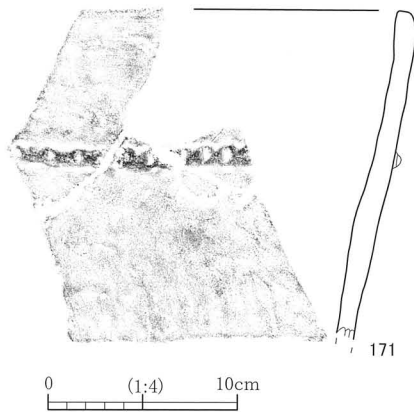
1層 黒褐色土(10YR2/3) しまりない。人為的。
2層 褐色土(10YR4/6) 黒褐色土(10YR2/3) 小ブロック
含む。しまりあり。人為的。
3層 褐色土(7.5YR4/4) しまりない。人為的。



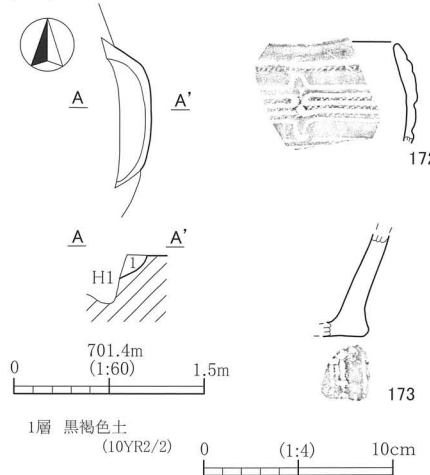
D36号土坑



1層 褐色土(10YR4/4) 黄褐色土(10YR5/6)の
ブロック多量。炭少量。
人為的。
2層 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色土(10YR5/6)の
ブロック少量。人為的。
3層 褐色土(10YR4/6)



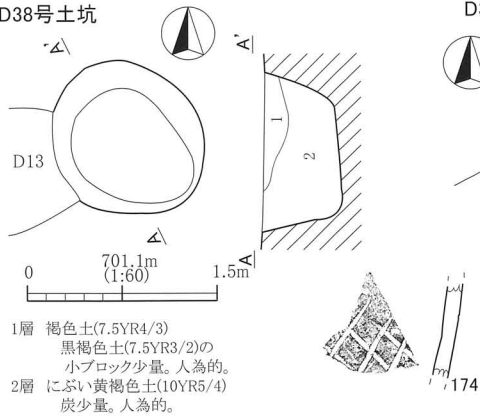
D37号土坑



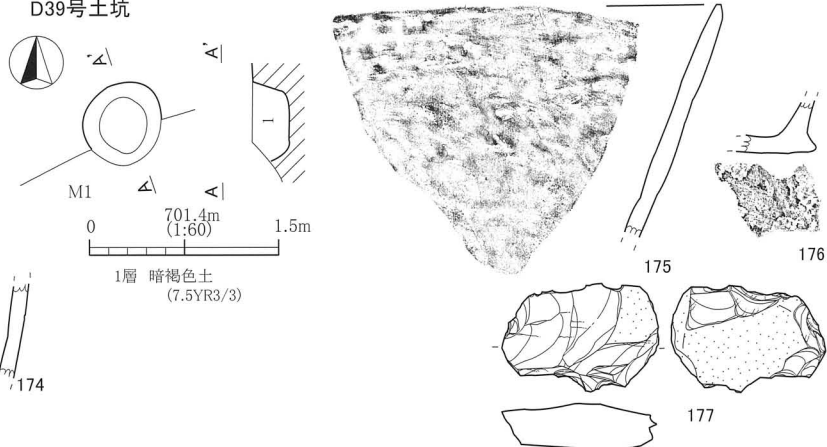
1層 黒褐色土
(10YR2/2)

第29図 和田上遺跡Ⅱ B地区 D32号・D34号・D35号・D36号・D37号土坑

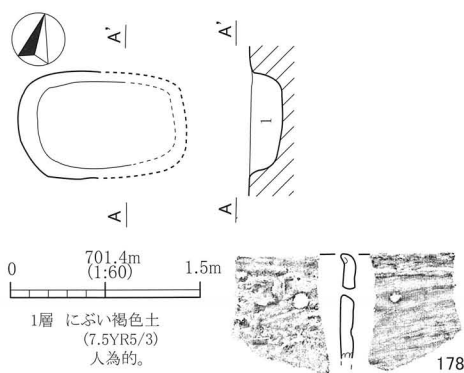
D38号土坑



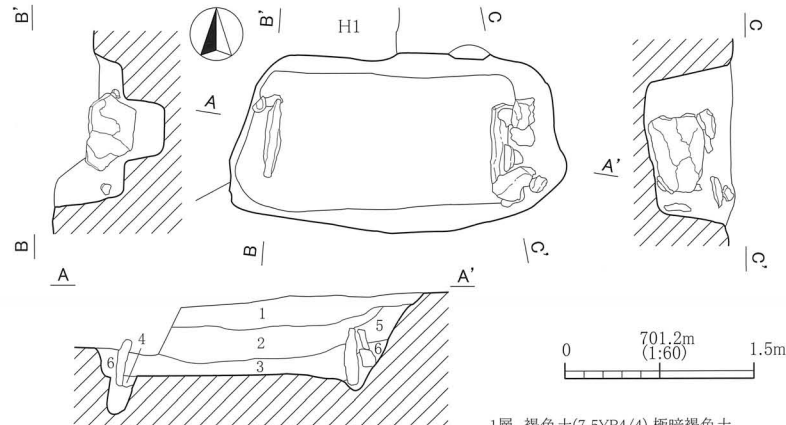
D39号土坑



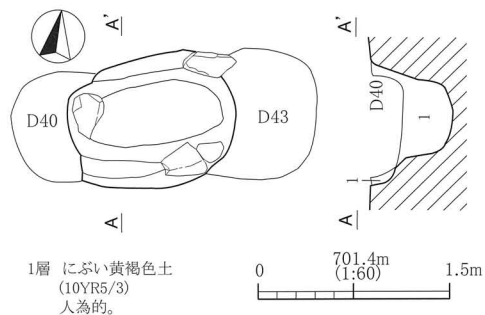
D40号土坑



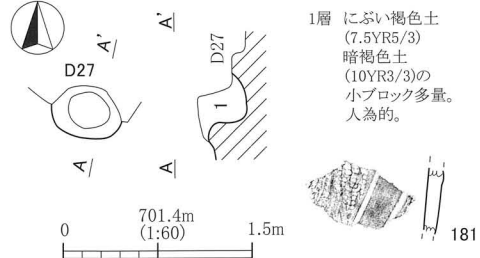
D41号土坑



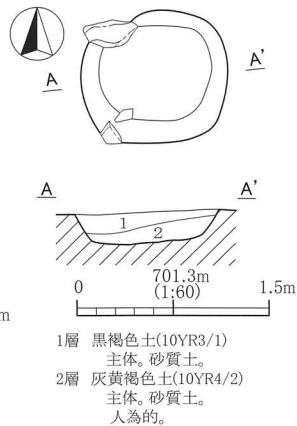
D45号土坑



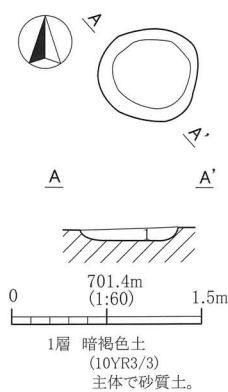
D42号土坑



D43号土坑



D44号土坑



第30図 和田上遺跡II B地区 D38号・D39号・D40号・D41号・D42号・D43号・D44号・D45号土坑



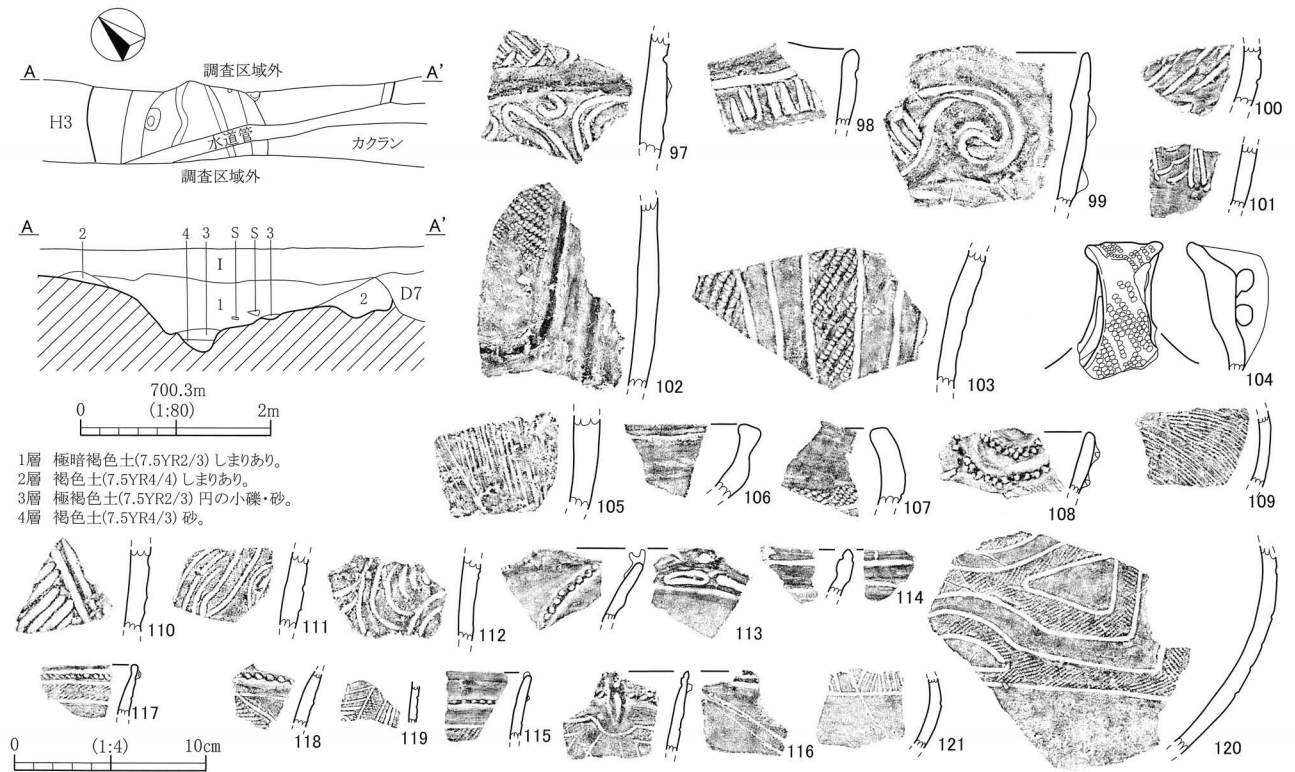
第32図 和田上遺跡Ⅱ B地区 M1号溝状遺構(2)



第33図 和田上遺跡Ⅱ B地区 M1号溝状遺構 (3)

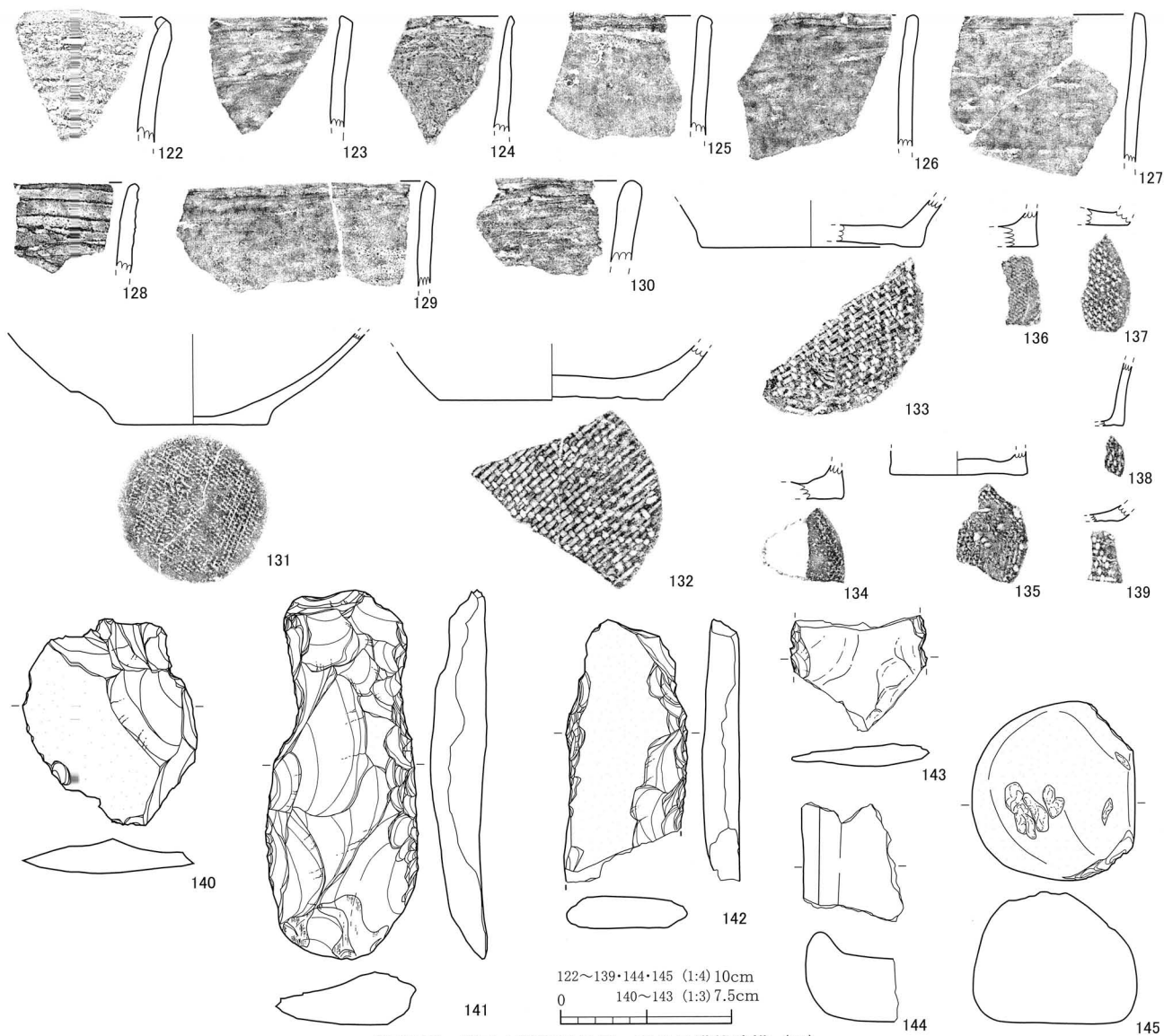
名寺式、堀之内1式、堀之内2式、加曾利B1、加曾利B2等の土器と砥石・打製石斧・敲石等の石器が出土した。最下層第5層から弥生時代中期栗林式土器、11の受口口縁甕・10の大型甕・7~9の壺・3の鉢が集中して出土。2点の弥生時代後期箱清水式の甕28・29は、上層からの出土。本址は断面形態・出土土器から弥生時代中期栗林式期の環濠といえよう。

(2) M2号溝状遺構



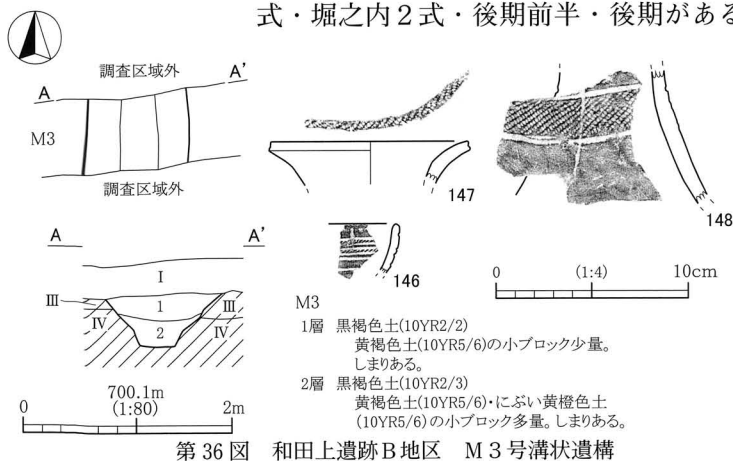
- 1層 極暗褐色土(7.5YR2/3)しまりあり。
- 2層 褐色土(7.5YR4/4)しまりあり。
- 3層 極褐色土(7.5YR2/3)円の小礫・砂。
- 4層 褐色土(7.5YR4/3)砂。

第34図 和田上遺跡Ⅱ B地区 M2号溝状遺構 (1)

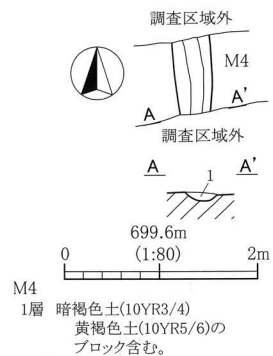


第35図 和田上遺跡B地区 M2号溝状遺構(2)

Ⅲ二-2GrにありH3を切り、D7に切られる。幅3.2m南西側は崖に向かい、北東側は調査区域外に延びる。深さは0.8m、溝底の両側にテラスがある。覆土3・4層は流水があったとみられるが、遺物は磨耗していない。出土した土器はすべて縄文時代で、中期後半・称名寺式・堀之内1式・堀之内2式・後期前半・後期がある。本址の時期は、縄文時代後期が推測される。



第36図 和田上遺跡B地区 M3号溝状遺構



第37図 和田上遺跡Ⅱ B地区 M4号溝状遺構

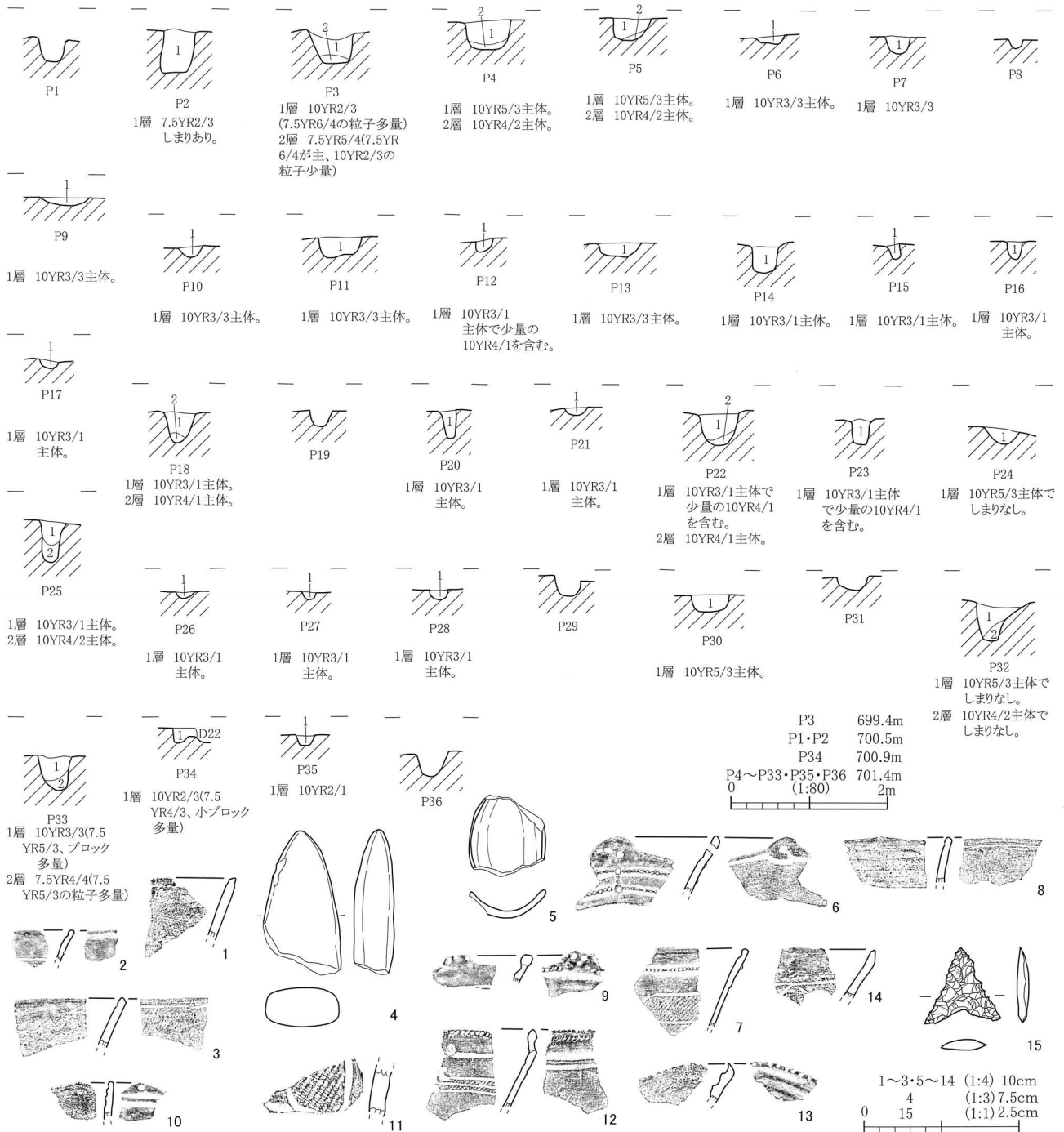
(3) M3号溝状遺構

皿き・く-8Grにあり幅1.2mで深さは0.52m、断面は逆梯子形である。両端とも調査区域外に延びる。流水跡は見られず、溝底は堅くない。遺物は縄文時代加曽利B1式深鉢・弥生時代栗林式壺が出土した。本址は、弥生時代中期栗林式期の所産であろう。

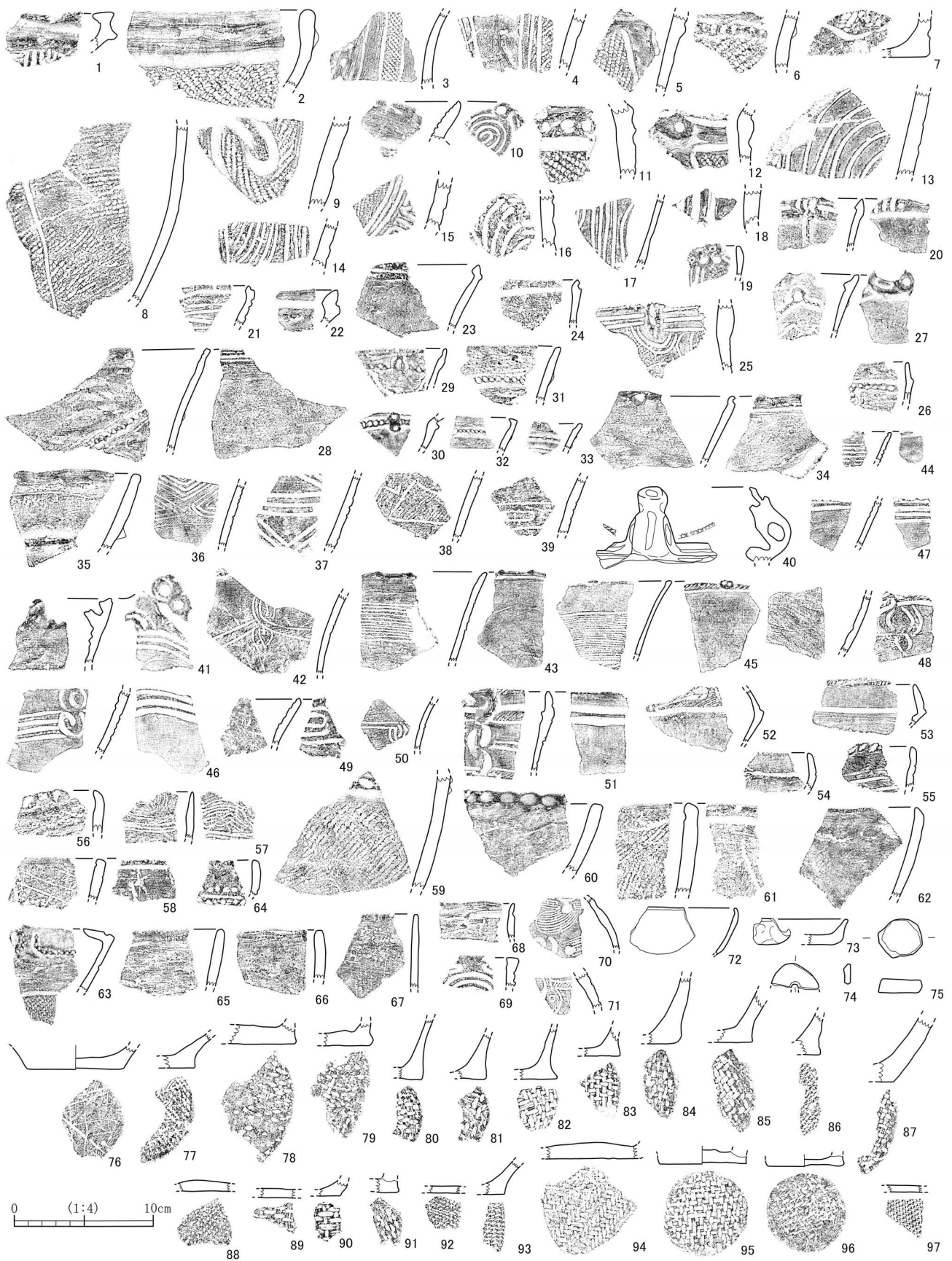
(4) M4号溝状遺構

皿く-9Grにあり幅0.4mで深さは0.10m、断面は「U」字形である。両端とも調査区域外に延びる。流水跡は見られず、溝底は堅くない。出土遺物はない。

4. ピット



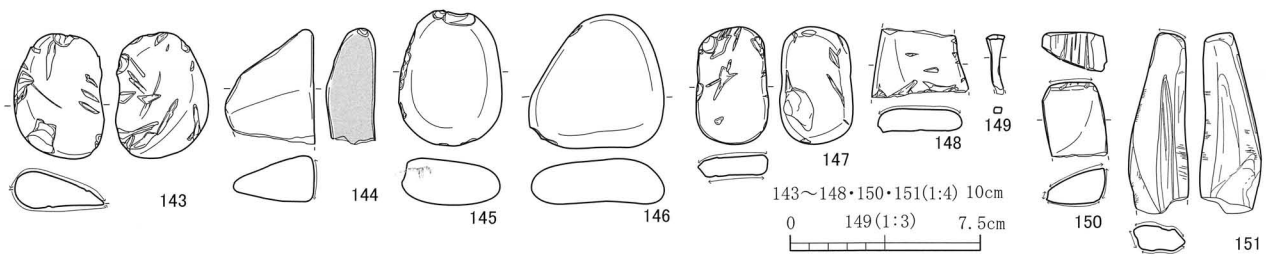
第38図 和田上遺跡Ⅱ B地区 ピット



第39図 和田上遺跡Ⅱ B地区 遺構外出土遺物(1)



第40图 和田上遺跡Ⅱ B地区 遺構外出土遺物(2)



第41図 和田上遺跡Ⅱ B地区 遺構外出土遺物(3)

ピットは36基検出され、P3がH5脇、P33・P34がH4脇、P1・P2がD2・D8の縄文時代と重複し、他の31基は鉄塔予定地点にある。柱・杭等に関連しよう。P4・P5・P7・P9・P12・P18・P22・P34からは、縄文時代中期後半・堀之内2式・加曾利B1等の土器、P4から磨製石斧・P34から石鎌が出土。

5. 遺構外出土遺物

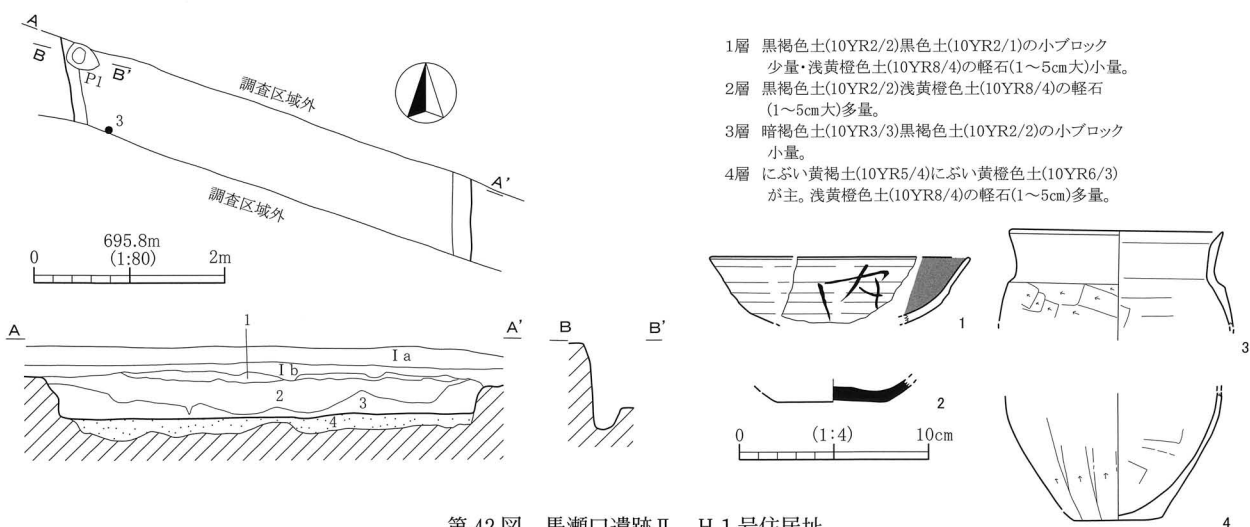
当然ながら遺構が密集する鉄塔予定地点とFトレンチから大半が出土した。遺物は縄文時代中期中葉・中期後半・称名寺式土器はごく少量で縄文時代後期堀之内1・2式や加曾利B1式が多くみられた。

第3節 馬瀬口遺跡Ⅱの遺構と遺物

宇とう沢から市道東幹線まで650m幅0.8mの調査対象地にトレンチを設定した。結果市道よりの東側地点に遺構が偏在していた。竪穴住居址1軒、溝状遺構4条、ピット2基を検出した。西側地点では、宇とう沢に向かう旧河川跡(M1・M2)が見られただけで、遺物の出土はない。

H1号住居址 東西壁一部を検出した。壁間は4.24m壁高0.44m床面は平坦で堅い。長径36cm短径24cm深さ24cmのP1は、少し東に傾く。遺物は内面黒色処理され、「内」が墨書される土師器坏1、底部回転糸切りの須恵器坏2、薄手の土師器甕3・4が出土した。小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代V期-9世紀前半に位置づけられる。

溝状遺構 いずれも両端が調査区域外に延びる。M5は住居址の可能性もある。M6は、第1次調査のM5と方向が合う。テラスを持つM3からは古墳時代後期7世紀代の土師器が出土した。

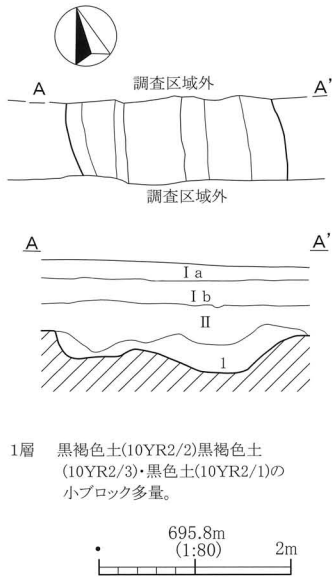


第42図 馬瀬口遺跡Ⅱ H1号住居址

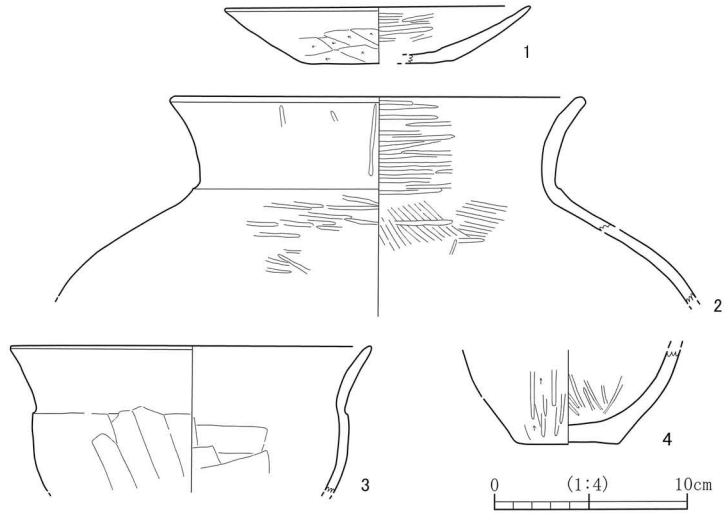
第4節 調査のまとめ

鉄塔建設予定地点を除くと幅1mにも満たない極狭い調査範囲であったが、和田上遺跡ⅡA地区では、和田上南遺跡から続く弥生時代中期と平安時代(9世紀前半)集落の広がりが見明らかになった。和田上遺跡ⅡB地区では、豊富な縄文時代後期の遺物と石棺墓が検出された。さらに、佐久市平賀後家山遺跡に続く2例めとなった弥生時代中期栗林式期の環濠が調査されたことは貴重な成果であった。

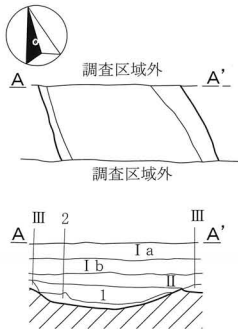
M3



1層 黒褐色土(10YR2/2)黒褐色土(10YR2/3)・黒色土(10YR2/1)の小ブロック多量。

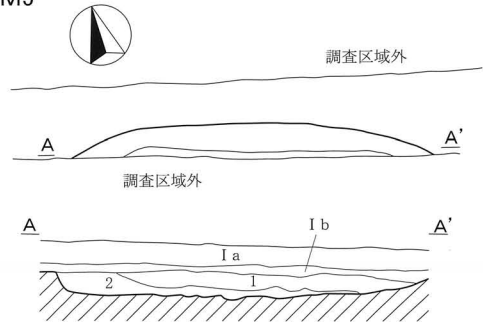


M4



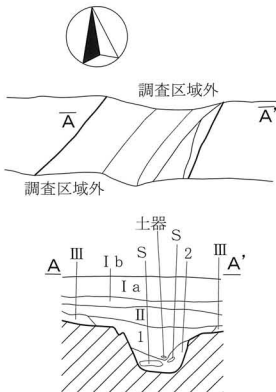
1層 黒褐色土(10YR2/2)黒褐色土(10YR2/3)の小ブロック含む。浅黄橙色土(10YR8/4)の1~3cm大軽石少量。
2層 暗褐色土(10YR3/3)ごく少量の流砂含む。

M5



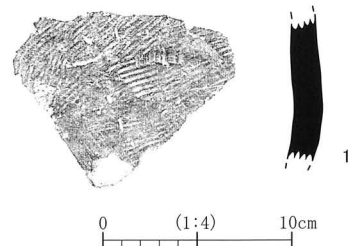
1層 黒褐色土(10YR2/2)浅黄橙色土(10YR8/4)の軽石(1~5cm)少量。
2層 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土(10YR5/6)の小ブロック含む。浅黄橙色土(10YR8/4)の軽石(1~5cm)

M6



1層 黒褐色土(10YR2/2)浅黄橙色土(10YR8/4)の軽石(1~3cm)を少量。
2層 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土(10YR5/6)のブロック含む。浅黄橙色土(10YR8/4)の軽石(1~3cm)を少量。

う5Gr



第43図 馬瀬口遺跡II M3・M4・M5・M6号溝状遺構 遺構外出土遺物

第2表 和田上遺跡Ⅱ A地区H1・H2・H3・H4・H6号住居址出土遺物観察表

(cm)

H1			法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様			推定値()残存値< >丸底●	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備考	出土位置	
1	弥生土器	壺	-	-	<13.7>	ハケ目	ハケ目 頸部ヘラ描平行沈線文間に縄文・ヘラ描連続山形文	完全実測 中期栗林		
2	弥生土器	壺	-	-	-	ハケ目 ヘラナデ	ヘラ描連続文 縄文	中期栗林	No.2	
3	弥生土器	壺	-	-	<8.0>	ヘラナデ	ハケ目→ヘラミガキ	完全実測 中期栗林		
4	弥生土器	甕	12.5	-	<13.9>	ヘラミガキ	口唇部縄文 口縁部縄文・ヘラ描波状文 体部櫛描波状文・縦位櫛描条線文 刻み ヘラミガキ	完全実測 中期栗林	No.1	
5	弥生土器	甕	-	-	-	ハケ目→ヘラミガキ	櫛描波状文 横位条線文	中期栗林		
6	弥生土器	甕	-	-	-	ヘラミガキ	口唇部縄文	中期栗林		
7	弥生土器	甕	(12.0)	-	<9.9>	ハケ目→ヘラミガキ	櫛描斜走文 口唇部刻み	回転実測 中期栗林	No.1	
8	弥生土器	甕	-	6.8	3.4	ヘラミガキ	ハケ目→ヘラミガキ	完全実測 中期栗林		
H2			法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様			推定値()残存値< >丸底●	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備考	出土位置	
1	土師器	坏	(17.0)	(7.4)	5.4	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部外周手持ちヘラケズリ	回転実測	舂方 W区	
2	土師器	坏	(16.0)	-	<5.0>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測		
3	土師器	坏	(15.0)	-	<5.3>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	舂方 E区	
4	土師器	坏	(14.0)	-	<4.6>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	舂方 E区	
5	土師器	坏	(16.0)	-	<4.3>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	舂方 W区	
6	土師器	坏	(17.0)	-	<4.2>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	舂方	
7	土師器	坏	(14.0)	-	<4.8>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測		
8	土師器	坏	(15.0)	-	<3.7>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	A区	
9	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ 墨書判読不能	破片実測		
10	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	破片実測	A区	
11	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	破片実測	A区	
12	土師器	坏	-	6.0	<2.7>	ヘラミガキ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測	舂方	
13	土師器	碗	-	-	<1.8>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付(欠損)	回転実測	A区	
14	土師器	碗	-	(8.2)	<2.0>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付	回転実測	A区 舂方 W区	
15	須恵器	坏	(16.0)	-	<5.2>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	掘り方	
16	須恵器	坏	(13.6)	-	<3.8>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	内外面火だすき有	
17	須恵器	坏	12.8	5.8	4.6	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測	内外面火だすき有	
18	須恵器	坏	-	6.4	<2.5>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測	内外面火だすき有	
19	土師器	甕	(18.8)	-	<5.8>	横ナデ	横ナデ→ヘラケズリ	回転実測	舂方 W区	
20	土師器	甕	(14.0)	-	<4.3>	横ナデ	横ナデ	回転実測	A区	
21	土師器	甕	-	5.8	<7.5>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り後ヘラケズリ 胴下部ヘラケズリ	完全実測	No.1	
22	土師器	甕	-	9.0	<2.5>	ロクロナデ	底部回転糸切り 胴下部ヘラケズリ	回転実測	A区	
23	須恵器	甕	-	-	-	-	-	断面実測		
24	須恵器	甕	-	-	-	-	-	断面実測		
25	土製品	土錘	-	-	-	焼成前穿孔	長さ<2.9> 幅1.4 孔径0.3	-		
H3			法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様			推定値()残存値< >丸底●	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備考	出土位置	
1	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ 墨書	破片実測	A区	
2	土師器	碗	-	8.0	<1.4>	-	-	完全実測	A区	
3	土師器	碗	-	-	<1.7>	ヘラミガキ→暗文施文→黒色処理	ロクロナデ→底部切離し後高台貼付(高台欠損)	回転実測	A区	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	爪形文土器	-	-	縄文時代草創期	
5	弥生土器	壺	-	-	-	ヘラミガキ	口縁部受口状 縄文LR	中期栗林	A区	
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所 見			出土位置
6	台石	輝石安山岩	26.9	24.5	9.1	8630.00	正面に使用面 正面には敲打痕 裏面は滑らか			No.1
7	磨製石斧	硬質砂岩	6.4	3.9	1.0	40.76	研磨段階の未製品と思われる			
8	打製石斧	輝石安山岩	<5.2>	<7.3>	<1.7>	<76.82>	上下欠損			
9	石核?	褐色チャート	2.6	4.4	1.8	29.59	打面→裏面は節理面 下方から剥離 正面上部は打面調整			
10	磨石	花崗岩	<3.3>	4.8	<4.6>	<80.07>	上下欠損 全体にすりか			
H4			法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様			推定値()残存値< >丸底●	
No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整 ・ 備 考			備考	出土位置			
1	弥生土器	壺	底径10.7 器高<28.4> 内面ヘラナデ 外面頸部縄文・ヘラ描平行沈線文 体部櫛描波状文・横位条線文・ハケ目・ヘラミガキ			完全実測 中期栗林	No.1			
2	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ 口縁部縄文・ヘラ描山形文 横位条線文			中期栗林				
3	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ 外面 口唇部縄文 横位条線文			中期栗林				
4	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ 外面口唇部縄文 横位条線文			中期栗林				
5	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ 外面口唇部縄文 横位条線文			中期栗林				
6	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ 外面ヘラによる刻目 ナデ			中期栗林				
7	弥生土器	壺	内面ナデ 外面ヘラ描沈線U字区画内に櫛描(7本)条線文充填			中期栗林				
8	弥生土器	壺	内面ナデ 外面その下にヘラ描平行沈線文 横位条線文			中期栗林				
9	弥生土器	壺	内面ナデ 外面3条のヘラ描平行沈線文間にヘラ描連続山形文 縄文 横位条線文			中期栗林				
10	弥生土器	壺	内面ナデ 外面ヘラ描平行沈線文 横位条線文			中期栗林				
11	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ 外面口唇部縄文 横ナデ			中期栗林				
12	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ 外面櫛描波状文後ヘラによる連続刻目			中期栗林				
13	弥生土器	甕	内面横ナデ 外面口唇部指頭押捺 横ナデ			中期栗林				
14	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ 外面櫛描波状文 縦位条線文			中期栗林				
15	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ 外面櫛描波状文 縦位条線文			中期栗林				
16	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ 外面櫛描波状文 縦位波状文			中期栗林				
17	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ 外面櫛描波状文 縦位波状文			中期栗林				
18	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ 外面櫛描斜走文			中期栗林				
19	弥生土器	甕	底径(12.0) 器高<4.3> 内面ヘラミガキ 外面ヘラミガキ			回転実測 中期栗林				
20	弥生土器	鉢	内面ヘラミガキ 外面ヘラミガキ			破片実測 中期栗林				
21	縄文土器	深鉢	山形押型文			縄文時代早期				
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所 見			出土位置
22	砥石	砂岩	<7.1>	<4.8>	<0.8>	<40.44>	上部欠損 砥面数3			
H6			法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様			推定値()残存値< >丸底●	
No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整 ・ 備 考			備考	出土位置			
1	弥生土器	壺	底径(9.0) 器高<3.1> 内面ナデ 外面ナデ			中期栗林				
2	弥生土器	壺	内面ナデ 外面ヘラ描沈線U字区画内に櫛描条線文充填 ヘラ描平行沈線文 横位条線文			中期栗林				
3	弥生土器	壺	内面ナデ 外面ヘラ描横位沈線文・波状文			中期栗林				

第3表 和田上遺跡Ⅱ B地区H1号住居址出土遺物観察表

(cm)

H1		法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様				推定値()残存値< >丸底●		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面		外 面		備考	出土位置
1	弥生土器	鉢	-	-	-	ミガキ→赤色塗彩		ミガキ→赤色塗彩 口縁部対の突起		破片実測 中期栗林	I区2層
2	弥生土器	鉢(注口)	-	5.6	<6.3>	ハケ目		胴部ミガキ→赤色塗彩 底部ミガキ 上方に向く注口 焼成前穿孔		中期栗林	I区2層・3層
3	弥生土器	鉢	-	6.0	<2.0>	ミガキ→赤色塗彩		胴部ミガキ→赤色塗彩 底部ミガキ		完全実測 中期栗林	IV区3層
4	弥生土器	鉢	-	(5.2)	<1.6>	ミガキ→赤色塗彩		ミガキ→赤色塗彩		完全実測 中期栗林	No.3
5	弥生土器	壺	10.8	-	<7.4>	口縁部横ナデ・頸部ナデ→ミガキ		頸部ナデ→口縁部横ナデ→ミガキ 口縁部横ナデLR 頸部へら描平行沈線		完全実測 中期栗林	No.3
No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整 ・ 備 考				備考	出土位置			
6	弥生土器	壺	内面ミガキ 外面口唇部縄文 頸部縄文LR地文へら描平行沈線				中期栗林	IV区2層			
7	弥生土器	壺	内面ミガキ 口唇部・口縁部縄文LR				中期栗林	II区2層			
8	弥生土器	壺	内面ミガキ 外面口縁部縄文LR円形貼付文				中期栗林	I区2層			
9	弥生土器	壺	内面ミガキ 外面口唇部縄文LR				中期栗林	II区2層			
10	弥生土器	壺	内面磨耗 外面口唇部縄文 口縁部縄文LR地文へら描斜走沈線				中期栗林	III区3層			
11	弥生土器	壺	内面ナデ・ハケ目→頸部ミガキ 外面頸部へら描平行沈線 器高<26.4>				磨耗 中期栗林	No.12~14・15・16 III区2層 III区3層			
12	弥生土器	壺	内面ミガキ 外面口唇部縄文 口縁部縄文LR地文へら描波状文				中期栗林	I区2層			
13	弥生土器	壺	内面ミガキ 外面口唇部縄文 口縁部縄文LR地文へら描連続山形文				中期栗林				
14	弥生土器	壺	内面ミガキ 外面口唇部縄文 口縁部縄文LR地文へら描連続山形文				中期栗林				
15	弥生土器	壺	内面ミガキ 外面ミガキ 頸部へら描平行沈線間に連続刺突				中期栗林	III区3層			
16	弥生土器	壺	内面ハケナデ 外面胴部へら描平行沈線間のへら描連続山形文を上下の刺突列が挟む 胴下部へら描連続弧文 連続対頂部に円形貼付文 地文の縄文LRは連続山形文までは文様施工前にはそれ以外の文様施工後に施される				中期栗林	No.7 III区3層 IV区2層			
17	弥生土器	壺	内面ハケナデ 外面ミガキ へら描斜走沈線内に縄文LR充填				中期栗林				
18	弥生土器	壺	底径6.4 器高<11.8> 内面ハケ目 外面胴部ミガキ 底部ミガキ				中期栗林	No.1			
19	弥生土器	台付甕?	内面ミガキ 外面口唇部縄文 頸部描縞状文 胴部描斜走文				中期栗林	No.18			
20	弥生土器	台付甕?	内面ミガキ 外面口唇部縄文 頸部描横位条線文 胴部描波状文				中期栗林	I区2層			
21	弥生土器	台付甕?	内面ミガキ 外面口唇部縄文・指頭捺捺頸部描横位条線文 胴部描斜走文				中期栗林	No.6			
22	弥生土器	台付甕?	内面ミガキ 外面口唇部縄文 胴部描波状文				中期栗林	No.2			
23	弥生土器	台付甕?	内面ミガキ 外面口唇部縄文LR 胴部描斜走文(?)				中期栗林	I区2層			
24	弥生土器	台付甕?	口径11.2 器高<3.6> 内面ミガキ 外面口唇部縄文 胴部へら描横位沈線下連続コ字文				中期栗林	I区2層			
25	弥生土器	甕	内面ミガキ 外面口唇部縄文・指頭捺捺				中期栗林				
26	弥生土器	甕	内面ミガキ 外面描縦位条線文後横位波状文				中期栗林				
27	弥生土器	甕	底径8.0 器高<8.6> 内面ハケ目→ミガキ 外面胴部ミガキ 底部ミガキ 内外面磨耗				中期栗林	I区床・2層・3層			
28	縄文土器	深鉢	隆帯頂部から下に山形状の沈線				中期後半~後期初頭	制方			
29	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口唇部刻み 口縁下2条の刻み隆帯横位沈線縄文				堀之内2	II区2層			
30	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯上に円形と楕円形貼付文 帯縄文(LR)				堀之内2	I区2層			
31	縄文土器	深鉢	3条の横位沈線 L形区切り 内面3条の横位沈線				加曾利B1	IV区2層			
32	縄文土器	深鉢	6条の横位沈線 L形区切り 縄文LR充填				加曾利B1	IV区2層			
33	縄文土器	深鉢	口縁部内湾 9条の横位沈線 L形区切り 沈線間に縄文LR充填				加曾利B1	I区1層 IV区2層			
34	縄文土器	深鉢	内削状口縁 上位4条下位2条の横位沈線間に斜め条線充填				加曾利B1	I区制方 IV区床			
35a	縄文	注口土器	口唇部刻み 口縁部3条の横位沈線 肩部横位沈線間に下りの斜め沈線 その下両端に円形刺突される 5条の横位沈線 肩部の渦巻沈線から端に円形刺突される弧状沈線 さらに5条の横位沈線から6条の弧状沈線				加曾利B1	I区制方 IV区2層・床			
35b	35aと同一個体		2条の横位沈線切る 5条の弧状沈線の上に弧状の沈線 その下胴部最大径あたりに上下2条の横位沈線間に左下りの斜め沈線充填				加曾利B1				
35c	35aと同一個体		2条の横位沈線の下 上下2条の横位沈線間に左下りの斜め沈線充填				加曾利B1				
36	縄文	注口土器	4条の横位沈線間に斜め連続刻み 下位に2条の横位沈線 上下位の沈線間に対弧状の区切り				加曾利B1	III区3層			
37	縄文土器	注口土器	2条の横位沈線間に5条の細い横位沈線沈線上に縄文LR				加曾利B1	I区2層・3層			
38	縄文土器	注口土器	口縁部直立内折 内面受口状 側面と内面に透し孔有す 把手頂部に円文と盲孔 把手下端両側に対の円形刺突 口唇部に細い斜めの連続刻み()形の小突起が付される 小突起下の対の円形刺突から横位の沈線 さらにその下に把手からのびる横位沈線				加曾利B1	No.9			
39	縄文土器	注口土器	肩部渦巻沈線 平行沈線間に右下りの沈線充填 渦巻文から端に円形刺突される6条の弧状沈線 弧状の沈線間に沈線				加曾利B1				
40	縄文土器	注口土器	渦巻(?)沈線から横位沈線間に細い沈線充填				加曾利B1	I区1層			
41	縄文土器	注口土器	渦巻(?)沈線から垂下する2条以上の弧状沈線と横位平行沈線間に左下りの斜め沈線充填				加曾利B1				
42	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い				後期				
43	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い				後期	I区1層			
44	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い				後期	II区2層			
45	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり				後期	IV区2層			
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所 見		出土位置		
46	石核	黒曜石	4.6	4.5	1.5	24.37			No.34		
47	石核	黒曜石	3.1	2.2	1.2	7.71	正面は自然面か		No.33		
48	石核	灰色チャート	<2.0>	<2.0>	<0.5>	<1.45>	左脚先端欠損		No.29		
49	石核	黒曜石	<1.4>	<1.1>	0.2	<0.23>	左脚先端欠損		No.28		
50	石核	黒曜石	<1.0>	1.5	0.3	<0.38>	上部欠損		No.24		
51	石核	黒曜石	<0.9>	1.5	<0.2>	<0.35>	上部欠損		No.27		
52	楔?	黒曜石	2.0	1.5	0.7	1.65	上下からの剥離 模様使用か		IV区2層		
53	二次加工のある剥片	黒曜石	1.3	0.85	0.25	0.29	左側~下部に二次加工痕		P2		
54	石錐	黒曜石	3.1	1.2	1.0	3.31	下部部に磨滅		I区2層		
55	削器?	硬質砂岩	7.1	11.7	1.2	119.20	自然面を残す剥片 下辺は使用による剥離痕か		No.20		
56	剥片	硬質砂岩	7.4	7.1	2.0	114.23	自然面残る剥片		I区		
57	剥片	輝石安山岩	9.1	6.2	3.0	150.69			No.32		
58	剥片	黒曜石	3.1	1.2	1.0	3.31	裏面は自然面		I区2層		
59	剥片	黒曜石	1.9	3.8	1.2	6.22	上側は自然面		No.38		
60	不明	硬質砂岩	5.1	3.3	1.6	28.74	両側は使用痕か?		I区3層		
61	磨製石斧	石英閃緑岩	<4.8>	<6.0>	<3.0>	<188.49>	上部欠損 正面と刃部に敲打状の痕		No.39		
62	砥石	砂岩	8.7	4.4	1.3	60.51	砥面数2 正裏に条痕		I区床		
63	磨石	輝石安山岩	17.5	9.7	6.7	1721.44	正裏・全体にすり		No.22		
64	砥石?	砂岩	5.7	4.2	1.1	24.07	右側に刻み状の痕跡 使用痕か不明		I区3層		
65	磨石	砂岩	<8.2>	<5.3>	<1.2>	<56.27>	下部欠損 正面にすり面		No.26		
66	磨 敲石	砂岩	7.6	4.7	1.6	69.08	正面にすり面 下部部に敲打痕		I区制方		
67	敲石	輝石安山岩	<11.1>	<5.8>	<3.7>	<349.50>	左側欠損 右側に敲打痕		No.19		
68	磨 敲石	輝石安山岩	<11.1>	<11.7>	<3.0>	<576.83>	下部欠損 上部部に敲打痕 裏面にすり面		No.43		
69	台石	輝石安山岩	17.6	25.7	6.2	4670.00	被熱あり(側~裏面黒化) 正裏に使用面と思われる滑らかな面有り		No.41		
70	台石	輝石安山岩	<25.1>	<12.3>	<6.5>	<2640>	左側~右側欠損 正面が使用面か		No.42		

第5表 和田上遺跡Ⅱ B地区H4・H5・H6・H7号住居址・土坑出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整 ・ 備 考					備考	出土位置
49	縄文土器	深鉢	網代底 2本越2本潜り						
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所 見	出土位置	
50	磨石	砂岩	6.3	4.7	1.7	66.40	正裏・上側にすり面 周囲は使用痕か?		
51	敲石	砂岩	9.1	3.6	1.7	70.10	上下端部に敲打痕		
52	石鏃	黒灰色チャート	1.5	1.4	0.3	0.56	ほぼ完形	No.3	
53	打製石斧	硬質砂岩	<4.9>	<5.8>	<1.7>	<57.47>	上部欠損	Ⅱ区2層	
54	管玉	碧玉	0.25	0.25	1.7	0.22	孔径0.1	No.1	
55	管玉	碧玉	0.25	0.25	1.0	0.13	孔径0.1	No.2	
H5			法 量				成形・調整・文様		推定値()残存値<>丸底●
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備考	出土位置
1	土師器	碗	-	7.6	<2.2>	ヘラミガキ→暗文→黒色処理	コクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付	回転実測	No.1
2	土師器	碗?	-	6.9	<2.6>	ヘラナデ	コクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付	完全実測	フク土
3	土師器	碗	-	(8.0)	<2.8>	ヘラミガキ→黒色処理	コクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付	回転実測	フク土
4	土師器	坏	(14.0)	-	<4.6>	コクロナデ→黒色処理	コクロナデ	回転実測	フク土
5	土師器	坏	(13.0)	(7.0)	3.5	コクロナデ→黒色処理	コクロナデ→底部回転糸切り 墨書「丈」	回転実測	フク土
6	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	墨書「?」	断面実測	フク土
7	土師器	坏	(14.1)	-	<3.4>	ヘラミガキ→花暗文施文 黒色処理	コクロナデ	回転実測	フク土
No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整 ・ 備 考					備考	出土位置
8	縄文土器	深鉢	楕円状の隆帯なぞる沈線 区画内に楕円形沈線と斜位沈線					中期後半	フク土
9	縄文土器	深鉢	波状口縁 口縁に沿って2列の連続円形刺突					称名寺	フク土
10	縄文土器	深鉢	口縁に沿った連続刺突の下横位沈線 縄文					称名寺	フク土
11	縄文土器	深鉢	2条の横位沈線					堀之内2	フク土
12	弥生土器	壺	口唇部に縄文LR					中期栗林	カマト
H6			法 量				成形・調整・文様		推定値()残存値<>丸底●
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備考	出土位置
1	弥生土器	壺	13.0	-	<6.7>	ヘラミガキ	ヘラミガキ 口唇部縄文LR 頸部ヘラ描横位沈線	中期栗林	No.2
2	弥生土器	壺	-	-	-	口縁に沿った連続刺突 地文に縄文LR	ヘラ描連続山形文 口唇部縄文LR 刻み付く小突起	中期栗林	フク土
3	弥生土器	壺	13.6	-	<12.1>	ヘラナデ→ヘラミガキ	口唇部縄文LR 頸部縄文LR施文後4条の横位平行沈線	中期栗林	No.1
4	弥生土器	壺	-	7.8	<11.7>	ナデ	ヘラミガキ	中期栗林	フク土
No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整 ・ 備 考					備考	出土位置
5	縄文土器	深鉢	口縁部下に刻み隆帯					後期前半	フク土
6	縄文土器	深鉢	外面弧状の微隆起帯					称名寺	フク土
7	縄文土器	深鉢	J字(?)状沈線 縄文LR充填					称名寺	フク土
8	縄文土器	鉢	垂下する刻み隆帯					堀之内	フク土
9	縄文土器	鉢	2条の横位隆帯を跨ぐ貼付文 貼付文の両端に円形刺突もつ縦位沈線					堀之内2	フク土
10	縄文土器	浅鉢?	内面4条の横位平行沈線					堀之内2	フク土
11	縄文土器	深鉢	横位細い沈線から2条の弧状平行沈線					堀之内2	フク土
12	縄文土器	深鉢	無文 口縁部内側に若干肥厚					後期前半	フク土
13	縄文土器	鉢?	網代底 2本越1本潜り 素材細いもう一つの編物痕あり					後期	フク土
14	縄文土器	鉢?	網代底 編み方不明					後期	フク土
15	縄文土器	鉢?	網代底 2本越1本潜り 素材細い					後期	フク土
16	縄文土器	鉢?	網代底 (2本越1本潜り)?					後期	フク土
17	縄文土器	深鉢	S字と円形貼付文の突起 突起内面首 口唇部斜めの刻み突起下に円文さらに刺突を囲む弧状沈線 そこから縄文LR充填される3条の横位沈線が2段 突起内に対弧状沈線の区切りがみられる 内面3条の横位沈線					加曾利B1	フク土
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所 見	備考	出土位置
18	敲石	砂岩	13.0	4.7	3.4	492.14	被熱あり? (全体に赤化) 上部と正面に敲打痕		P1
19	石鏃	黒曜石	1.3	0.65	0.2	0.13			No.4
20	石鏃	褐色チャート	2.1	1.2	0.25	0.35			No.3
H7			文 様 ・ 調 整 ・ 備 考						
No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整 ・ 備 考					備考	出土位置
1	縄文土器	深鉢	波状口縁とみられる 口縁下の隆帯上下に中小の円形刺突列 隆帯は弧状を描くか?					称名寺	フク土
2	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆帯					堀之内2	フク土
3	縄文土器	注口土器	沈線区画内に細かな刺突充填					堀之内2	フク土
4	縄文土器	深鉢	口縁部内湾 4条の横位沈線 内面2条の沈線					加曾利B1	フク土
5	縄文土器	鉢	底径(13.0) 器高<2.0> 網代底 2本越2本潜り 横条間隔あり					後期	フク土
6	縄文土器	鉢	網代底 2本越2本潜り					後期	フク土
7	縄文土器	鉢	底径(9.0) 器高<2.2> 網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり					後期	フク土
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所 見	備考	出土位置
8	石核?	輝石安山岩	5.9	5.7	1.8	58.14	正面と上側は自然面か?		

和田上遺跡Ⅱ B地区土坑

No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整 ・ 備 考					備考	出土位置
1	縄文土器	鉢	弧状沈線 縄文LR充填					堀之内1	D1
2	縄文土器	深鉢	内湾気味に立上る 厥手状の押圧隆帯 器高<19.5>					称名寺	D2
3	縄文土器	深鉢	木葉痕 底径11.0					後期	D2
4	縄文土器	深鉢	口縁端部屈曲 片矢印状の沈線 磨消縄文LR					称名寺	D3
9	縄文土器	鉢	弧状沈線 縄文LR充填					堀之内1	D5
11	縄文土器	深鉢	所謂粗製土器					後期?	D7
12	縄文土器	深鉢	磨耗著しい 所謂粗製土器					後期	D7
13	縄文土器	深鉢	沈線 軸巻捺糸					称名寺	D9
14	土師器	碗	回転糸切り後高台貼付 黒色処理 底径7.2 器高<3.6>					9世紀代	D11
15	縄文土器	深鉢	突起部内面円形刺突から口縁に沿って沈線					堀之内1	D11
16	縄文土器	深鉢	弧状・斜行沈線区画内縄文LR充填 一部縄文が交差して施文される					称名寺	D11
17	縄文土器	深鉢	縄文FR施文					後期	D11
18	弥生土器	甕	受け口状口縁 口唇部縄文LR 口縁部櫛描波状文					中期栗林	D11
19	弥生土器	甕	櫛描波状文の後 櫛歯状工具による刻み					中期栗林	D11
23	縄文土器	深鉢	所謂粗製土器					後期	D12
24	縄文土器	深鉢	3条の横位沈線 内面2条の沈線					加曾利B1	D13
25	縄文土器	深鉢	内面黒色の付着物 網代底 少なくとも3種類の編物痕あり 所謂粗製土器 底径12.1 器高<10.3>					後期	D14
26	土師器	坏	底部回転糸切り 内面黒色処理 口径(15.4) 底径6.8 器高4.4					9世紀代	D16
27	土師器	坏	底部回転糸切り 内面黒色処理 口径(13.0) 底径(5.6) 器高4.3					9世紀代	D16

第6表 和田上遺跡Ⅱ B地区土坑出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整 ・ 備 考	備考	出土位置
28	縄文土器	深鉢	底径(7.6) 器高<4.4>	中期後半?	D19
29	縄文土器	深鉢	沈線区画内に短沈線	中期後半	D19
30	縄文土器	深鉢	厥手文 沈線区画内に斜位の沈線(唐草文系)	中期後半	D19
31	縄文土器	深鉢	縄文LR	中期後半	D19
32	縄文土器	深鉢	無文	中期後半	D19
37	縄文土器	土器片円板	胴部片 縄文LR 敲打痕 剥離面 口径3.4 厚さ1.2	中期後半	D21
38	縄文土器	深鉢	口縁部内湾 左右非対称の突起 3条の横位沈線 楕円形状の区切り	加曾利B1	D23
39	縄文土器	深鉢	口縁部内湾 口縁部に平行沈線 その下3条の横位沈線 縄文LR充填	加曾利B1	D23
40	縄文土器	深鉢	3条の横位沈線 細縄文が充填されお玉杓子状の区切り 内面3条の横位沈線	加曾利B1	D23
47	縄文土器	深鉢	口縁部内湾 片尖印状沈線 沈線区画内縄文LR充填	称名寺	D24
48	縄文土器	深鉢	口縁部内湾 横位 弧状沈線 49と同一個体か?	称名寺	D24
49	縄文土器	深鉢	49と同一個体か?	称名寺	D24
50	縄文土器	深鉢	口縁部内側に肥厚する 沈線区画内に縄文RL	称名寺	D24
51	縄文土器	深鉢		後期	D24
52	縄文土器	深鉢	口縁部外反する	後期	D24
53	縄文土器	深鉢	波状口縁 口縁下微隆帯 縄文LR	称名寺	D24
54	縄文土器	深鉢	縄文LR	後期前半	D24
55	縄文土器	深鉢	縄文LR	中期前半	D24
56	縄文土器	深鉢	波状口縁 弧状隆帯 沈線	中期後半	D25
57	縄文土器	深鉢	口縁下端・外側肥厚する	中期後半	D25
58	縄文土器	深鉢	縦位・斜位の沈線	中期後半	D25
59	縄文土器	深鉢	沈線区画内縄文RL充填	中期後半	D25
60	縄文土器	深鉢	沈線区画内縄文RL充填	中期後半	D25
61	縄文土器	深鉢	縄文LR	後期前半	D25
62	縄文土器	深鉢	弧状沈線	中期末~後期初頭	
63	縄文土器	深鉢	縦位沈線を切る 蛇行沈線	中期末	D25
64	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による弧状・縦位条線	中期末~後期初頭	D25
65	縄文土器	深鉢	口縁部内湾 口縁下横位沈線	加曾利B	D25
66	縄文土器	深鉢	透し孔 口唇部に対の円形刺突 内面透し孔・口縁に沿って沈線	堀之内2	D25
67	縄文土器	深鉢	口縁部内湾 口唇部に刻み 3条の横位沈線 磨消縄文 その下弧状沈線	加曾利B1	D25
68	縄文土器	深鉢	口縁部内湾 4条の横位沈線 磨消縄文LR 内面横位2条の沈線	加曾利B1	D25
69	縄文土器	深鉢	口縁部内湾 横位2条の沈線 磨消縄文LR 円形・弧状の沈線の区切り	加曾利B1	D25
70	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位沈線 磨消縄文LR L形・お玉杓子状区切り	加曾利B1	D25
71	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位沈線 磨消縄文LR 弧状沈線の区切り	加曾利B1	D25
72	縄文土器	深鉢	底径8.1	後期	D25
73	縄文土器	深鉢	口縁部内側やや肥厚し内折(沈線)をうかがわせる 2条の横位押圧隆帯 横位と弧状の平行沈線を短沈線と対弧状沈線で区切る	加曾利B1	D25
74	縄文土器	深鉢	網代底 3本越3本潜り 編み方密	後期	D25
79	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆線 弧状沈線	堀之内2	D26
80	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆線 横位沈線	堀之内2	D26
81	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の横位刻み隆線 平行沈線間に縄文LR充填	堀之内2	D26
82	縄文土器	深鉢	幾何学文 縄文LR充填	堀之内2	D26
83	縄文土器	深鉢	口唇部平 所謂粗製土器	後期	D26
84	縄文土器	深鉢	口唇部平 所謂粗製土器	後期	D26
85	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の横位刻み隆線を跨ぐ8字貼付文 沈線区画内に縄文	後期	D26
86	縄文土器	土製品	有孔土器片円板(三角形) 胴部片 敲打痕 長さ2.8 厚さ0.5	後期	D26
98	縄文土器	深鉢	垂下する3条の沈線 稜形状の沈線	中期後半	D27
99	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部下横位刻み隆線 沈線区画内に縄文LR充填	堀之内2	D27
100	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の横位刻み隆線	堀之内2	D27
101	縄文土器	鉢	2条の間隔ある隆線 隆線下をなぞる沈線 縄文LR充填	堀之内2	D27
102	縄文土器	深鉢	区切り文 横位沈線 内面横位沈線	加曾利B1	D27
103	縄文土器	深鉢	内面微隆起帯	加曾利B1	D27
104	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	D27
105	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い 底径(8.0) 器高<2.2>	後期	D27
106	縄文土器	深鉢?	薄い 網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	D27
110	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の横位刻み隆線を跨ぐ8字貼付文	堀之内2	D28
111	縄文土器	深鉢	無文粗製土器	後期	D28
112	縄文土器	深鉢	無文粗製土器	後期	D28
113	縄文土器	深鉢	口縁部内折? 3条の横位沈線 内面4条の横位沈線	加曾利B1	D28
114	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	D28
115	縄文土器	深鉢	細い弧状沈線内に磨消縄文LR	称名寺	D29
116	縄文土器	深鉢	絡糸体撚紋R	後期	D29
117	縄文土器	深鉢	縄文LR	後期	D29
118	縄文土器	深鉢	横位の微隆帯	加曾利B	D29
119	縄文土器	深鉢	口縁部肥厚	後期	D29
120	縄文土器	注口土器	6条の細かい沈線	加曾利B1	D29
121	縄文土器	鉢	網代底、2本越1本潜り 横条間隔有	後期	D29
122	縄文土器	深鉢	口縁部内側に肥厚、口唇部平 平行沈線内に縄文LR	称名寺	D30
123	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の刻み隆線を跨ぐ8字貼付文	堀之内2	D30
124	縄文土器	注口土器	口縁部内折 口唇部沈線 3条の横位沈線、2条の円形沈線から2条の弧状沈線	加曾利B1	D30
125	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口唇部連続刻み目、平行沈線内に磨消縄文LR、区切り文 内面横位沈線	加曾利B1	D30
126	縄文土器	深鉢	口縁部内折 4条の横位沈線、磨消縄文LR、押圧文の区切り	加曾利B1	D30
127	縄文土器	深鉢	口縁部内湾 内面口唇部下に横位沈線。128と同一個体か?	堀之内2?	D30
128	縄文土器	深鉢	口縁部内折 波状口縁か内面口唇部に横位沈線	堀之内2?	D30
129	縄文土器	深鉢	口縁部内折気味	堀之内2?	D30
130	縄文土器	深鉢	横位・弧状沈線	堀之内2	D30
131	縄文土器	注口土器	頸部横位平行沈線間に横S字沈線、その下2条の横位沈線、胴部4条の流水状沈線	加曾利B1	D30
132	縄文土器	注口土器?	細かく引っ掻いたような条痕 網代底?	後期	D30
133	縄文土器	深鉢?	網代底 2本越1本潜り 横条間隔有	後期	D30
134	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔有	後期	D30
135	縄文土器	深鉢?	網代底 2本越1本潜り 横条間隔有	後期	D30
152	縄文土器	深鉢	幾何学的沈線	堀之内2	D31
153	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口唇部指頭押圧 内面円形刺突、2条の微隆帯	堀之内2	D31
154	縄文土器	深鉢	内面微隆帯	堀之内2	D31
155	縄文土器	深鉢	無文	堀之内2	D31
156	縄文土器	浅鉢	無文 内面口唇部下器厚くなる	堀之内2	D31
157	縄文土器	浅鉢	隆帯をなぞる沈線内に縄文LR 弧状隆帯外側に円形の連続刺突 内側に縄文LR	称名寺	D32

第7表 和田上遺跡Ⅱ B地区土坑出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整 ・ 備 考				備考	出土位置
158	縄文土器	浅鉢	口縁部内折 口唇部沈線、横位刻み微隆帯				堀之内2	D32
159	縄文土器	浅鉢	口縁部内折気味 横位押圧隆帯				堀之内2	D32
160	縄文土器	浅鉢	口縁部内湾 口縁部内側変換部に横位沈線、その下に縄文を充填する2条の横位沈線				加曾利B1	D32
161	縄文土器	浅鉢	口縁部内湾 横位沈線間に縄文充填				加曾利B1	D32
162	縄文土器	浅鉢	口唇部平				後期前半	D32
163	縄文土器	浅鉢	網代底 内外面丁寧なナデ→ミガキ、2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細かい				後期	D32
164	縄文土器	深鉢?	網代底、2本越1本潜り 横条間隔有 素材細かい				後期	D32
165	縄文土器	深鉢	網代底、2本越1本潜り 横条間隔有 素材細かい 別の編物痕あり				後期	D32
168	縄文土器	浅鉢	縦位3条の沈線後、綾杉状の沈線				中期後葉	D35
169	縄文土器	浅鉢	磨消縄文RL、縦位・橋円状の沈線				中期後葉	D35
170	縄文土器	両耳壺	橋状把手				中期後葉	D35
171	縄文土器	深鉢	口縁部やや内湾気味 横位押圧隆帯				後期初頭~前葉	D36
172	縄文土器	深鉢	口縁部内湾 口縁部横位連続刻目をなぞる沈線 その下5条の沈線に縄文LR充填 L字とお玉杓子状の区切り				加曾利B1	D37
173	縄文土器	深鉢	網代底 編み方不明				堀之内2	D37
174	縄文土器	深鉢	斜格子目の沈線				加曾利B2	D38
175	縄文土器	深鉢	無文				後期	D39
176	縄文土器	深鉢	網代底、2本越1本潜り 横条間隔有 素材細かい 網代痕の上に薄い粘土を貼っている				後期	D39
178	縄文二次利用土器片	深鉢	口縁部片に内外面から焼成後に穿孔 口縁部内折				堀之内2	D40
179	縄文土器	深鉢	粘土紐がうかがえる				後期	D41
180	縄文土器	深鉢	無文				後期	D41
181	縄文土器	深鉢	斜行する2条の沈線 磨消縄文LR				中期後半	D42
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所 見	出土位置
5	剥片	黒曜石	2.1	1.3	0.45	0.86		D3
6	磨石	花崗岩	8.8	5.4	2.1	124.51	正裏にすり面	D3
7	敲石	花崗岩	7.8	9.8	2.8	228.56	正裏に敲打痕	D3
8	打製石斧	輝石安山岩	<12.9>	6.0	1.4	<152.67>	刃部欠損	D8
10	台石	輝石安山岩	26.9	22.1	3.7	2630.00	正面が使用面	No.1
20	使用痕のある剥片	褐色チャート	3.7	3.1	2.0	17.91	下端部の剥離痕	D11
21	敲石	角閃石安山岩	5.7	4.8	4.4	149.68	上下に敲打痕	D11
22	磨石	砂岩	<6.5>	<4.7>	<2.0>	<60.37>	下部欠損 正面にすり面	D11
33	打製石斧	輝石安山岩	<6.9>	<5.7>	<1.6>	<96.98>	上部・左側欠損 正面に自然面(磨滅あり)	D19
34	打製石斧	輝石安山岩	<7.8>	<5.9>	<1.5>	<86.97>	上部欠損 正裏に節理面	D19
35	打製石斧	輝石安山岩	<8.1>	<6.8>	<0.8>	<76.86>	上部と刃部の一部欠損 正面に自然面	D20
36	石核	褐色チャート	4.5	7.3	3.4	104.10	背面に自然面を残す石核	D21
41	石鏃	褐色チャート	<2.2>	1.85	<0.45>	<1.07>	先端欠損	D23
42	石鏃	黒灰色チャート	2.1	1.2	0.25	0.47	ほぼ完形	D23
43	石鏃	黒曜石	2.4	1.1	0.6	1.00	未製品か?	D23
44	二次加工のある剥片	黒曜石	2.7	1.5	0.7	2.45	正面に自然面 左側は二次加工か	D23
45	石核	褐色チャート	3.5	3.5	2.8	25.34	自然面残る	D23
46	磨石?	砂岩	7.6	6.7	1.3	81.18	正面は全体に滑らか	D23
75	石鏃	灰色チャート	<1.2>	<1.4>	<0.25>	<0.30>	先端・左側欠損	D25 II層
76	石鏃	黒曜石	<1.5>	<1.3>	<0.35>	<0.38>	下部欠損	D25
77	磨石	砂岩	6.4	4.6	1.3	55.05	正面にすり面	D25 5層
78	台石	輝石安山岩	17.7	16.1	12.8	4330.00	正面を中心に敲打状の使用痕	D25 No.1
87	石鏃	黒灰色チャート	1.9	1.2	0.25	0.39	完形	D26 No.2
88	石核	赤褐色チャート	2.2	4.6	1.8	17.56		D26 3層
89	石核	褐色チャート	5.0	5.7	4.2	178.07	自然面残る 正面と上側は同時割れか	D26 No.4
90	石核	褐色チャート	4.8	4.9	2.6	43.87		D26 11層
91	剥片	黒灰色チャート	5.9	4.3	2.6	80.76	右側から上側は折れ状に剥離	D26 3層
92	石核	黒灰色チャート	3.4	6.0	6.3	174.38	自然面残る	D26 5層
93	剥片	褐色チャート	4.3	4.9	1.6	45.43	全体が自然面 上部折れ面	D26 4層
94	剥片	硬質砂岩	1.3	1.7	0.15	0.28	正面に自然面残る	D26 No.1
95	敲石	砂岩	7.8	7.8	2.1	129.92	縁辺に敲打痕	D26 5層
96	磨石	凝灰岩	5.4	4.1	1.3	30.74	正面にすり面	D26 4層
107	不明	輝石安山岩	34.9	8.6	3.1	1751.86		D27
108	石核?	黒色緻密安山岩	4.5	6.3	2.2	65.33		D27
109	打製石斧	輝石安山岩	<11.9>	<6.9>	<1.2>	<140.73>	上部欠損 刃部付近磨滅 正裏に節理面	D27
136	石鏃	黒灰色チャート	<1.3>	<1.0>	<0.3>	<0.32>	両脚・先端欠損	D30
137	石鏃	黒灰色チャート	1.65	1.3	0.35	0.74	未製品か	D30
138	石核	黒灰色チャート	2.9	2.4	1.9	13.49		D30
139	石核	褐色チャート	4.3	3.3	2.6	39.65	背面自然面	D30
140	使用痕のある剥片	褐色チャート	8.0	3.0	1.5	40.76	両側は折面	D30
141	剥片	黒曜石	1.5	1.6	0.6	1.61	上下に潰れたような剥離	D30
142	二次加工のある剥片	黒曜石	2.5	1.3	0.5	1.75	右側折れ面 正裏に二次加工	D30
143	使用痕のある剥片	緑泥片岩	3.9	1.7	0.4	4.05	右側使用痕か?	D30
144	剥片	黒曜石	-	-	-	-	稜上の剥離は調整か不明	D30
145	石核?	石灰岩	-	-	-	-	裏に磨滅した面	D30
146	砥石	砂岩	-	-	-	-	砥面数? 正裏ともわずかに擦痕	D30
147	打製石斧	輝石安山岩	-	-	-	-	両側~上部欠損 磨滅痕から刃部と思われる	D30
148	磨石	砂岩	3.3	1.7	1.0	7.11	全体にすりか?	D30
149	磨石	輝石安山岩	5.3	3.6	1.0	28.91	正裏に磨面	D30
150	磨石	砂岩	4.2	3.6	0.8	17.94	正裏に磨面	D30
151	磨石	砂岩	3.6	1.8	0.7	6.08	全体にすりか?	D30
166	剥片	黒曜石	3.6	2.2	1.0	7.27	全体に風化	D32
167	石核?	灰色チャート	6.6	5.6	1.8	69.31	自然面残る	D32
177	石核?	黒緻密安山岩	5.8	8.3	2.5	158.16		D39

第8表 和田上遺跡Ⅱ B地区溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

M1		法 盤			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底●		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備考	出土位置
1	弥生土器	高坏	-	9.2	<6.1>	坏部へラミガキ・赤色塗彩、脚部ハケ目	へラミガキ、赤色塗彩	完全実測 中期栗林	Na11
2	弥生土器	鉢	-	3.4	<1.2>	赤色塗彩	赤色塗彩、底部ミガキ	完全実測 中期栗林	上層
3	弥生土器	鉢	20.8	5.5	8.8	へラミガキ、赤色塗彩、突起あり	へラミガキ、赤色塗彩、突起あり	完全実測 中期栗林	Na6
4	弥生土器	鉢	-	-	-	-	-	破片実測 中期栗林	上層
5	弥生土器	鉢	-	(5.7)	<1.5>	赤色塗彩	赤色塗彩、摩耗している	回転実測 中期栗林	上層
6	弥生土器	鉢	-	5.3	<2.4>	赤色塗彩	赤色塗彩	完全実測 中期栗林	覆土
7	弥生土器	壺	-	7.4	<10.5>	ハケ目、へラナデ	ハケ目→へラケズリ、へラミガキ	完全実測 中期栗林	Na8
8	弥生土器	壺	-	9.6	<10.8>	へラナデ	ハケ目→へラミガキ	完全実測 中期栗林	Na9
9	弥生土器	壺	-	11.6	<23.2>	剥離	ハケ目→へラミガキ	完全実測 中期栗林	Na5-7
10	弥生土器	壺	-	10.4	<34.0>	ハケ目→へラミガキ	ハケ目→櫛描斜走文→へラナデ→へラミガキ	完全実測 中期栗林	Na2-3
11	弥生土器	壺	19.0	7.9	25.4	ハケ目→へラミガキ	口唇部縄文、口縁部櫛描波状文	完全実測 中期栗林	Na1・3・10
12	弥生土器	壺	-	7.0	<6.2>	へラミガキ	へラミガキ	完全実測 中期栗林	上層・下層
13	弥生土器	台付壺	-	(5.1)	<3.2>	台部ナデ	ミガキ	回転実測 中期栗林	上層
Na	種別	器種	文 様 ・ 調 整				備考	出土位置	
14	弥生土器	壺	口唇部縄文・へラ刻目				中期栗林	M1上層	
15	弥生土器	壺	口唇部縄文、頸部へラ描平行沈線・縄文				中期栗林	M1上層	
16	弥生土器	壺	受口状口縁部に2条のへラ描連続山形文 頸部平行沈線・小さな円形貼付文				中期栗林	M1下層	
17	弥生土器	壺	受口状口縁部に櫛描波状文				中期栗林	M1上層	
18	弥生土器	壺	受口状口縁部に櫛描波状文 口唇部縄文				中期栗林	M1覆土	
19	弥生土器	壺	口縁部短く外反、口唇部縄文				中期栗林	M1覆土	
20	弥生土器	壺	口縁部外反、櫛描波状文 口唇部縄文				中期栗林	M15層	
21	弥生土器	壺	口縁部外反、口唇部縄文 頸部太めの櫛描籬状文				中期栗林	M15層	
22	弥生土器	壺	口縁部外反、口唇部縄文・刻目 頸部櫛描条線				中期栗林	M1覆土	
23	弥生土器	壺	櫛描籬状文、斜走文				中期栗林	M1上層	
24	弥生土器	壺	櫛描波状文、斜走文				中期栗林	M1覆土	
25	弥生土器	壺	縦位羽状の櫛描斜走文				中期栗林	M1覆土	
26	弥生土器	壺	縦位櫛描条線				中期栗林	M1下層	
27	弥生土器	台付壺?	へラ描口の字重ね文				中期栗林	M1上層	
28	弥生土器	壺	櫛描斜走文				後期箱清水	M1覆土上層	
29	弥生土器	壺	櫛描波状文、櫛描籬状文、櫛描波状文 口径18.6 底径5.6 器高24.2				後期箱清水	M1覆土上層	
30	縄文土器	深鉢	口縁部内側に肥厚、口唇部平 平行沈線間に磨消縄文LR				称名寺	M1上層	
31	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁部に沿った沈線				堀之内1	M1覆土	
32	縄文土器	深鉢	口縁部内折 3条の横位刻み隆線を跨ぐ3個の円形貼付文				堀之内2	M1上層	
33	縄文土器	深鉢	口縁部内折(沈線?) 2条の横位刻み隆線、その下縄文LR				堀之内2	M1上層	
34	縄文土器	深鉢	口縁部内折(沈線?) 2条の横位刻み隆線				堀之内2	M1覆土	
35	縄文土器	深鉢	2条の横位刻み隆線 平行沈線間に縄文LR充填				堀之内2	M1上層	
36	縄文土器	深鉢	口縁部内折、口唇部平 3条の横位刻み隆線				堀之内2	M1上層	
37	縄文土器	深鉢	口唇部指頭押捺、刻み目 内面円形刺突から横位沈線				堀之内2	M1覆土	
38	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口唇部円形文突起 1条の横位刻み隆線、横位沈線縄文LR充填				堀之内2	M1覆土	
39	縄文土器	深鉢	口縁部内折 小突起部対の円形文から口唇部に沈線 小円形刺突から数条の横位沈線				堀之内2	M1下層	
40	縄文土器	深鉢	S字状小突起内外面に円形文、その下対の8字貼付文から横位隆線				堀之内2	M1下層	
41	縄文土器	深鉢	波状口縁 透孔脇3個の円形刺突から4条の横位沈線上に縄文LR その下横位沈線・縄文LR 内面透孔巡る2条の沈線が口縁沿いに延びる				堀之内2	M1上層	
42	縄文土器	深鉢	内面突起部に弧状の沈線				堀之内1	M1覆土	
43	縄文土器	深鉢	口縁部内折				堀之内2	M1覆土	
44	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口唇部刻み				加曾利B1	M1上層	
45	縄文土器	深鉢	口唇部刻み 内面2条の横位沈線				加曾利B1	M1下層	
46	縄文土器	深鉢	突起部円形隆帯内に円形刺突				加曾利B1?	M1覆土	
47	縄文土器	浅鉢	内湾気味に立ち上がる 横位・弧状の平行沈線内に縄文 刺突・対弧状の区切				加曾利B2	M1覆土	
48	縄文土器	深鉢	口縁部内折、口縁部弧状沈線、数条の横位平行沈線、縄文LR充填 L形区切内面3条の横位沈線				加曾利B1	M1覆土	
49	縄文土器	深鉢	口縁部内折、数条の横位沈線、お玉杓子状区切				加曾利B1	M1上層	
50	縄文土器	深鉢	口唇部平 6条の平行沈線、縄文LR充填 内面4条の平行沈線				加曾利B1	M1上層	
51	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口唇部極小の突起、5条の横位沈線				加曾利B1	M1覆土	
52	縄文土器	深鉢	波状口縁、口縁部内折 7条の横位沈線、縄文LR充填 S字入組文の区切				加曾利B1	M1上層	
53	縄文土器	深鉢	口縁部内湾 所謂粗製土器				後期前半	M1上・下層	
54	縄文土器	深鉢	口縁部外側に肥厚 所謂粗製土器 口径(26.3)、器高<20.6>				後期前半	M1上層	
55	縄文土器	深鉢	口縁部内湾気味に立ち上がる 所謂粗製土器				後期前半	M1上層	
56	縄文土器	浅鉢	体部丸み帯口縁部内屈気味 口縁下に横位沈線、小突起部に貼付文				加曾利B1	M1上・下層	
57	縄文土器	浅鉢	口縁部内屈、横位平行沈線間に楕円の刺突				加曾利B1	M1上層	
58	縄文土器	浅鉢	口縁部内屈、楕円形突起→横位沈線→刻目→横位沈線→縄文LR				加曾利B1	M1覆土	
59	縄文土器	注口土器	注口部				後期	M1上層	
60	縄文土器	注口土器	同心円文外に縄文RL充填				堀之内2	M1上層	
61	縄文土器	注口土器	平行沈線・楕円状沈線内に小円形刺突				堀之内2	M1覆土	
62	縄文土器	注口土器	沈線				後期前半	M1上層	
63	縄文土器	ミニチュア	深鉢				後期	M1覆土	
64	縄文土器	土製品	有孔土器片甲板 深鉢胴部片 敲打痕・剥離痕、一辺4.5cm・厚さ0.7cm、焼成後内外面から穿孔				後期	M1覆土	
65	縄文土器	土製品	浅鉢胴部片 焼成後内外面から穿孔 敲打痕・剥離痕 最長辺3.5cm、厚さ0.9cm				後期	M1上層	
66	縄文土器	土製品	土器片甲板 胴部片 研磨痕・敲打痕、径2.7cm、厚さ0.8cm				後期	M1下層	
67	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有 素材細かい				堀之内2	M1上層	
68	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有 素材細かい				後期	M1上層	
69	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有、縦条が長い 素材細かい				後期	M1上層	
70	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有 素材細かい				後期	M1上層	
71	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有 素材細かい				堀之内2	M1上層	
72	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有				後期	M1上層	
73	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有 素材細かい				堀之内2	M1上層	
74	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有 素材細かい				堀之内2	M1覆土	
75	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有				後期	M1覆土	
76	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有 別の素材太い縄物痕有				後期	M1上層	
77	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有				後期	M1上層	
78	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有				後期	M1上層	
79	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有				後期	M1上層	
80	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有				後期	M1上層	
81	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有				後期	M1上層	
82	縄文土器	深鉢	網代底 2本越2本潜り、縦方密				後期	M1覆土	
83	縄文土器	深鉢	網代底 2本越2本潜り、縦方密				後期	M1覆土	
97	縄文土器	深鉢	横位の微隆帯、弧状沈線、鱗状沈線				中期後半	M2上層	

第9表 和田上遺跡Ⅱ B地区溝状遺構・ピット出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整				備 考	出土位置
98	縄文土器	深鉢	波状口縁	横位沈線	鱗状短沈線		中期後半	M2上層
99	縄文土器	深鉢	渦巻状の隆帯と沈線	鱗状短沈線			中期後半	M2上層
100	縄文土器	深鉢	短沈線文(曾利系)				中期後半	M2上層
101	縄文土器	深鉢	鱗状短沈線				中期後半	M2上層
102	縄文土器	深鉢	微隆帯区画内に縄文LR充填(加曾利EⅣ)				中期後半	M2上層
103	縄文土器	深鉢	縦位の沈線、縄文LR充填(加曾利EⅢ)				中期後半	M2上層
104	縄文土器	深鉢	把手 側面に2個の透し孔 上側と正面に縄文LR				称名寺	M2上層
105	縄文土器	深鉢	縦位の櫛歯状工具による条線(曾利系)				中期後半	M2上層
106	縄文土器	浅鉢	口縁部内外面に肥厚する				中期後半	M2上層
107	縄文土器	深鉢	波状口縁 縄文LR充填、横位沈線				称名寺	M2上層
108	縄文土器	深鉢	2条の弧状隆帯に連続円形刺突				称名寺	M2上層
109	縄文土器	深鉢	櫛歯状工具による斜位の条線				堀之内	M2上層
110	縄文土器	深鉢	斜行沈線				堀之内1	M2上層
111	縄文土器	深鉢	弧状沈線				堀之内1	M2上層
112	縄文土器	深鉢	弧状沈線				堀之内1	M2上層
113	縄文土器	深鉢	小突起口唇部に円形刺突 斜位に垂下する刻み隆帯 内面杵状沈線から口縁に沿う沈線				堀之内2	M2上層
114	縄文土器	深鉢	口縁に沿う沈線 内面口縁に沿う沈線				堀之内2	M2上層
115	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆線、平行沈線間に縄文LR充填				堀之内2	M2上層
116	縄文土器	深鉢	横位刻み隆線に8字貼付文、幾何学文、縄文LR				堀之内2	M2上層
117	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆線、平行沈線間に縄文LR充填				堀之内2	M2上層
118	縄文土器	深鉢	横位刻み隆線、幾何学文、縄文LR充填				堀之内2	M2上層
119	縄文土器	深鉢	幾何学文、縄文LR充填				堀之内2	M2上層
120	縄文土器	鉢	幾何学文、縄文LR充填				堀之内2	M2上層
121	縄文土器	注口土器	体部中央横位沈線、その上に斜行沈線、沈線内に小連続刺突				堀之内2	M2上層
122	縄文土器	深鉢	口縁部内折 所謂粗製土器				堀之内2	M2上層
123	縄文土器	深鉢	口縁部内折、口唇部平 所謂粗製土器				堀之内2	M2上層
124	縄文土器	深鉢	所謂粗製土器				後期前半	M2上層
125	縄文土器	深鉢	口唇部平 所謂粗製土器				後期前半	M2上層
126	縄文土器	深鉢	口唇部平 所謂粗製土器				後期前半	M2上層
127	縄文土器	深鉢	口唇部平 所謂粗製土器				後期前半	M2上層
128	縄文土器	深鉢	口唇部平 所謂粗製土器				後期前半	M2上層
129	縄文土器	深鉢	所謂粗製土器				後期前半	M2上層
130	縄文土器	深鉢	所謂粗製土器				後期前半	M2上層
131	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有 素材細かい 部分的にナデ消されている				後期	M2上層
132	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有				後期	M2上層
133	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有				後期	M2上層
134	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有 素材細かい 別の編物痕有				堀之内2	M2上層
135	縄文土器	深鉢	網代底 3枚の編物が重なる 1つは2本越1本潜り いづれも素材細かい				堀之内2	M2上層
136	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り?ナデにより不明瞭 素材細かい				堀之内2	M2上層
137	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有 素材細かい				後期	M2上層
138	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有 素材細かい				堀之内2	M2上層
139	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り、横条間隔有				後期	M2上層
146	縄文土器	深鉢	口縁部内湾 5条の横位沈線、沈線間斜位の刻み、その下1条の横位沈線				加曾利B1	M3
147	弥生土器	壺	口唇部縄文LR				中期栗林	M3
148	弥生土器	壺	頸部縄文LR施文後、横位平行沈線				中期栗林	M3

ピット

No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整				備 考	出土位置
1	縄文土器	深鉢	所謂粗製土器				後期前半	P4
2	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の横位沈線				堀之内2	P4
3	縄文土器	深鉢	所謂粗製土器 内面横位沈線?				堀之内2	P4
5	縄文土器	土製品	匙 内外面ミガキ				後期?	P5
6	縄文土器	深鉢	波状口縁 波頂部に透孔をもつ突起 口唇部に円形刺突 突起下対の円形刺突から横位刻み隆線 内面口縁沿いに沈線				堀之内2	P5
7	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆線、幾何学文、縄文LR充填				堀之内2	P5
8	縄文土器	深鉢	所謂粗製土器 内面横位沈線				堀之内2	P5
9	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口唇部8字突起 内面口唇部刻み				加曾利B1	P5
10	縄文土器	深鉢	小突起内面に円形刺突 内面2条の沈線				堀之内2	P7
11	縄文土器	深鉢	沈線区画内磨消縄文RL				中期後半	P9
12	縄文土器	深鉢	口縁部内屈、口唇部刻み 口縁部横位沈線、その下3条の横位沈線上に縄文LR、お玉杓子状の区切り 内面条線状の斜位刻み、横位沈線				加曾利B1	P12
13	縄文土器	深鉢	波状口縁 内面口唇部刻み、2条の沈線				加曾利B1	P18
14	縄文土器	浅鉢	横位沈線から斜位沈線				加曾利B2?	P22

No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所 見	出土位置
4	磨製石斧	緑色凝灰岩	<7.0>	<3.7>	<1.9>	<80.50>	下部欠損 表面荒れる(風化のためか)	P4
15	石鏃	黒曜石	1.2	1.2	0.2	0.15		P34

第10表 和田上遺跡Ⅱ B地区遺構外出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整 ・ 備 考	備考	出土位置
1	縄文土器	深鉢	口縁部隆帯 縦位沈線	中期中葉	Bトレンチ
2	縄文土器	深鉢	隆線文 縄文RL	中期後半	TT
3	縄文土器	深鉢	隆帯に円形刺突 縦位沈線 区画内に縄文LR充填	中期後半	TT
4	縄文土器	深鉢	縦位沈線 縄文LR	中期後半	Aトレンチ
5	縄文土器	深鉢	隆線文 縦位沈線 縄文LR	中期後半	Cトレンチ
6	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯 縄文RL	中期後半	Cトレンチ
7	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文RL充填	中期後半	TT
8	縄文土器	深鉢	地文縄文LR 縦位沈線	中期後半	TT
9	縄文土器	深鉢	地文縄文LR J字状沈線	称名寺	TT
10	縄文土器	鉢	内面突起部に円形刺突 渦巻状沈線	堀之内1	TT
11	縄文土器	深鉢	横位の円形押圧隆帯をなぞる沈線 縄文RL	堀之内1	Aトレンチ
12	縄文土器	深鉢	円形貼付文から横位沈線 沈線区画内に縄文RL	堀之内1	Bトレンチ
13	縄文土器	深鉢	弧状の集合沈線	堀之内1	Bトレンチ
14	縄文土器	深鉢	弧状・縦位の集合沈線	堀之内1	Cトレンチ
15	縄文土器	深鉢	弧状・斜行集合沈線	堀之内1	Aトレンチ
16	縄文土器	深鉢	弧状・斜行集合沈線	堀之内1	Eトレンチ
17	縄文土器	深鉢	縦位・弧状集合沈線	堀之内1	Fトレンチ
18	縄文土器	深鉢	縦位集合沈線	堀之内1	Eトレンチ
19	縄文土器	深鉢	突起口唇部円形刺突 対の透し孔 縦位沈線 縄文LR	堀之内1	TT
20	縄文土器	深鉢	突起部3条の弧状短沈線から口縁沿いに沈線 垂下する隆線 内面円形刺突・弧状短沈線	堀之内1	Bトレンチ
21	縄文土器	深鉢	口縁に沿って沈線 横位沈線 斜行沈線	堀之内1	TT
22	縄文土器	深鉢	口縁に沿って沈線	堀之内1	Eトレンチ
23	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口縁に沿って沈線	堀之内1	2トレンチ
24	縄文土器	深鉢	口縁に沿って沈線	堀之内1	Eトレンチ
25	縄文土器	深鉢	2条の横位沈線 対の透し孔 2条対の弧状沈線	堀之内2	ⅥA8
26	縄文土器	深鉢	波状口縁 横位・縦位の連続円形刺突文もつ隆帯	堀之内2	Fトレンチ
27	縄文土器	深鉢	波状口縁 波頂部の突起 口唇部に円形刺突 内面に「し」沈線 外面突起下の円形刺突から波状口縁に沿って刻み隆線	堀之内2	TT
28	縄文土器	深鉢	斜行刻み隆帯 内面口縁に沿って2条の沈線 その下沈線区画内に縄文LR	堀之内2	2トレンチ
29	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆線上に楕円形刺突の貼付文 その下貼付文をさけるような沈線	堀之内2	TT
30	縄文土器	鉢	くびれ部に横位刻み隆帯を跨ぐ8字貼付文	堀之内2	TT
31	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯	堀之内2	3トレンチ
32	縄文土器	深鉢	口縁部内折 横位刻み隆線 その下横位沈線	堀之内2	TT
33	縄文土器	深鉢	口縁部内折 2条の横位刻み隆線	堀之内2	Bトレンチ
34	縄文土器	深鉢	刺突もつ小突起 内面口縁に沿って沈線	堀之内2	TT
35	縄文土器	深鉢	口唇部平 横位隆帯 所謂粗製土器	堀之内2	TT
36	縄文土器	深鉢	幾何学文 細い縄文LR充填	堀之内2	TT
37	縄文土器	深鉢	幾何学文	堀之内2	Aトレンチ
38	縄文土器	深鉢	幾何学文 縄文LR充填	堀之内2	3トレンチ
39	縄文土器	深鉢	横位沈線間に楕円形の沈線	堀之内2	3トレンチ
40	縄文土器	注口土器	把手側面透し孔 把手頂部円形刺突 縦位沈線 内面2個の盲孔 口唇部刻み 口縁部2条の横位沈線	堀之内2	TT
41	縄文土器	深鉢	波状口縁 波頂部に盲孔2個の突起 口唇部に短沈線 内面口縁に沿って3条の沈線	加曾利B1	TT
42	縄文土器	深鉢	対弧状の区切りからのびる平行沈線間に縄文LR充填	加曾利B1	TT
43	縄文土器	深鉢	8字小突起 口唇部内側に刻み 刻みに沿って沈線	加曾利B1	TT
44	縄文土器	深鉢	小突起 12条の横位細沈線 内面口縁に沿って沈線	加曾利B1	TT
45	縄文土器	深鉢	小突起 6条の横位細沈線 内面口縁に沿った沈線	加曾利B1	2トレンチ
46	縄文土器	深鉢	波状口縁 4条の横位沈線 渦巻状の区切り 内面3条の口縁に沿った沈線	加曾利B1	1トレンチ
47	縄文土器	深鉢	横位沈線 内面4条の横位沈線	加曾利B1	TT
48	縄文土器	深鉢	内面横位沈線間に刻み 対弧状の区切り	加曾利B1	TT
49	縄文土器	深鉢	内面 重楕円形沈線	加曾利B1	TT
50	縄文土器	深鉢	2条の横位沈線 対弧状区切り	加曾利B1	TT
51	縄文土器	深鉢	口縁部内傾 口唇部に刻み J字状突起下対弧状区切り 横位平行沈線間に縄文LR充填	加曾利B1	Fトレンチ
52	縄文土器	深鉢	口縁部内折 くびれ部上に横位沈線 L字区切り 縄文LR	加曾利B1	TT
53	縄文土器	深鉢	口縁部内折 口唇部に刻み くびれ部上に横位沈線	加曾利B1	TT
54	縄文土器	深鉢	口縁部内折 くびれ部上に横位沈線	加曾利B1	TT
55	縄文土器	深鉢	口縁部内傾 口唇部に刻み 3条の横位沈線	加曾利B1	TT
56	縄文土器	深鉢	口縁部内傾 口唇部に刻み 所謂粗製土器	加曾利B1	TT
57	縄文土器	深鉢	波状口縁 弧状 横位の細沈線 細い短沈線 内面弧状の細い短沈線 弧状・横位の細い沈線	加曾利B1	TT
58	縄文土器	深鉢	口唇部平 斜格子目文 内面口縁に沿った沈線	加曾利B1	Fトレンチ
59	縄文土器	深鉢	横位押圧隆帯 縄文LR 所謂粗製土器	加曾利B	TT
60	縄文土器	深鉢	口唇部連続押圧 所謂粗製土器	加曾利B	TT
61	縄文土器	深鉢	縄文LR 内面に口縁に沿って沈線	加曾利B	Fトレンチ
62	縄文土器	深鉢	口縁部に短く内傾 所謂粗製土器	加曾利B	TT
63	縄文土器	深鉢	口縁部内折 弧状の沈線内に連続円形刺突 沈線区画内に縄文LR充填	称名寺	TT
64	縄文土器	深鉢	2列の連続円形刺突	称名寺	3トレンチ
65	縄文土器	深鉢	所謂粗製土器	後期	TT
66	縄文土器	深鉢	所謂粗製土器	後期	Fトレンチ
67	縄文土器	深鉢	所謂粗製土器	後期	TT
68	縄文土器	深鉢	所謂粗製土器	後期	TT
69	縄文土器	注口土器	口唇部平 楕円形状・弧状沈線	加曾利B1	1トレンチ
70	縄文土器	注口土器	横位細沈線状の円形の押圧からリボン状沈線区画を弧上の細沈線で充填 弧状の沈線	加曾利B1	Fトレンチ
71	縄文土器	注口土器	弧状沈線 磨消縄文LR 円形刺突	加曾利B1	TT
72	縄文土器	浅鉢	内外面丁寧なナデ	後期	Fトレンチ
73	縄文土器	ミニチュア	浅鉢	後期	Aトレンチ
74	縄文土器	土製品	有孔土器片円板 長方形 胴部片 敲打痕 長辺2.8 厚さ0.4	後期	2トレンチ
75	縄文土器	土製品	土器片円板 胴部片 敲打痕 剥離痕 径3.0 厚さ1.0	後期	ⅩA8G
76	縄文土器	深鉢	木葉痕	後期	TT
77	縄文土器	鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い	後期	3トレンチ
78	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	2トレンチ
79	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	Fトレンチ
80	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	1トレンチ
81	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	TT
82	縄文土器	深鉢	網代底 2種類の編物痕が重複する 編み方不明	後期	Fトレンチ
83	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	2トレンチ
84	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり	後期	TT
85	縄文土器	深鉢	網代底 2本越2本潜り 編み方密	後期	2トレンチ

第11表 和田上遺跡Ⅱ B地区遺構外出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整 ・ 備 考				備考	出土位置
86	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い				後期	Fトレンチ
87	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り? 横条間隔あり				後期	Fトレンチ
88	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い				後期	TT
89	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い				後期	Fトレンチ
90	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり				後期	TT
91	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり				後期	2トレンチ
92	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い				後期	3トレンチ
93	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い				後期	TT
94	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 編み方密				後期	TT
95	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり				後期	Fトレンチ
96	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり				後期	TT
97	縄文土器	深鉢	網代底 2本越1本潜り 横条間隔あり 素材細い				後期	TT
98	弥生土器	壺	縄文LR施文後へラ描平行沈線文				中期栗林	TT
99	弥生土器	壺	へラ描U字状沈線区画内に櫛描条線充填 周りに櫛歯状工具の刺突				中期栗林	Fトレンチ
100	弥生土器	壺	口縁部受け口状 口唇部縄文LR 口縁部へラ描連続山形文				中期栗林	Fトレンチ
101	弥生土器	壺	口縁部受け口状 口唇部縄文LR 口縁部縄文LR施文後へラ描連続山形文				中期栗林	TT
102	弥生土器	甕	口縁部受け口状 口唇部縄文LR 口縁部縄文LR				中期栗林	Cトレンチ
103	弥生土器	甕	口縁部受け口状 口唇部縄文LR 口縁部縄文LR				中期栗林	TT
104	弥生土器	甕	口縁部受け口状 口唇部・口縁部縄文LR				中期栗林	Fトレンチ
105	弥生土器	甕	内外面織のへらミガキ				中期栗林	2トレンチ
106	弥生土器	ミニチュア	高坏であろうか 坏部と脚部接合のホゾがみられる				中期栗林	Bトレンチ
107	須恵器	有台坏	底部へラケズリ後高台貼付				8C代	Fトレンチ
No.	器 種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所 見	出土位置
108	石鏝	灰色チャート	<2.0>	<1.5>	0.2	<0.47>	両脚先端欠損	TT2トレンチ
109	石鏝	黒色緻密安山岩	<1.6>	<1.4>	<0.25>	<0.47>	3箇所欠損	Fトレンチ
110	石鏝	黒曜石	1.4	1.3	0.2	0.34	未製品か?	Fトレンチ
111	石鏝	黒曜石	1.6	1.1	0.25	0.36		TT1トレンチ
112	石鏝	硬質砂岩	<2.0>	<1.8>	0.5	<1.43>	一部欠損	Fトレンチ
113	使用痕のある剥片	白色チャート	<5.8>	2.2	0.8	<7.66>	下部欠損 自然面残る	TT
114	剥片	灰色チャート	1.9	2.1	0.5	2.38	自然面残る	TT2トレンチ
115	楔?	黒曜石	2.1	0.9	0.4	0.85	上下からの剥離痕	TT
116	石鏝	黒色緻密安山岩	<2.4>	<1.9>	0.45	<1.43>	両脚先端欠損	TT3トレンチ
117	石鏝(未製品)	褐色チャート	2.5	2.2	0.5	3.69	整形途中か	Fトレンチ
118	楔?	黒曜石	1.9	1.3	0.8	1.70	上下からの剥離痕	Fトレンチ
119	剥片	褐色チャート	5.7	3.2	1.7	35.40		Fトレンチ
120	使用痕のある剥片	硬質砂岩	3.7	4.7	0.7	12.41		TT
121	剥片	輝石安山岩	5.3	5.8	0.4	12.08		Cトレンチ
122	剥片	硬質砂岩	7.8	5.0	0.7	27.79		Eトレンチ
123	剥片	硬質砂岩	10.4	6.1	1.7	75.39		TT2トレンチ
124	剥片	褐色チャート	5.2	5.4	2.0	54.06		Cトレンチ
125	剥片	硬質砂岩	4.9	6.0	1.1	37.59		Eトレンチ
126	石核?	褐色チャート	4.8	7.4	1.3	49.69	正面に剥離痕	Fトレンチ
127	打製石斧	石英閃緑玢岩	<7.2>	<6.1>	<2.8>	<199.01>	下部欠損	Cトレンチ
128	打製石斧	輝石安山岩	<8.0>	<5.7>	<1.3>	<94.94>	下部欠損	Cトレンチ
129	打製石斧?	輝石安山岩	<3.0>	<5.0>	<0.8>	<17.63>	右側以外欠損	Cトレンチ
130	打斧片?	黒色緻密安山岩	<3.1>	<5.3>	<0.7>	<14.16>	下辺を残し周囲欠損	Bトレンチ
131	打製石斧	硬質砂岩	10.9	5.6	1.3	113.29	磨減痕残る	Eトレンチ
132	打製石斧	輝石安山岩	10.8	5.0	1.2	<97.22>	一部欠損 刃部に磨減痕	Cトレンチ
133	打製石斧	輝石安山岩	<8.6>	<5.3>	<1.1>	<75.13>	下部欠損 刃部付近に磨減痕	Dトレンチ
134	打製石斧	輝石安山岩	<6.5>	<6.6>	<1.6>	<85.66>	上部欠損 両側に潰れ状の着柄痕	Dトレンチ
135	打製石斧	輝石安山岩	<6.2>	<6.3>	<2.1>	<106.69>	上部欠損 左側に潰れ状の痕	Z
136	敲石	輝石安山岩	10.9	6.5	4.6	493.76	上端部に敲打痕	TT2トレンチ
137	磨石	輝石安山岩	<10.9>	<6.9>	<2.6>	<322.89>	下部欠損 正裏にすり面	Bトレンチ
138	敲石	角閃石安山岩	12.0	6.7	3.3	313.89	上下端部に敲打痕	TT2トレンチ
139	敲石	硬質砂岩	12.5	6.0	3.6	464.32	上端部に敲打痕	Bトレンチ
140	敲石	砂岩	10.5	7.7	2.5	252.92	正面中央と縁辺に敲打痕	TT2トレンチ
141	小型磨製石斧?	硬質砂岩	<3.7>	<1.6>	<0.4>	<4.43>	下部欠損 正裏とも上部に磨減あり	Fトレンチ
142	石鏝	砂岩	<5.2>	3.1	1.9	<37.37>	一部欠損 両側磨減	Cトレンチ
143	砥石	砂岩	6.7	4.7	1.9	59.42	正裏に条痕(砥面数2)	TT1トレンチ
144	磨石	輝石安山岩	<6.1>	<4.6>	<2.6>	<86.64>	下部欠損 右側すり面	TT2トレンチ
145	敲石	砂岩	7.2	5.3	2.5	113.68	縁辺に敲打痕	Fトレンチ
146	敲石	粗粒砂岩	7.1	7.0	2.4	134.81	被熱あり?(裏面黒化) 縁辺に敲打痕	TT2トレンチ
147	砥石	砂岩	6.3	3.8	1.2	33.79	砥面数2 条痕あり	TT2トレンチ
148	砥石	砂岩	<3.7>	<5.0>	<1.2>	<34.40>	裏面剥落 砥面数1 条痕あり	TT2トレンチ
149	角釘		<2.4>	0.7	0.5	1.52	下部欠損	Fトレンチ
150	砥石	陀紋岩	<4.0>	<3.3>	<1.8>	<30.09>	一部欠損 十字に条痕	Cトレンチ
151	砥石	砂岩	<9.6>	<3.2>	<1.4>	50.37	下部欠損 砥面数4 正裏に条痕	Fトレンチ

はじめに

和田上遺跡(佐久市瀬戸地内)は、佐久盆地の東部、八風山・荒船山塊の山麓から派生する丘陵端に位置する。本遺跡が位置する丘陵と志賀川を挟んで対岸の丘陵上には縄文時代中期の集落が確認された寄山遺跡が位置している。本遺跡の発掘調査では、縄文時代後期、弥生時代中期、古代の竪穴住居址や縄文時代中～後期、弥生～平安時代の土坑等が確認されている。

本報告では、発掘調査で出土した炭化材の年代や樹種、骨類の種類の検討を目的として、自然科学分析調査を実施した。

I. 放射性炭素年代測定・樹種同定

1. 試料

試料は、B区D26とB区D28から出土した炭化材2点(No.1, 2)である。B区D26炭化材(No.1)は、覆土5層中から出土しており、約1cm角程度の破片である。B区D28炭化材は、D28北西より埋没木の可能性がある資料として採取されており、約1.5～2.0cm角程度の破片である。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

試料に土壌や根等の目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによるアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(Ⅱ)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30分)850℃(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-Ⅱ)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}\text{C}$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma:68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い(¹⁴Cの半減期5,730±40年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。

暦年較正結果は、測定誤差 σ 、 2σ (σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲)双方の値を示す。また、表中の相対比は、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

表 1. 放射性炭素年代測定及び暦年較正結果

試料	測定年代 (yrBP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 (暦年較正用) (yrBP)	暦年較正結果						相対比	Code. No.				
				σ	cal BC	1,875	-	cal BC	1,843			cal BP	3,824	-	3,792
No1 WD II B区 D26 5層 炭化材 (オニグルミ)	3,470±20	-24.28±0.48	3,472724	σ	cal BC	1,818	-	cal BC	1,798	cal BP	3,767	-	3,747	0.203	IAAA- 121641
					cal BC	1,780	-	cal BC	1,746	cal BP	3,729	-	3,695	0.405	
					cal BC	1,882	-	cal BC	1,738	cal BP	3,831	-	3,687	0.979	
				2σ	cal BC	1,707	-	cal BC	1,699	cal BP	3,656	-	3,648	0.021	
					cal BC	15,055	-	cal BC	14,727	cal BP	17,004	-	16,676	1.000	
No2 WD II B区 D28 炭化材 (モクレン属)	13,700±40	-22.02±0.61	13,700743	σ	cal BC	14,964	-	cal BC	14,805	cal BP	16,913	-	16,754	1.000	IAAA- 121642
					cal BC	15,055	-	cal BC	14,727	cal BP	17,004	-	16,676	1.000	
					cal BC	15,055	-	cal BC	14,727	cal BP	17,004	-	16,676	1.000	
				2σ	cal BC	15,055	-	cal BC	14,727	cal BP	17,004	-	16,676	1.000	
					cal BC	15,055	-	cal BC	14,727	cal BP	17,004	-	16,676	1.000	

(2) 樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林(1991)や伊東(1995、1996、1997、1998、1999)を参考にする。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

出土炭化材の同位体効果による補正を行った測定年代(補正年代)は、B区D26 5層炭化材(No.1)が3,470±20yrBP、B区D28炭化材(No.2)が13,700±40yrBPを示す。また、暦年較正結果(測定誤差 σ)は、No.1がcalBP 3,824-calBP 3,695(calBC 1,875-calBC 1,746)、No.2がcalBP 16,913-calBP 16,754(calBC 14,964-calBC 14,805)である。

(2) 樹種同定

上述した炭化材2点は、いずれも広葉樹であり、No.1がオニグルミ、No.2がモクレン属に同定された。以下に、解剖学的特徴等を記す。

・オニグルミ(*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

散孔材で、道管径は比較的大径、単独または2-3個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織はほぼ同性、1-3細胞幅、1-40細胞高。

・モクレン属近似種(*Magnolia*) モクレン科

試料は小破片で、保存状態が悪く脆い。散孔材で、道管壁は中庸~薄く、横断面では角張った楕円形~多角形、単独または2個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有するが、壁孔は破損して観察できない。放射組織は1-2細胞幅であるが、破損しており詳しい形態は不明である。

道管配列等の特徴から、モクレン属の可能性はあるが、道管内壁の壁孔や放射組織が観察できないため、近似種とした。

4. 考察

B区D26 5層炭化材(No.1)からは、calBP 3,824-calBP 3,695(3,470±20yrBP)という結果が得られた。この値は、関東地方を中心とした東日本の年代測定の調査例(小林, 2008)に基づけば、縄文時代後期に該当する。また、炭化材はオニグルミに同定された。オニグルミは、河畔等の水分が多く、肥沃な土地に生育する落葉高木である。今回の結果から、縄文時代後期頃の本遺跡周辺に生育し、その木材が利用されたことが窺える。

佐久盆地周辺の同時期の事例では、郷土遺跡(小諸市)の縄文時代後期前葉とされる竪穴住居跡から出土

した炭化材を対象とした調査例があり、トネリコ属が確認されている(パリノ・サーヴェイ株式会社, 1993)。

一方、B区D28炭化材(No.2)は、calBP 16,913-calBP 16,754 (13,700±40yrBP)という結果が得られた。本資料は、発掘調査時の所見では、近接する寄山遺跡等の事例から、浅間火山の第一軽石流に埋没した樹木の可能性が示唆されていた。浅間火山第一軽石流は、早川(2010)のいう平原火砕流に相当するものであり、その噴出年代は暦年で15,800年前とされている。今回得られた年代は、これより1,000年ほど古い値ではあるが、年代算定基準の違い等も考慮すれば、今回の結果は火砕流によって埋没したという所見を支持する。

浅間火山の軽石流期の古植生に関わる調査事例についてみると、上述した寄山遺跡における埋没樹は、すべて針葉樹のトウヒ属に同定されている(パリノ・サーヴェイ株式会社, 1995)。また、中長塚遺跡では、火砕流中の炭化材に針葉樹のマツ属単維管束亜属、モミ属、トウヒ属が確認されている(パリノ・サーヴェイ株式会社, 2001)。トウヒ属やマツ属単維管束亜属等のマツ科針葉樹は、南軽井沢のAs-YP(軽石流期の降下軽石)に覆われた埋没樹の樹種同定でも主体となる結果が得られている(能城ほか, 2004)。広葉樹は、南軽井沢でネズミサシ属やスイカズラ属がマツ科針葉樹に混じって確認された例や、中ツ原第1遺跡の13,000-14,000yrBPの年代を示した炭化材にコナラ節が確認された例(株式会社古環境研究所, 1996)等が挙げられる。

本遺跡の埋没樹に確認されたモクレン属は、川辺や溪谷等の比較的水分の多い土地に生育する落葉高木である。おそらく調査地付近に生育した樹木であることが推定される。

II. 骨同定

1. 試料

分析に供された出土骨は、B区H 2、B区D26 2層 取上No.3、B区D35 3層から出土した3試料(No.1～3)である。これらの試料は、いずれもクリーニングされた状態にある。

2. 分析方法

試料を肉眼で観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。計測は、デジタルノギスを用いて測定する。

3. 結果

出土骨3試料は、いずれも破片で白色～灰黒色を呈し、ひび割れが生じる。以下、試料ごとに結果を記す。

(1) No. 1 ; H 2

ニホンジカ?角?。ニホンジカの角の先端付近の可能性のある破片である。最大長26.5mm。断面は楕円形を呈しており、最大値11.5mm×9.7mm、最小値8.9mm×6.8mmを測る。

(2) No. 2 ; D26 No. 3

獣類(ほ乳類)。部位不明の破片である。最大長14.9mm。

(3) No. 3 ; D35

大型獣類(ほ乳類)。肋骨の可能性のある破片である。最大長42.2mm。

4. 考察

和田上遺跡から出土した骨は、いずれも破片で白色～灰黒色を呈し、ひび割れが生じるなど、焼骨の特徴が認められた。いずれも骨となった状態で火を受けたと考えられる。

B区H 2 (No.1)は、ニホンジカの角の先端付近の可能性のある。B区D26 No.3 (No.2)とB区D35 (No.3)は、いずれもほ乳類であり、No.3は大きさから、シカやイノシシなどの大型獣類の可能性のある。いずれも特徴的な部位がほとんど残存していなかったため、種類の同定には至らなかった。

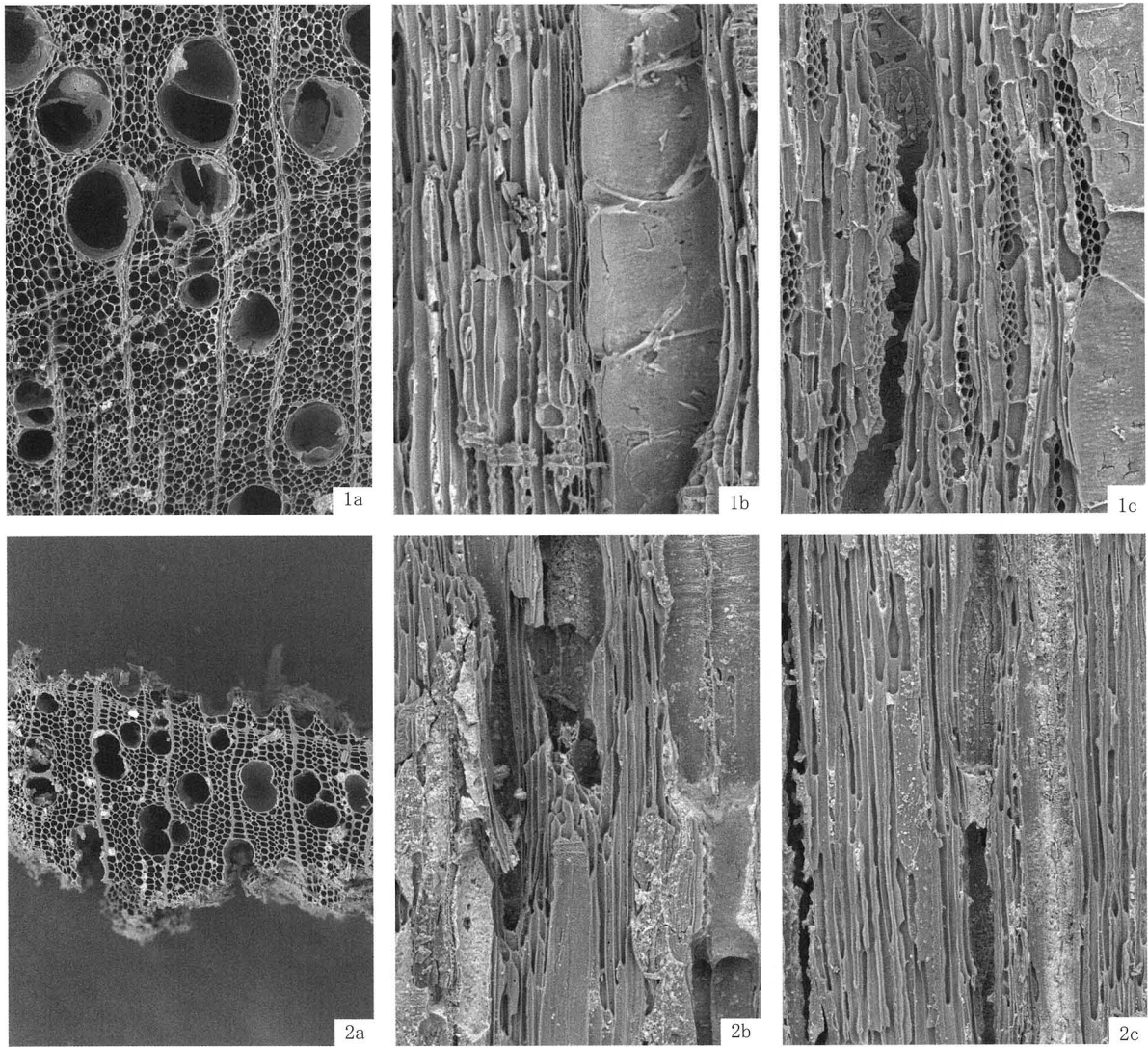
ニホンジカやイノシシ等の大型獣類は、日本各地の遺跡において焼骨として出土する事例がみられる。

本遺跡でも周辺に生育した獣類が狩猟の対象とされ、利用されていたと思われる。

引用文献

- 早川由紀夫, 2010, 浅間山の風景に書き込まれた歴史を読み解く. 群馬大学教育学部紀要 自然科学 編, 58, 65-81.
- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 株式会社古環境研究所, 1996, 中ツ原 1 G地点出土炭化材の樹種同定. 中ツ原第 1 遺跡G地点の研究Ⅱ, ハケ岳旧石器研究グループ, 108-109.
- 小林謙一, 2008, 縄文土器の年代(東日本). 小林達雄先生古希記念企画 総覧 縄文土器. 株式会社アム・プロモーション, 896-903.
- 能城修一・鈴木三男・辻誠一郎, 2004, 長野県南軽井沢に広がる浅間火山テフラに覆われた更新世最末期の埋没林. 植生史研究, 13, 13-23.
- パリノ・サーヴェイ株式会社, 1993, 郷土遺跡出土炭化材の同定. 郷土 ―長野県小諸市郷土遺跡発掘調査報告書―, 小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第16集, 小諸市教育委員会, 52-57.
- パリノ・サーヴェイ株式会社, 1995, 寄山遺跡 約1.3万年前の埋没林と縄文時代中期の植物化石. 寄山湖畔に営まれた縄文中期集落の調査 寄山・寄山古墳, 長野県土地開発公社・佐久市教育委員会, 860-864.
- パリノ・サーヴェイ株式会社, 2001, 中長塚遺跡・松ノ木遺跡の出土遺物鑑定. 一本松遺跡群 西一本柳遺跡群Ⅴ・Ⅵ、中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ、松の木遺跡Ⅰ・Ⅱ, 佐久市埋蔵文化財調査報告書第91集, 佐久市建設事務所・佐久市教育委員会, 99-104.
- Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) *IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*].
- 島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.
- Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].

図版1 炭化材・出土骨



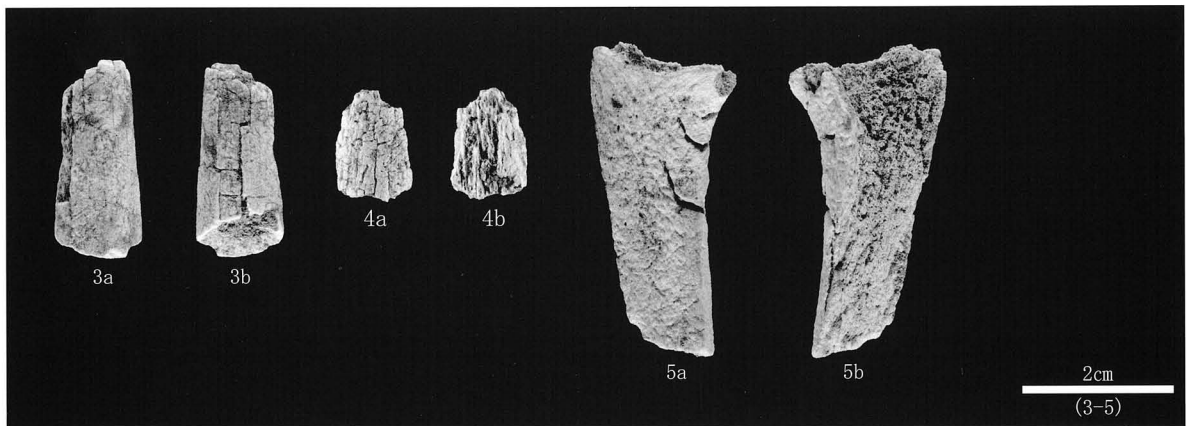
1. オニグルミ (No.1;B区D26 3層)

2. モクレン属近似種 (No.2;B区D28)

a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μ m: 1-2a

200 μ m: 1-2b, c



3. ニホンジカ? 角? (No.1;B区H2)

4. 獣類 部位不明破片 (No.2;B区D26 No.3)

5. 大型獣類 肋骨? (No.3;B区D35)



馬瀬口遺跡Ⅱ調査区 東より



H 1号住居址 東より



H 1号住居址掘り方 東より



M 5号溝状遺構 東より



M 3号溝状遺構 東より



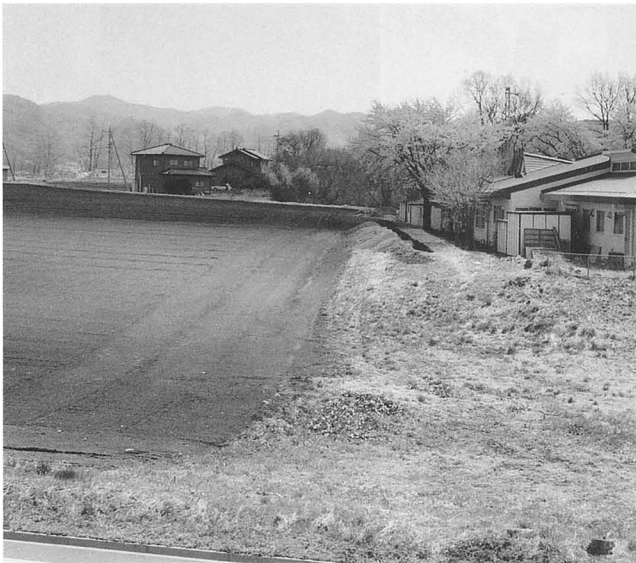
M 4号溝状遺構 東より



M 6号溝状遺構 東より



和田上遺跡Ⅱ調査地点より浅間山を望む



A地区遠景 西より



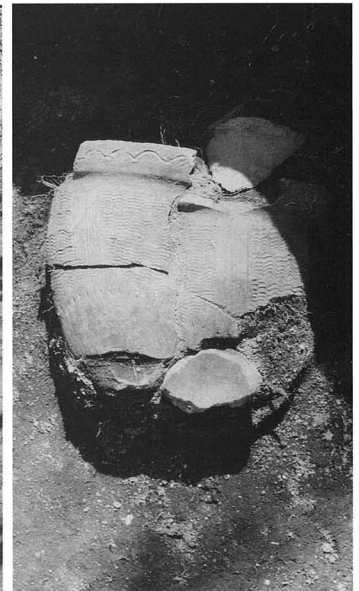
B地区近景 西より



A地区近景 西より



A地区 H1号住居址 西より



A地区 H1号住居址 遺物出土状況



A地区 H1号住居址掘り方 東より



A地区 H2号住居址 東より



A地区 H2号住居址 西より



A地区 H2号住居址 カマド



A地区 H2号住居址 カマド掘り方



A地区 H3号住居址 東より



A地区 H3号住居址掘り方 東より



A地区 H4号住居址 東より



A地区 H4号住居址掘り方 西より



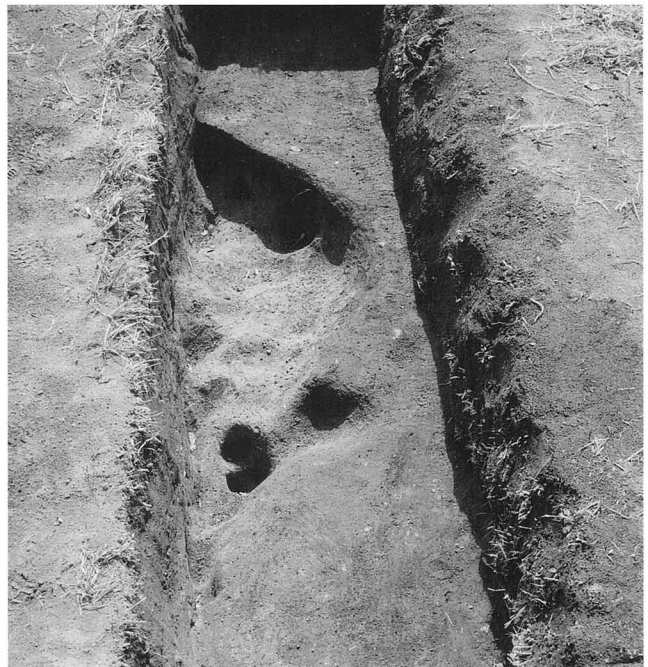
A地区 H4号住居址 炉



A地区 H4号住居址 炉掘り方



A地区 H5号住居址 東より



A地区 H5号住居址掘り方



A地区 H6号住居址掘り方 東より



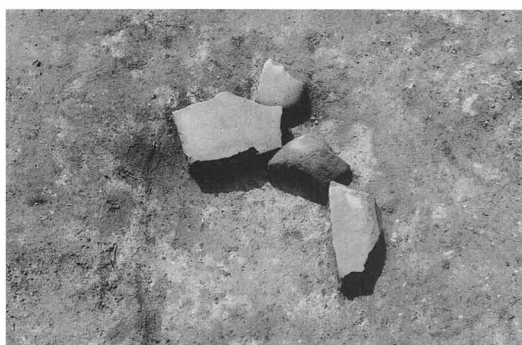
B地区近景 東より



B地区近景 西より



B地区 H1号住居址 東より



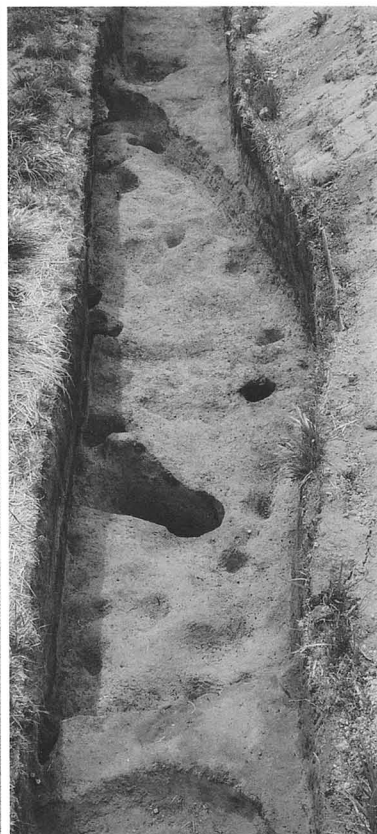
B地区 H1号住居址 炉



B地区 H1号住居址 掘り方



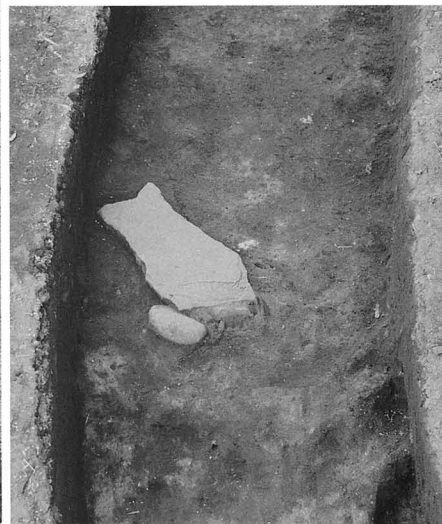
B地区 H2号住居址 東より



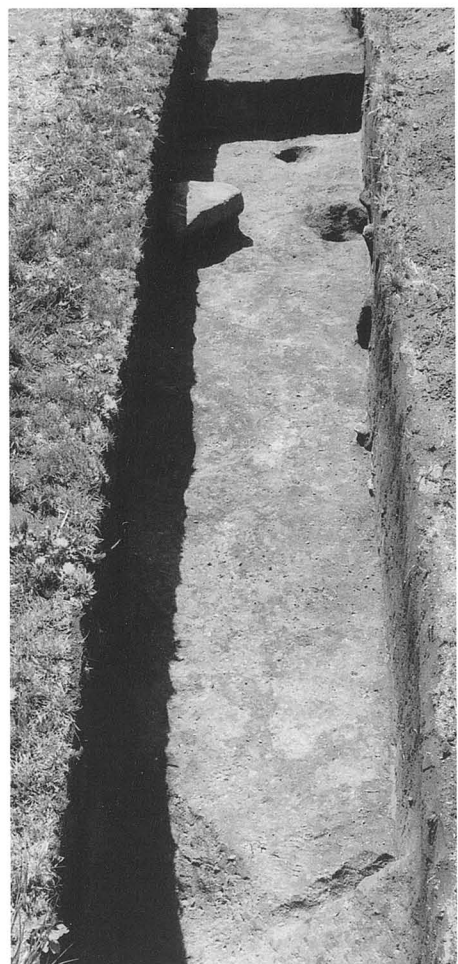
B地区 H2号住居址掘り方 東より



B地区 H2号住居址 遺物出土状況



B地区 H3号住居址 東より



B地区 H4号住居址 東より



B地区 H5号住居址 東より



B地区 H5号住居址掘り方 東より



B地区 H5号住居址 カマド



B地区 H6号住居址 東より



B地区 H7号住居址 西より



B地区 D1号土坑 北より



B地区 D2号土坑P2 北より



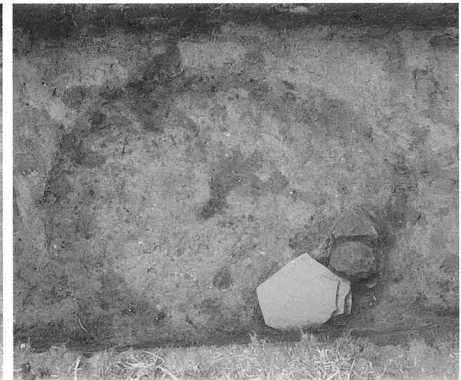
B地区 D3号土坑 北より



B地区 D4号土坑 南より



B地区 D5号土坑 北より



B地区 D6号土坑 南より



B地区 D7号土坑 南東より



B地区 D8号土坑 北より



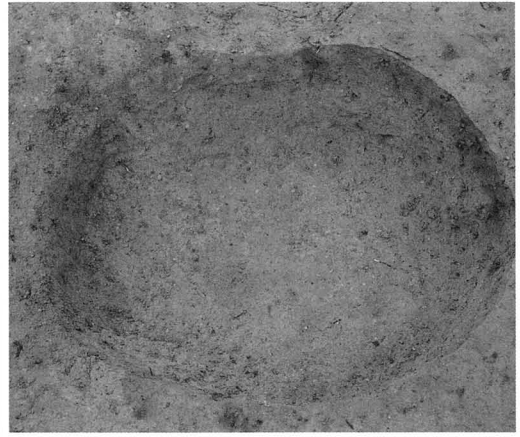
B地区 D9号土坑 北より



B地区 D 11号土坑 南より



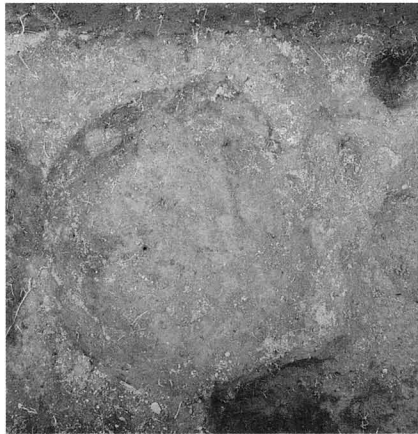
B地区 D 12号土坑北より



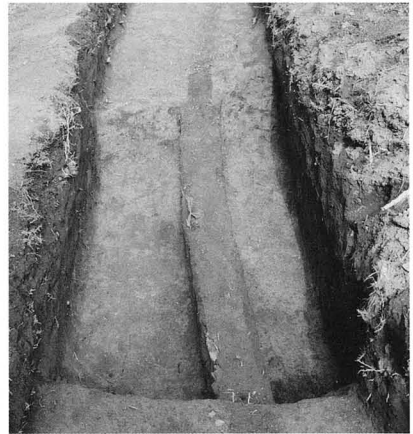
B地区 D 13号土坑



B地区 D 14号土坑



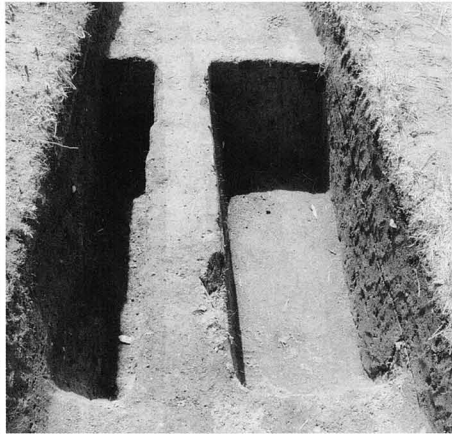
B地区 D 15号土坑



B地区 D 16号土坑 南東より



B地区 D 17号土坑 南東より



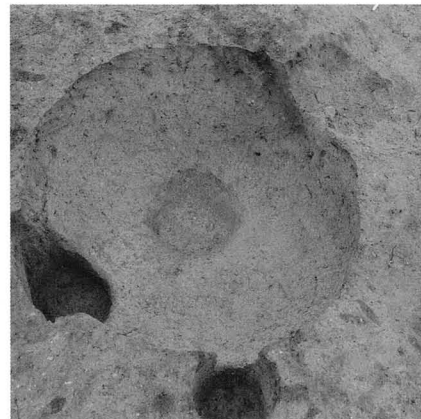
B地区 D 18号土坑 北西より



B地区 D 19号土坑 南より



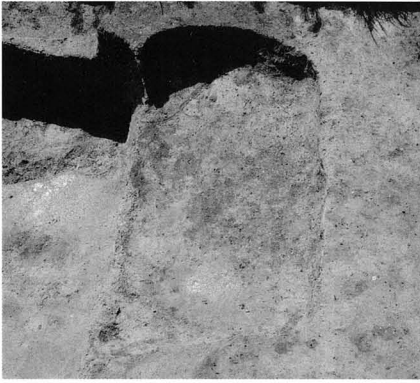
B地区 D 20号土坑 北より



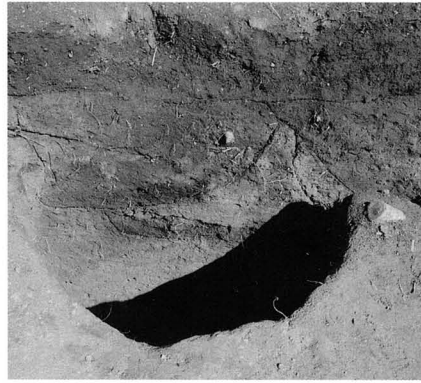
B地区 D 21号土坑



B地区 D 22号土坑 南より



B地区 D 23号土坑



B地区 D 24号土坑 西より



B地区 D 25号土坑 北東より



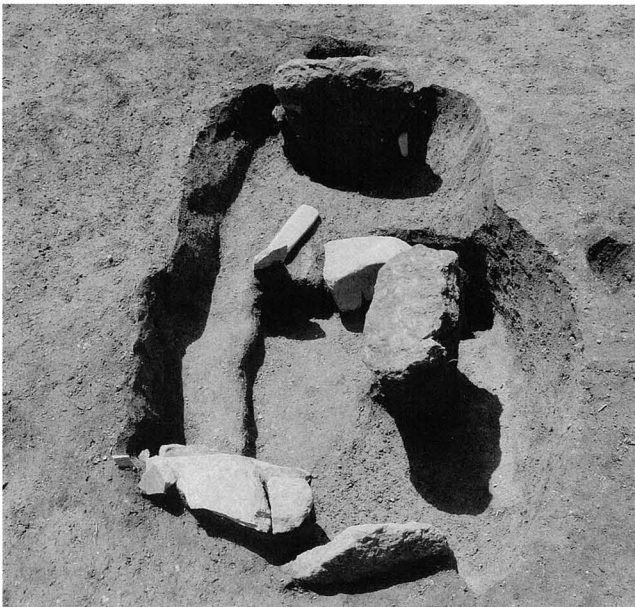
B地区 D 26号土坑 北東より



B地区 D 28号土坑 南西より



B地区 D 30号土坑 南東より



B地区 D 27号・D 33号土坑 南東より



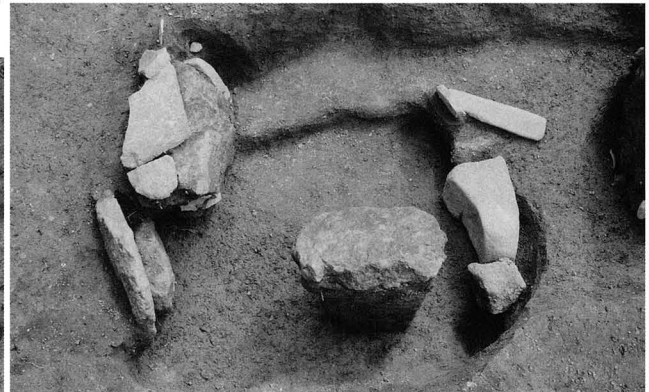
B地区 D 27号・D 33号土坑 北東より



B地区 D 31号土坑 東より



B地区 D 32号土坑 南より



B地区 D 33号土坑 遺物出土状況 北東より



B地区 D 33号土坑 北東より



B地区 D 34号土坑 北東より



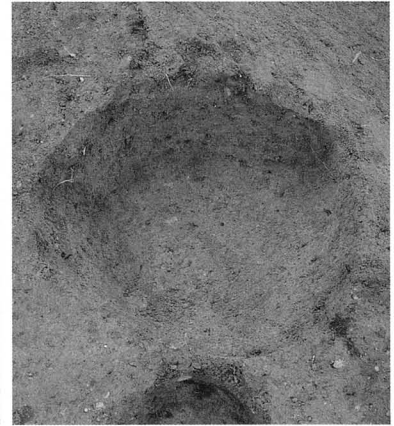
B地区 D 35号土坑 南西より



B地区 D 36号土坑 北より



B地区 D 38号土坑 北東より



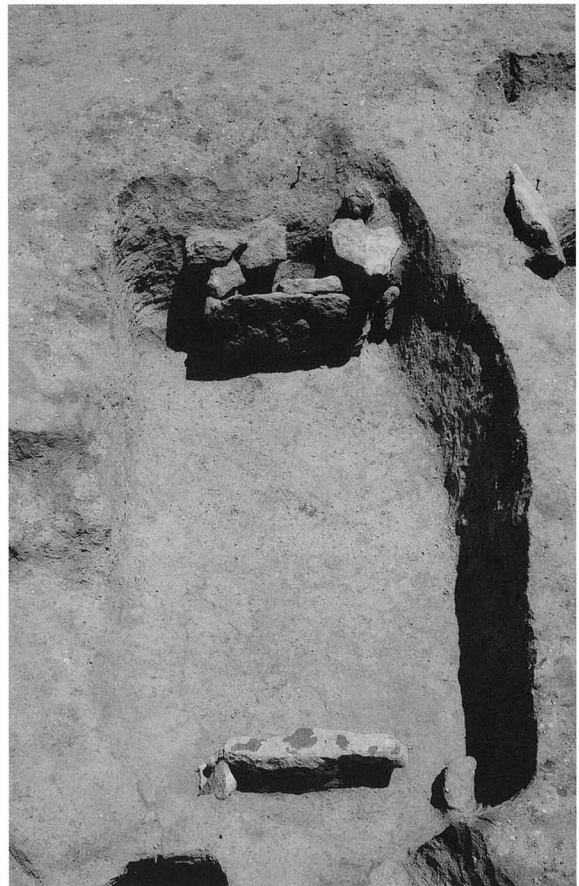
B地区 D 39号土坑 北西より



B地区 D 40号土坑 東より



B地区 D 41号土坑



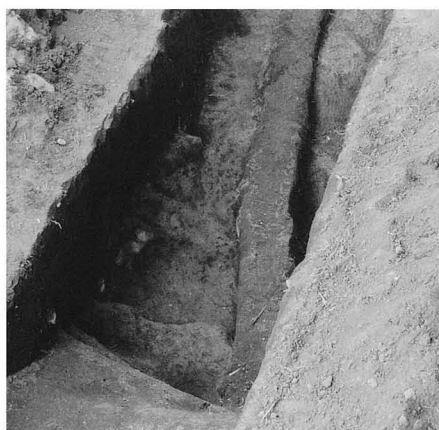
B地区 D 41号土坑 遺物出土状況



B地区 D 42号土坑 東より



B地区 D 43号土坑



B地区 M 2号溝状遺構 北西より



B地区 M 1号溝状遺構 西より



B地区 M 1号溝状遺構 東より



B地区 M 1号溝状遺構 遺物出土状況



B地区 M 3号溝状遺構



B地区 P 3 南より

A 地区遺構出土遺物



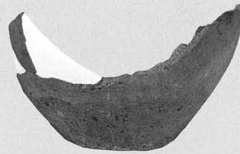
3-(H1-4)



3-(H1-1)



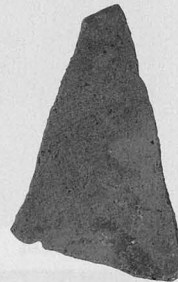
4-(H2-1)



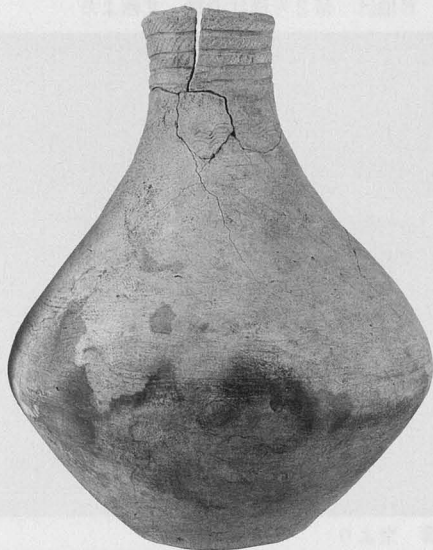
4-(H2-21)



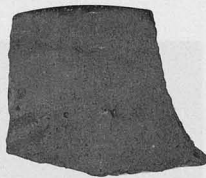
4-(H2-25) 1:2



4-(H2-9) 1:1



5-(H4-1)



4-(H3-1) 1:2



4-(H3-8)



4-(H3-11)



4-(H3-10)



4-(H3-9)



4-(H3-7)



4-(H3-6) 1:6

B 地区遺構出土遺物



8-(H1-2)



11-(H2-1)



11-(H2-12)



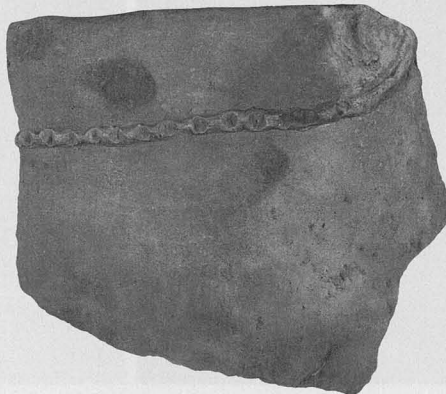
11-(H2-11)



15-(H5-5)



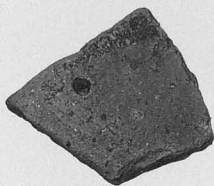
17-(H6-3)



20-(D2-2)



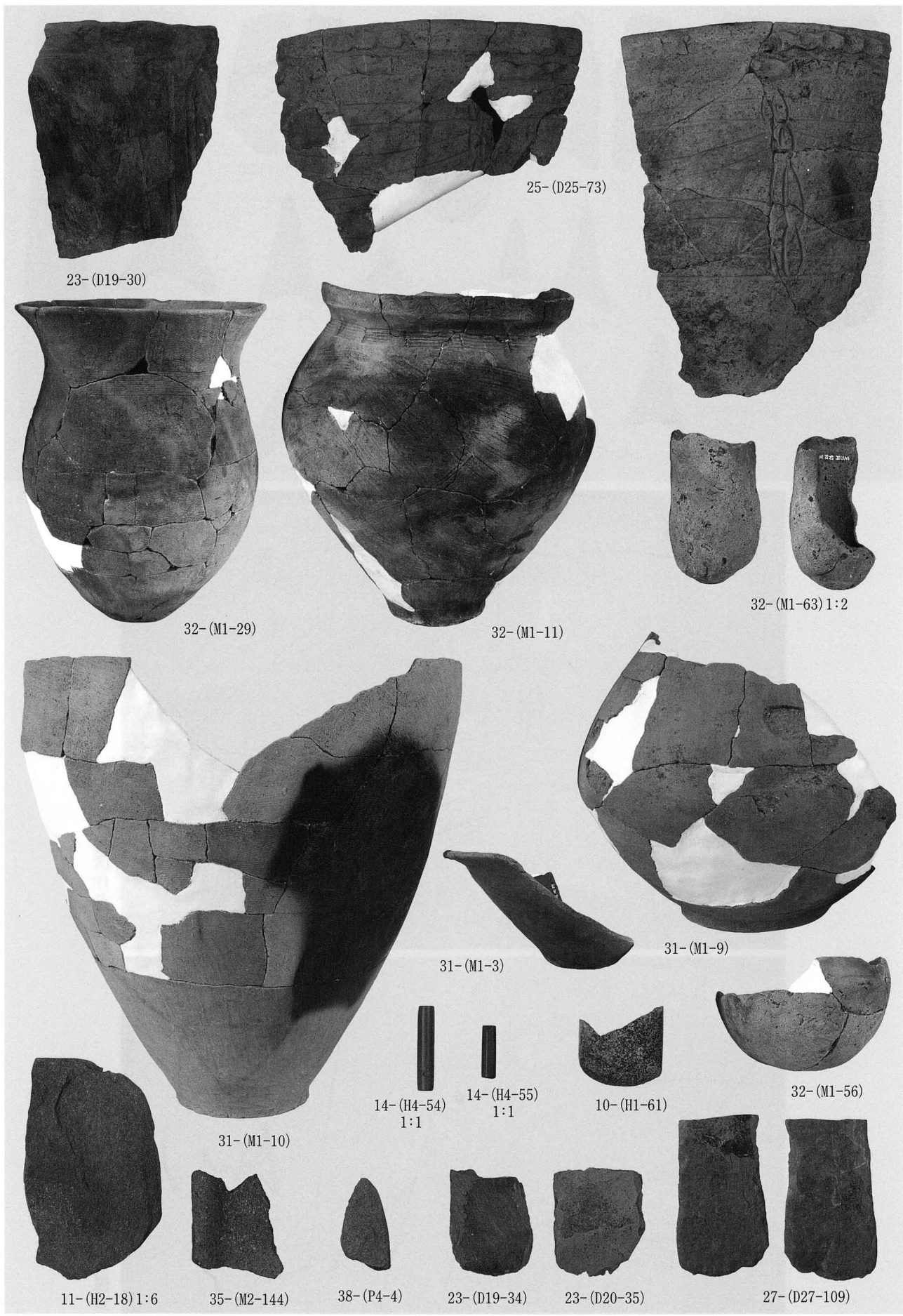
22-(D16-26)

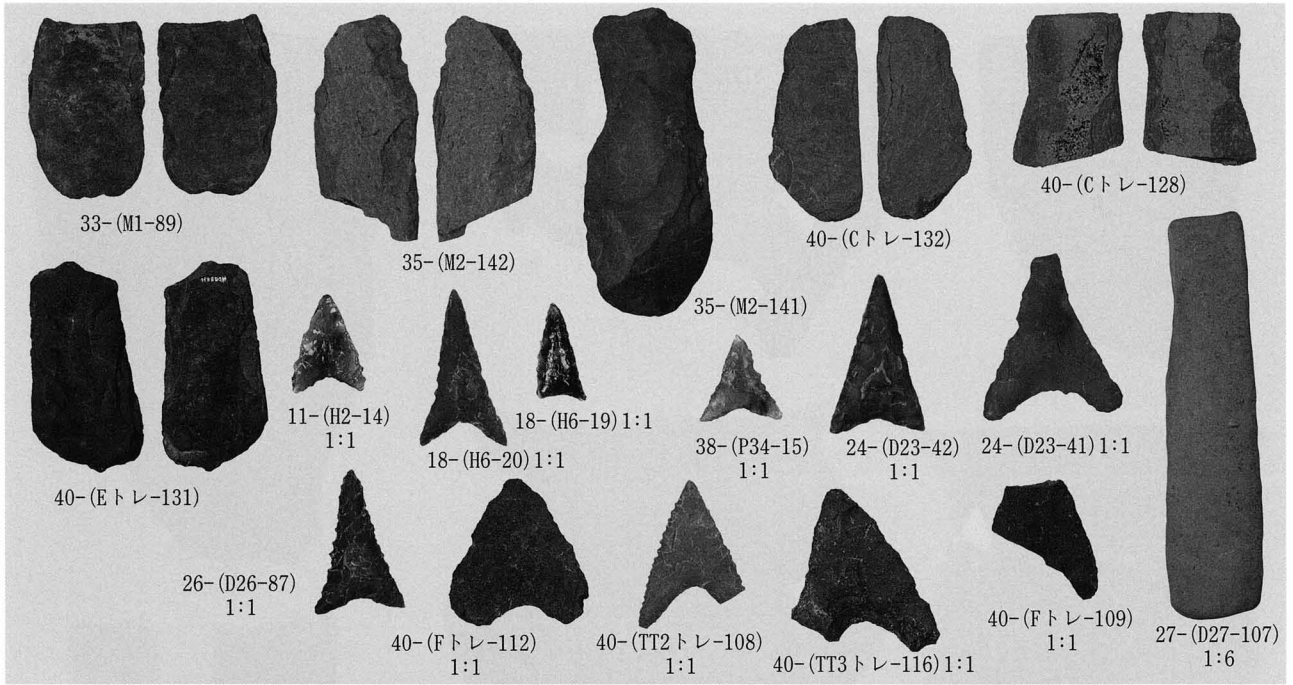


15-(H5-6) 1:1



30-(D40-178)





A地区作業風景



B地区作業風景

報告書抄録

書名	高師町遺跡群和田上遺跡Ⅱ・馬瀬口遺跡群馬瀬口遺跡Ⅱ	
ふりがな	たかしまちいせきぐんわだうえいせきに ませぐちいせきぐんませぐちいせきに	
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書	
シリーズ番号	第206集	
編著者名	林 幸彦 佐々木 宗昭	
編集・発行機関	佐久市教育委員会	
発行年月日	2013.3.25	
郵便番号	385-0006	
電話番号	0267-68-7321	
住所	長野県佐久市志賀5953	
遺跡名	高師町遺跡群和田上遺跡Ⅱ (WDⅡ)	馬瀬口遺跡群馬瀬口遺跡Ⅱ (SMMⅡ)
遺跡所在地	佐久市瀬戸2-2,30-1他	佐久市瀬戸86-1他
遺跡番号	129	250
経度	138°-29'-37" (世界測地系)	138°-29'-21" (世界測地系)
緯度	36°-15'-04" (世界測地系)	36°-15'-06" (世界測地系)
調査期間	2011.4.4~2011.6.8 (現場) 2011.4.26~2013.3.25 (整理)	2011.4.4~2011.4.22 (現場) 2011.4.26~2013.3.25 (整理)
調査面積	350.25㎡	43.2㎡
調査原因	佐久リサーチパーク供給線新設工事	佐久リサーチパーク供給線新設工事
種別	集落址	集落址
主な時代	縄文時代草創期・早期・中期・後期、 弥生時代中期・後期 古墳時代後期、平安時代	古墳時代後期、平安時代
遺跡概要	遺構 竪穴住居址13軒 (縄文後期、弥生中期、平安) 土坑47基 溝状遺構4条 ピット36基 遺物 縄文土器・土製品 弥生土器 土師器 須恵器 鉄器 石器	遺構 竪穴住居址1軒(平安) 溝状遺構4条 ピット2基 遺物 土師器 須恵器
特記事項	縄文時代後期前半の石棺墓が検出された。 佐久市内では、希少な縄文時代後期の多くの土器・石器等が出土した。 弥生時代中期栗林式期の環濠が検出された。	平安時代馬瀬口遺跡集落の西への広がりが確認された。

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第206集

高師町遺跡群 和田上遺跡Ⅱ

馬瀬口遺跡群 馬瀬口遺跡Ⅱ

2013年3月

編集・発行 長野県佐久市教育委員会

長野県佐久市中込3056

文化財課

長野県佐久市志賀5953

電話 0267-68-7321

FAX 0267-68-7323

印刷所 株式会社 佐久印刷所
